

大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（第3回）

日時：令和2年1月28日（火）13:00～

場所：上川町保健福祉センター2階ホール

議事次第

1. 開会

2. 議事

（1）大雪山国立公園ビジョン（とりまとめ案）

（2）大雪山国立公園連絡協議会の規約改正案について

（3）大雪山国立公園ビジョン策定、大雪山国立公園連絡協議会改組記念シンポジウムの開催について

（4）その他

3. 閉会

資料一覧

資料1 大雪山国立公園ビジョン（とりまとめ案）

資料2 大雪山国立公園連絡協議会の規約改正案

資料3 大雪山国立公園ビジョン策定、大雪山国立公園連絡協議会改組記念シンポジウム「みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園」

参考資料1 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築について

参考資料2 大雪山国立公園ビジョン作成に関する参考資料集

参考資料3 大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（第2回）
議事概要

大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（第3回） 出席者名簿

	機関・団体名	所属	役職等	氏名
関係行政機関	北海道上川総合振興局	環境生活課	課長	菱沼 貴志
			主査（山岳環境）	福井 拓郎
			主事	中里 海斗
	北海道十勝総合振興局	環境生活課	主任	牛嶋 あすみ
	富良野市			笹田 武志
	上川町	産業経済課	課長補佐	藤井 吉光
	東川町	旭岳ビジターセンター	所長	三島 光博
	美瑛町	経済文化振興課	主任	水本 英樹
	上富良野町	企画商工観光課	主幹	上嶋 義勝
	南富良野町			欠席
	士幌町			欠席
	上士幌町	商工観光課	主幹	吉永 雅一
	鹿追町	商工観光課	観光振興係長	橋爪 奈都恵
	新得町			欠席
	上川中部森林管理署		署長	中澤 文彦
			総括森林整備官	橋本 雅俊
			森林整備官 （経営・森林ふれあい）	山下 誠護
			地域統括森林官	二階堂 辰也
			首席森林官	本間 秀樹
			首席森林官	高橋 秀典
	上川南部森林管理署		森林官（上富良野担当区）	中嶋 博司
			事務管理官（管理担当）	日野 道俊
	十勝西部森林管理署東大雪支署			欠席
	北海道開発局	開発監理部 開発連携推進課	上席開発計画専門官	村田 陽子
	北海道運輸局	旭川運輸支局	首席運輸企画専門官	山角 雄一
観光協会	（一社）層雲峡観光協会		専務理事	穴戸 重之
	（一社）ひがしかわ観光協会		代表理事	浜辺 啓
	（一社）美瑛町観光協会		事務局長	庄司 篤史
	（一社）かみふらの十勝岳観光協会		会長	青野 範子
			事務局長	長田 公一
	（一社）ふらの観光協会		事務局長	石川 芳
	NPO 法人南富良野まちづくり観光協会		事務局理事	小林 茂雄

（裏面へ続く）

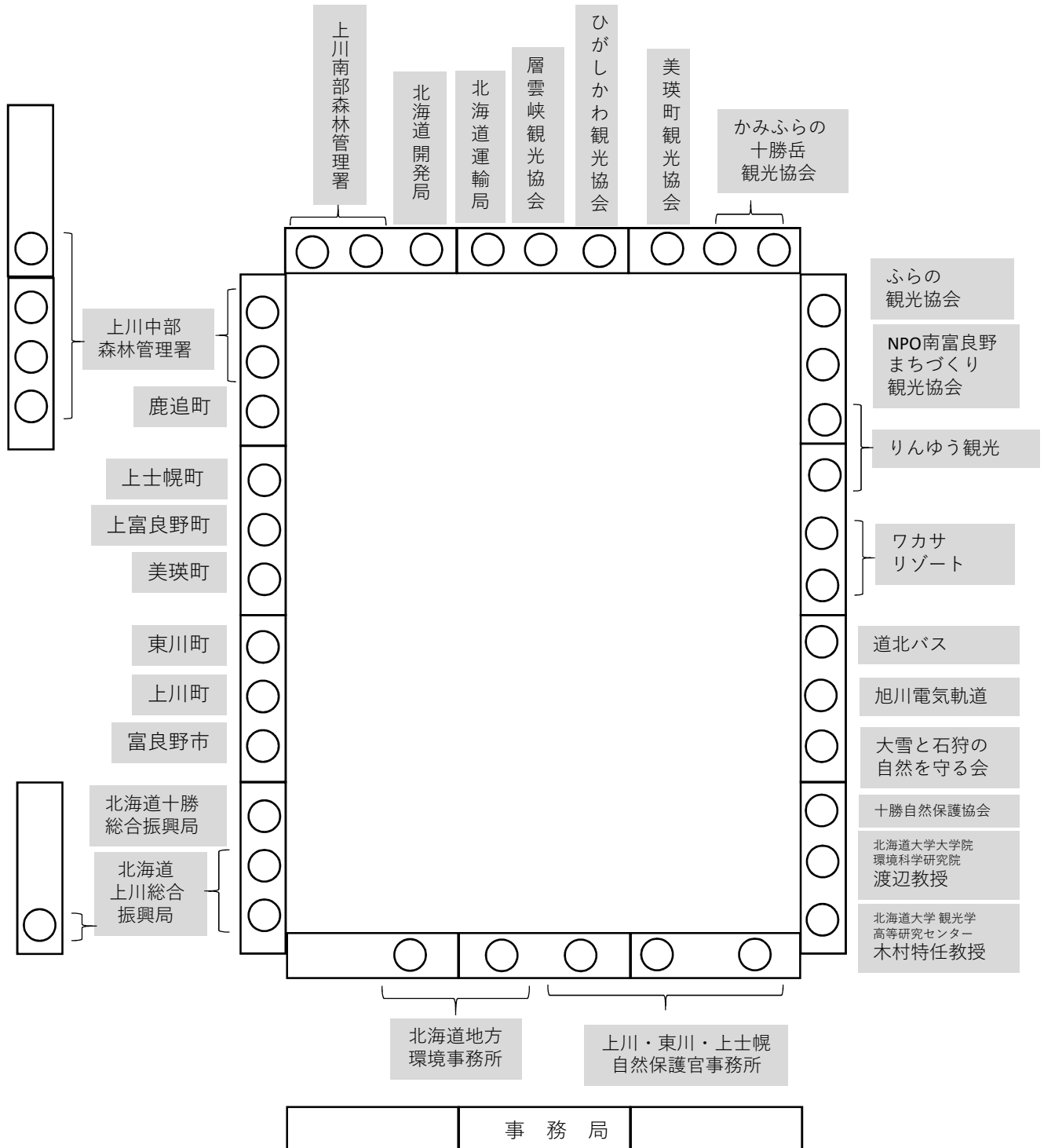
交通事業者	(株) りんゆう観光		代表取締役社長	植田 拓史
		層雲峡事業所	所長	山崎 弘二
	ワカサリゾート (株)	旭岳ロープウェイ	索道部次長	遠藤 毅
			索道部係長	尾田 真一
	道北バス (株)		運輸部長、 旭川営業所長	福内 直樹
	旭川電気軌道 (株)	運輸部	次長	矢野 寿典
	十勝バス (株)			欠席
自然保護団体	北海道拓殖バス (株)			欠席
	大雪と石狩の自然を守る会		代表	寺島 一男
研究者	十勝自然保護協会		事務局長	川内 和博
	北海道大学大学院農学研究院		准教授 愛甲 哲也	欠席
	北海道大学大学院地球環境科学研究院		教授	渡辺 悌二
事務局	北海道大学観光学高等研究センター		特任教授	木村 宏
	北海道地方環境事務所		統括自然保護企画官	大林 圭司
	北海道地方環境事務所	国立公園課	課長補佐	若松 徹
	北海道地方環境事務所	国立公園課	自然保護官	塩野 啓一
	同 上川自然保護官事務所		首席自然保護官	榊 厚生
	同 東川自然保護官事務所		自然保護官	齋藤 明光
	同 上士幌自然保護官事務所		自然保護官	橋口 峻也

【座席表】

大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（第3回）

日時：令和2年1月28日（火）13:00～

場所：上川町保健福祉センター2階ホール



大雪山国立公園ビジョン

まもり、活かし、つなげよう

みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園

【とりまとめ案】

削除: 【案】

削除: <

コメントの追加 [A1]: 渡辺教授の御意見を反映

コメントの追加 [A2]: 大雪と石狩の自然を守る会の御意見を踏まえて修正

削除: ビジョンのキャッチコピー記載>

はじめに

「大雪山国立公園ビジョン～まもり、活かし、つなげよう みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園～」は、大雪山国立公園に影響を与える近年の自然的・社会的環境の変化に対応するとともに、課題を解決し、「大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園」、「魅力を活かし、質の高い利用体験ができる国立公園」、「つながっていく国立公園」を将来の目指す姿として実現するため、大雪山国立公園連絡協議会が策定したものです。

大雪山国立公園連絡協議会（私たち）は、このビジョンを協議会構成員の各関係者はもとより、利用者（観光客、登山者など）、大雪山国立公園に関心を持ち関わろうとするすべての人々、大雪山国立公園の周辺地域に住む人々みなさまと共有します。

そして、このビジョンをこれらすべての方々（みんな）の共通目標として位置づけ、一緒になり、それぞれができることを持ちより、連携、協力して、このビジョンを実現していきます。

【図】大雪山国立公園の概念図

コメントの追加 [A3]: 大雪と石狩の自然を守る会の御意見を踏まえて修正

削除: す

削除: が抱える

削除: (山岳地域の荒廃、利用拠点の低迷)

削除: 、

コメントの追加 [A4]: 事務局：ビジョン共有の対象主体を整理（人又は団体）

削除: と

コメントの追加 [A5]: 上士幌町の御意見を踏まえて追加

1. 大雪山国立公園の価値と歩み

(1) 大雪山国立公園の価値

大雪山国立公園（本ビジョンでは十勝川源流部原生自然環境保全地域も含む。）の広大で原生的な山岳景観は、日本でここだけにしかない、北海道、そして大雪山国立公園関係 10 市町が持つ優れた資源です。

広大な山岳景観は、中生代に海底に堆積した日高累層群が隆起し、その上に、新生代（主に第四紀）の火山活動により溶岩や火砕流が噴出して広大な高地が形成された²ことによるものです。この高地は表大雪地域、東大雪地域に共通する基盤ですが、表大雪地域では火山噴出物が厚く堆積したため広大で平坦な高山帯が形成され、東大雪地域では多くの樹海が形成されました。

また、山岳景観が広大であるため、その中に含まれる景観要素の多様性も際立っています。現在も噴煙を上げる旭岳や十勝岳などの活火山、十勝三股をはじめとする大きなカルデラのほか、大雪山の名にふさわしいたくさんの雪や雪氷現象、周氷河地形などが見られます。エゾオヤマノエンドウ、ホソバウルップソウなどの大雪山の固有種を含む高山植物のお花畑のほか、高層湿原も各地に見られます。ヒグマやナキウサギなどの哺乳類、ウスバキチョウ、アサヒヒョウモンなどの高山蝶をはじめとする昆虫など多種多様な動物が生息しています。森林は、針広混交林、針葉樹林帯、ダケカンバ帯、ハイマツ帯が垂直に分布し、各地の利用拠点では、峡谷と柱状節理、湖、滝、温泉が見られます。

【図】大雪山国立公園の地史的成り立ちの模式図

【写真】本文中に記述された動植物の写真（エゾナキウサギ、ウスバキチョウなど）

さらに、これらの景観要素には国際的な観点からも特徴あるものがあります。例えば、大雪山は周氷河地形が大規模に残された場所の南限であると考えられ、また、カムチャッカ半島、東シベリア、千島列島といった各地に成立する北方林が大雪山では同所的に見られます³。

大雪山国立公園の山麓部には、多くの温泉が湧いています。それぞれの開湯の歴史を背景として独特な温泉地の景観が形成され、国立公園の利用拠点となっています。温泉に入ること、大雪山国立公園の火山活動を感じながら、保養を楽しむことができます。また、高山帯には登山道が整備されており、風景探勝や登山を通じてこれらの広大で原生的な山岳景観を体験できます。

このように、大雪山国立公園は生物多様性、生態系、地形地質、利用のいずれについても優れた価値を持ち、さらにこれら以外の多様な観点からも高い評価を得ています。大雪山国立公園は、学術上の貴重性の観点から天然記念物に指定され、森林保護

コメントの追加 [A6]: 事務局 用語誤り修正

コメントの追加 [A7]: 事務局：公文書の用例にあわせて修正（以下同じ）

削除: 他

削除: 他

コメントの追加 [A8]: 上士幌町の御意見を踏まえて追加

削除: には、

削除: に

削除: 地

削除: を中心に

削除: が整備され

コメントの追加 [A9]: 事務局：利用に関する価値として、山麓部：温泉、高山帯：登山を取り上げたが、温泉についての記述が具体的でなかったため、追記。

削除: 、

削除: も

削除: な

削除: が持つ

削除: は

コメントの追加 [A10]: 大雪と石狩の自然を守る会の御意見を検討したうえで修正。

削除: 他

¹ これらの堆積はおおよそ 1 億 4000 万年前（日本シームレス地質図 <https://gbank.gsj.jp/seamless/download/downloadIndex.html>）。

² これらの堆積はおおよそ 500 万年～100 万年前（小嶋・野上ほか編 2003『日本の地形 2 北海道』東京大学出版会 p118, 129）。

³ 沖津進 2002『北方植生の生態学』古今書院

上の重要性の観点から森林生態系保護地域が設定されています。**また、地形・地質の観点からは、**とちか鹿追ジオパークが日本ジオパークに認定されたほか⁴、文化の観点からは、大雪山を含むストーリーが「カムイと共に生きる上川アイヌ～大雪山のふと

ころに伝承される神々の世界～」として日本遺産⁵に認定されました。**平成 15 年には、世界自然遺産の候補地の選定の検討対象となり、**顕著な価値があるとの意見（環境省・林野庁による平成 15 年世界自然遺産候補地に関する検討会）もあった**ほか、**大雪山国立公園を含む各地で様々な枠組みへの認定、登録に向けた取組が進められています。

これらの動きそのものも、国立公園の優れた**価値のあらわれ**であると言えます。

【図及び写真】とちか鹿追ジオパークの写真及びロゴマーク

【図及び写真】日本遺産の写真及びロゴマーク

コラム：大雪山について

大雪山という名称が文献上最初に登場したのは、1903(明治 36)年に松原岩五郎著「日本名勝地誌 第九編 北海道之部」(博品館発行)においてです。その後、1918(大正 7 年)に旭川中学校教諭の小泉秀雄が「北海道中央高地の地学的研究並植物分布の研究」を発表し、表大雪地域の北部を大雪山と呼称してその最高峰を旭岳とする整理を行いました。この考え方が現在でも一定の影響を持つのは確かです。

しかし、本ビジョン 1 (1)「大雪山国立公園の価値」において示したとおり大雪山国立公園の地史的成り立ちや、1934(昭和 9)年に大雪山国立公園が現在の区域で指定されて**85 年以上**が経過して大雪山の名称が公園区域全体で浸透したことを踏まえ、本ビジョンでは「大雪山」という場合、大雪山国立公園全体と捉えることとします。

なお、表大雪地域は、上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、富良野市、南富良野町の地域、東大雪地域は、**士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町**の地域を指すこととします。

(2) 大雪山国立公園の歩み

大雪山国立公園は 1934(昭和 9)年に指定されましたが、大雪山が有する価値を発掘して活かす取組は、それ以前から行われてきました。

国立公園制度ができる遙か以前の 1911(明治 44)年、当時の愛別村長、太田龍太郎が現在の層雲峡を「霊山碧水」と名付けて国立公園として経営すべきとの建白書(意見書)を逓信大臣に送付したのが最も古い記録です。また、1924(大正 13)年には実業家や研究者**(小泉秀雄など。コラムも参照)**が中心となり大雪山調査会が結成され、学術研究が大きく進展しました。その成果をもとに利用者向けの登山案内書やパンフレ

⁴ 日本ジオパーク委員会により平成 25 年 12 月認定。

⁵ 大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミタラ～神々の遊ぶ庭～として崇拝してきたことを含むストーリーで、文化庁により平成 30 年 5 月認定。

⁶ 笹川良江編・太田龍太郎著 2004『「大雪山国立公園」の生みの親 太田龍太郎の生涯―復刊「霊山碧水」―』北海道出版企画センター

コメントの追加 [A11]: 事務局: 文章表現の適正化

コメントの追加 [A12]: 大雪と石狩の自然を守る会

削除: 過去には

削除: にならなかったものの

削除: 他

コメントの追加 [A13]: 事務局: 文章表現の適正化

コメントの追加 [A14]: ひがしかわ観光協会の御意見を踏まえて修正

削除: 0

コメントの追加 [A15]: 事務局
市町村コード順に修正

削除: 新得町、鹿追町、

削除: 竜

コメントの追加 [A16]: 事務局: 検討して修正、注釈追記。人名表記適正化。

コメントの追加 [A17]: 大雪と石狩の自然を守る会の御意見を検討したうえで修正。

ットが作成され、高山植物保護地域の設定運動等が行われました。

大雪山国立公園の地域は、日本の中で先駆けて、自然資源の価値を科学的に明らかにし、保全を図ってきた特色ある地域であることを改めて認識する必要があります。

【写真】大雪山調査会が作成した書籍やパンフレット

第二次世界大戦後 60 年くらいは、戦後の復興、高度経済成長、その後のバブル経済等を背景として、大雪山国立公園内においても、観光をはじめとする産業と自然保護との調整が大きな課題となった時代でした。

大雪山の裾野はエゾマツやアカエゾマツを中心とする森林で覆われていました⁷が、1954(昭和 29)年の洞爺丸台風は大雪山に甚大な被害をもたらしました。これを機に風倒木の搬出、処理等によって林業が急速に隆盛し、風倒地以外での伐採も進みました。こうしたことによって、森林の蓄積量は半分以上となり、またトドマツが多くなるなどかつての森林とは異なる林相に変化しました⁸。また、硫黄等の鉱物資源の採掘、農業、生活用水等の確保のためのダム建設、観光道路の建設、電源開発（設備の建設のほか資源調査を含む）等の計画が進みました。

一方で、自然保護運動の盛り上がりにより大雪山国立公園の価値に及ぼす影響が著しい建設計画は中止されました。

【写真】観光道路のキャッチフレーズ「下駄ばきでお花畑へ」を象徴する当時の写真

21 世紀に入り持続可能な社会の構築が社会全体の課題となりました。

2006(平成 18)年には全国の国立公園に先駆けて、原生的な雰囲気の有無など、自然環境に合わせて登山体験を享受できるような登山道の整備や維持管理を目指した、登山道の管理水準（現在の「大雪山グレード」）が定められました⁹。

2007(平成 19)年に策定した大雪山国立公園管理計画では、重要な自然環境を厳正に保全しつつ体験するために必要な利用空間を確保して自然とのふれあいを増進するといった、保護と利用をバランスよく両立させるワイズユースの考え方が打ち出されました。

また、この頃から表大雪地域の一部を中心として携帯トイレを普及する取組が始ま

コメントの追加 [A18]: 事務局：本ビジョンの他の箇所の書きぶりと統一

削除: さきがけて

削除: 間の

コメントの追加 [A19]: 十勝自然保護協会の御意見を踏まえて修正

削除: 1954(昭和 29)年の洞爺丸台風により発生した風倒木処理のため、林業が急速に隆盛し…

削除: たほか

削除: 発電源や

コメントの追加 [A20]: 大雪と石狩の自然を守る会の御意見を踏まえて修正

削除: 他

⁷ 北海道 1975「大雪山自然生態系総合調査 中間報告（第 1 報）―十勝川流域―」p34、同 1976「大雪山自然生態系総合調査 中間報告（第 2 報）―石狩川流域―」p180

⁸ 石狩川源流域においては、風倒跡に成立した森林は、風倒前の優占種であったエゾマツやアカエゾマツに代わり、トドマツが優占する林分やカンバ類やヤナギ類が優占する林分となっており、また、材積も、風倒被害を受けていない原生保護林の材積（620 m³/ha）と比べて 20～55%となっている（北海道森林管理局 2015「石狩川源流森林総合調査（第 4 次）報告書」p7-8, 27-28）。被害率が石狩川源流域より低かった十勝川源流域においても、十勝川源流部原生自然環境保全地域の林分が 400 m³/ha の材積を有しているのに対し、その周辺の林分の材積は 200 m³/ha 未満となっている（長池卓男・久保田康裕 2000「自然保護区管理と森林施業―大雪山国立公園を事例に―」遺伝 54 巻 9 号, p59）。

⁹ 平成 27 年度改訂。

りました。この動きは、2018(平成30)年には大雪山国立公園連絡協議会と道内の山岳関係18団体が共同で「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」を発出することに結実し、官民が連携して大雪山国立公園全体で携帯トイレを普及する方針が対外的に発信されました。「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」により、これまで大きな問題とされていたトムラウシ南沼野営指定地や美瑛富士避難小屋周辺に携帯トイレブースの増設や新規設置が行われたほか、関係団体が協力して行う維持管理や普及啓発に向けた動きが進んでいます。

本格的な少子高齢化、人口減少社会を迎える中で、自然環境保全をはじめとする環境問題は、経済や社会の課題と相互に密接に関連し、複雑化しています。今後は、大雪山国立公園では2007(平成19)年策定の管理計画の考え方を継承しつつも、国立公園の管理運営においては、地域社会の課題解決に国立公園が寄与するといった発想のもとで関係者が連携していくことも重要となっています。

コラム：大雪山グレード

大雪山グレードは、登山道を自然条件や管理状況などを基に5段階にランク付けして登山道の管理水準を示し、それぞれの特徴に応じた維持管理や適正な利用を推進するものです。

維持管理にあたっては、原生的な自然が色濃く残る山岳地域の登山道では自然の雰囲気を保つことを最優先とする一方、利用拠点からのアクセスがよい山麓地域に近い登山道では快適に歩くことができるような維持管理水準としています。

また、利用者には、原生的な雰囲気が残る登山道では高度な登山技術を要し難易度が高いことを示す一方、利用拠点からのアクセスがよい山麓地域に近い登山道では難易度は低く多様な利用者が利用できることを示しています。このように、利用者に対して自己責任で行動判断を行う時の目安(区間における行動判断の要求度や難易度)を示し、力量に応じた登山を推奨するものです。

北海道地方環境事務所で2006(平成18)年に策定され、2015(平成27)年6月に改定されています。

- | | |
|----------|----------------------|
| 大雪山グレード1 | 大雪山の自然とふれあう探勝ルート |
| 大雪山グレード2 | 大雪山の自然とふれあう軽登山ルート |
| 大雪山グレード3 | 大雪山の自然を体感する登山ルート |
| 大雪山グレード4 | 大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート |
| 大雪山グレード5 | 大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート |

削除: の発出

削除: を中心として普及啓発活動や

コメントの追加 [A21]: 事務局: 既に携帯トイレブースが設置されたことに伴う時点修正

削除: に向けた動きが進んでいます。

コメントの追加 [A22]: 事務局: 文章表現の適正化

削除: の

コメントの追加 [A23]: 事務局: 文章表現の適正化

削除: の

2. 大雪山国立公園の現状と課題

(1) 大雪山国立公園に影響を与える自然的・社会的環境の変化

1) 気候変動

人間活動の拡大に伴う温室効果ガスの排出により、気候変動が生じ、気温が上昇し、また、極端な降水や熱波が頻繁に発生する可能性も非常に高くなっています。大雪山国立公園では、高山植生の生育適地の減少、紅葉の色づきの低下、山岳地域での降水量の増加、ササや亜高山帯森林植生の拡大が予測されました。

これにより、紅葉の色づきの低下による観光への影響や、降水量の増加による登山道の侵食、荒廃の深刻化が懸念されます¹⁰。さらに、近年、大雪山国立公園内でも局地的な集中豪雨により、登山口へアクセスする道が崩壊する被害も生じています。

また、暖冬の影響によりエゾシカの分布が拡大し、大雪山国立公園の高山植生についても、採食や踏圧による植生や景観の変化が見られています。

【写真】ササの広がりを示す五色ヶ原の写真

【図】将来気候における紅葉最盛日の変化（2096～2100年、RCP8.5の場合）

削除: .

コメントの追加 [A24]: 十勝自然保護協会の意見を反映

削除: 息

コメントの追加 [A25]: 事務局：文章表現の適正化

削除: り

2) 人口減少と高齢化、ライフスタイルの変化及び価値観の多様化

大雪山国立公園関係市町の人口は減少傾向であり、人手不足が生じています¹¹。国立公園に関係するNPOや地域活動団体、観光、交通等の業界でも同様に、特に施設の維持管理を行う関連業界（例えば、建築、土木、電気等）で担い手不足が深刻です。

ライフスタイルの変化と価値観の多様化はレジャーの多様化ももたらしました。

余暇活動の参加人口のうち、国内観光旅行は2011年以降連続して1位であるものの、その数は減少しています。一方、余暇活動の内容は多様になっています¹²。旅行形態についても、団体旅行から個人旅行へ変化し、個人の指向や好みに合ったスタイルに変化しました。

温泉地に団体で宿泊して景勝地を探索する旅行形態を前提としてサービスを提供する宿泊施設や事業者は苦戦する一方、その場所でしか見られない特色のある資源を発掘して活用した特定の地域がSNS等で話題になり、その地域の旅行者数だけが伸びるという二極化の状況も生じています。

【写真】美瑛町青い池

ライフスタイルの変化や価値観の多様化の背景には、近年の情報通信技術の急速な

削除: る一方

削除: さらに

コメントの追加 [A26]: 事務局：文章表現の適正化

¹⁰ 国立研究開発法人国立環境研究所 2018「平成29年度生物多様性分野における気候変動への適応策検討業務報告書」

¹¹ 2014（平成26）年に有効求人倍率が1倍を超えた。

¹² 公益財団法人日本生産性本部 レジャー白書概要発表資料 2009～2018

進展もあると考えられます。利用者は旅行や登山に必要な情報の多くをスマートフォンから得ようになりつつあります。また、ドローンなどの無人小型航空機（UAV、以下「ドローン等」という。）の小型化により、調査研究や趣味で活用できる機会が増える一方、利用者間でトラブルも生じています。このように、近年の様々な情報通信技術の進展により、大雪山国立公園に関する情報の入手方法や利用方法も変化しています。

3) 外国人利用者の増加

政府による観光立国の実現に向けた取組を背景に、我が国の外国人観光客数は急速に増加しています。また、国立公園においては、2016（平成 28）年に訪日外国人利用者数を 2020 年までに 1,000 万人にすることを目標とした、「国立公園満喫プロジェクト」が立ち上がり、官民連携でのインバウンド対応の取組が今まさに進められています。

北海道を訪れる外国人の数はこれまで 60～70 万人で推移してきましたが、平成 25 年に 100 万人を超え、現在 300 万人に到達する勢いです¹³。統計情報がある層雲峡地区においても、ここ数年で、外国人宿泊者数は 20 万人を越え、層雲峡ビジターセンターの利用者についても外国人が 3 千人程度から 6 千～7 千人に増加しました。

山岳地域、山麓地域を問わず、数多くの外国人旅行者が大雪山国立公園に訪れるようになったといえます。山岳地域では冬期も含めた外国人利用者が増加する一方、遭難事故の増加が問題となっています。

政府は観光を我が国の基幹産業に成長させて観光先進国を目指す¹⁴等、観光政策を重視することとしており、今後もさらなる訪日外国人の増加が予想されます。

【図】北海道を訪れる外国人観光客数（2008～2018 年）

【図】大雪山国立公園の利用者数の変化（1998～2018 年）

【図】大雪山国立公園における外国人利用者数の変化（よいデータがあれば、予測も含む。）

（2）大雪山国立公園の課題

気候変動、人口減少と高齢化、ライフスタイルの変化、価値観の多様化、技術の進展、外国人利用者の増加といった自然的・社会的変化に対応し、次の課題をも解決していく必要があります。

1) 山岳地域の荒廃

①保全上の課題

i) 植生等の変化

削除: すべて

削除: (

コメントの追加 [A27]: 事務局：文章表現の適正化。

削除:)

コメントの追加 [A28]: りんゆう観光の御意見を踏まえて修正

削除: の軌轢

削除: 問題となって

削除: 急速な

コメントの追加 [A29]: 北海道開発局開発連携推進課の御意見を踏まえて修正

削除: は、大雪山国立公園の情報提供や利用のあり方にも影響を及ぼしつつあります…

コメントの追加 [A30]: 事務局：文章表現の適正化

削除: に

削除: が

削除: すること

削除: するほか

コメントの追加 [A31]: 北海道開発局開発連携推進課の御意見を踏まえて修正

削除: は、大雪山国立公園の課題にも大きく影響しています…

¹³ 北海道経済部観光局資料

¹⁴ 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議「明日の日本を支える観光ビジョン―世界が訪れたい日本へ―」（2016（平成 28）年 3 月）

大雪山国立公園では、気候変動を背景とした気温や積雪の変化、エゾシカの分布拡大、ササの拡大などにより、高山植物のお花畑が減少し、生物多様性への影響が懸念されています。

また、近年、外来生物法に基づく特定外来生物であるセイヨウオオマルハナバチが大雪山国立公園の高山帯で確認されることもあります。仮に定着してしまえば、在来マルハナバチが駆逐され、高山植物の生育に大きな影響が出る¹⁵ことが懸念されています。

また、大雪山国立公園には延長約300kmの登山道があります。登山者の踏圧や近年の局地的な集中豪雨などにより荒廃が進むと、登山道が拡幅したり、登山道外へ土砂が流出したりします。これにより、登山道沿いの高山植生が減少・衰退しています。登山者がし尿を排するために登山道から外れて歩くことでも、高山植生が衰退しています。

ii) 地形や土壌の侵食

登山者の踏圧や集中豪雨などにより荒廃が進み、登山道が拡幅したり、登山道外に土砂が流出したりすることにより、被植階状土をはじめとする周氷河地形が消失した場所も見受けられ、地形や土壌の侵食も課題です。

② 利用上の課題

i) 施設の荒廃と老朽化

大雪山国立公園の登山道は、火山噴出物に由来することから脆弱であり、登山利用による一定の荒廃は避けられず、対策をせず放置すると荒廃が止まらない区間もあります。現在、国立公園内の登山道の約75%が保全上の課題がある区間とされています。荒廃した登山道は歩きにくく、利用体験の質の低下につながります。なお、登山者は歩きやすい場所を求めて登山道の脇を歩き、さらに登山道の拡幅が進むなど、自然環境保全上の課題と密接に関連しています。

また、誘導標識、案内板、避難小屋等の施設の老朽化も課題です。

【図】大雪山国立公園の歩道の荒廃状況（保全対策ランクの区間を示した図）

【写真】登山道侵食

ii) し尿の問題

トイレの無い野営指定地や避難小屋を中心として、野外のし尿処理が問題となっています。登山道から外れて植生帯へ踏み込むことによる自然環境保全上の課題があるほか、排泄物やトイレトペーパーが放置されることによる景観の悪化や利用体験の質の低下が生じています。

【写真】野外し尿散乱（ティッシュ等、トイレ道）

¹⁵ 巣の乗っ取り等の直接的な駆逐以外にも、在来マルハナバチの繁殖の阻害、盗蜜による高山植物の種子生産阻害、繁殖が妨げられる可能性がある（「大雪山高山帯におけるセイヨウオオマルハナバチ防除の考え方」（平成30年2月、北海道地方環境事務所））。

削除: エゾシカの生息域が拡大したり、…候変動を背景として…温や積雪の変化、により融雪が時期が早まり、まり土壌がの乾燥化し…が進んだりすることにより…ゾシカの分布が…大、ササの拡大などすることにより、が要因であると思われる高山植生の変化（…山植物のお花畑がの…少し、ササがの侵入しや拡大する）といった高山植生の変化が生じて

… [1]

削除: 大雪山国立公園で多種多様な高山植物が生育するのは、在来マルハナバチとの共生関係があることによるものですが、近年は、…来生物生物…に基づく特定外来生物であるセイヨウオオマルハナバチが大雪山国立公園の高山帯で確認されることもあります。

… [2]

コメントの追加 [A32]: 上川総合振興局の御意見を踏まえて修正

… [3]

削除: 本来その場所で生育していた…山道沿いの高山植生が減少・衰退しています。登山者がし尿を排する

… [4]

コメントの追加 [A33]: 事務局: 文章表現の適正化

コメントの追加 [A34]: 渡辺教授の御意見を反映、十勝自然保護協会の御意見を踏まえて修正

削除: 地質

削除: の…幅したり、や…山道外にへの…砂が流出したりするする…

… [5]

コメントの追加 [A35]: 事務局: 文章表現の適正化

コメントの追加 [A36]: 渡辺教授の御意見を反映、十勝自然保護協会の御意見を踏まえて修正

削除: 地質

コメントの追加 [A37]: 事務局: 文章表現の適正化

削除: 起因する…来することから脆弱な路面…ありするため…

… [6]

削除: 各

削除: 他

削除: 定着した場合、在来マルハナバチを駆逐し、…蜜による高山植物の種子生産結実…害、繁殖が妨げられる可能性がある（「大雪山高山帯におけるセイヨウオオマルハナバチ防除の考え方」（平成30年2月、北海道地方環境事務所））。

… [7]

iii) 情報提供

大雪山国立公園では、特に誘導標識や案内板の多言語表記が不十分であり、外国人利用者の利用に問題が生じています。また、登山利用に関する情報を集約して発信する必要性が増してきています。近年、日本人、外国人問わず、多くの登山者が情報を得ているスマートフォンを通じて大雪山国立公園の登山道に関する基礎的な情報を、実際に来る前に多言語により得ることができるようにする必要があります。

iv) 利用者間、利用者・管理者間で生じる問題

ドローンなど近年進展している新しい技術は、これまで山岳地域で利用されたことはないため、原生的な自然環境になじまないと考える利用者に不安や不快感を与え、利用者間でトラブルになる場合があります。また、大雪山国立公園利用のルールやマナーに対する理解が不十分な外国人利用者が、登山道を外れて歩く、野営指定地以外にテントを張るなどの行動を行い、管理者との間でトラブルになるケースも生じています。

これらの①保全上の課題と②利用上の課題は、国立公園の問題であるばかりか、地域社会としての課題でもあります。例えば、登山道の荒廃、施設の老朽化、し尿の問題は、地域の観光資源の劣化とも言えますし、また、これらにより登山者数が減少することは、各市町の観光客の減少につながります。山岳地域の荒廃がさらに進行すれば山麓での湧水を活用した取組等もイメージダウンして地域の産業にも影響が及ぶ可能性があります。

【図】大雪山国立公園の登山者数の変化（黒岳登山者数の変化）

これらの課題に十分対応できない理由は、社会の人口が減少して高齢化するなど時代が変化していく中で、公共事業も削減され行政において予算や体制を確保することが困難になってきていること、従来維持管理の担い手となってきた山岳会の会員の高齢化による担い手不足などが原因と考えられます。

一方、大雪山国立公園の利用に関する調査では協力金の支払いについて積極的な意思を有している利用者が一定程度いることが明らかになっています¹⁶。また、大雪山に繰り返し訪れ、登山道の補修や維持管理、清掃活動を行うイベント等にも参加するような大雪山のファンが増えてもいます。

利用者の参加・協力は、協力金・寄付金など任意で自主的な金銭の協力と、ボランティア作業など任意で自主的な労力の提供があります。

大雪山国立公園の維持管理のために参加・協力したい人がお金や労力を提供するなど、多様な課題に対応するための新たな発想が必要です。

コメントの追加 [A38]: 事務局：文章表現の適正化

削除: 進まず

コメントの追加 [A39]: りんゆう観光の御意見を踏まえて修正

削除: の軋轢

削除: こと

コメントの追加 [A40]: 事務局：文章表現の適正化

削除: でてきて

削除: を意味します。

コメントの追加 [A41]: 事務局：文章表現の適正化

削除: を意味します

コメントの追加 [A42]: 大雪と石狩の自然を守る会の御意見を踏まえて修正

コメントの追加 [A43]: 事務局：文章表現の適正化

削除: がある者

削除: を利用したい人が

コメントの追加 [A44]: 十勝自然保護協会の御意見を反映

削除: 出し合い、そのニーズに合わせた空間づくりをしていくような利用者負担の発想等、

¹⁶ 平成 28 年度大雪山国立公園協働型管理体制検討業務報告書 p75-76、平成 30 年度大雪山国立公園自動車利用適正化対策業務報告書

【写真】登山道補修イベント「たまには山へ恩返し」

2) 利用拠点の低迷

①体験型利用の取組

利用者が減少して事業者の経営が行き詰った結果、廃屋が増えるなど、利用拠点が低迷していることも大きな課題です。大雪山国立公園の従来の景勝地の多くが閑散としています。

その原因として、各利用拠点で旅行形態の変化に応じた対応が模索されているものの、近年の旅行形態の変化に未だ十分に对应しきれていないことが考えられます。

近年、団体で自然の景勝地を周遊するスタイルから大きく変化し、旅行は個人の志向や好みにあわせて行われ、その楽しみ方も、遊べる、学べる、癒されるといった体験できるもの（コト消費）が人気で、旅行先で見る対象もその土地でしか見られないものであるのか、本物であるのかという点が重視されます。これらに加え、旅行者がスマートフォンで写真を撮りSNSで発信したくなるような見栄えも重要となってきます。

そのため、既存の景勝地を再評価し、活かしきれていない観光資源を発掘し、それらがなぜこの土地でしか見られないのかなどのストーリーを整理、磨き上げた上で発信し、旅行者に体験をしてもらい満足感を得ていただくことが重要です。景観要素が際立って多い大雪山国立公園であれば、十分に可能と考えます。

②情報提供

体験型利用の取組を行う前提として、旅行前の人に情報を届けることや、利用者が現地を訪れた際に対象地や体験活動にアクセスするための情報発信が必要です。さらに、大雪山国立公園を訪れてからも、ビジターセンターや宿泊施設、野外の案内板等、近年増加する外国人旅行者が満足できる多言語による適切な表示を含む情報提供が必要

【写真】糠平で撤去された廃屋の写真

削除: 作りを行い、

削除: をし

コメントの追加 [A45]: 事務局: 文章表現の適正化

削除: 与えることが課題

コメントの追加 [A46]: 事務局: 文章表現の適正化

削除: 課題

3. 大雪山国立公園の目指す姿

大雪山国立公園では、荒廃や低迷を食い止め優れた価値を守ること、課題を解決することで自然環境や生物多様性の状態、利用体験の質を現状以上に豊かなものとするを目指します。これにより、みんなが大雪山国立公園を誇りに感じ、**世界の人々を魅了する山岳国立公園**にしていきます。

具体的には、次の（１）～（４）の姿を目指していきます。それをひとことで表現すると、次のとおりです。

まもり、活かし、つなげよう
みんなでつくる、**世界を魅了する大雪山国立公園**

（１）大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園

１）山岳地域—大雪山グレードに応じた保全

登山道の荒廃や登山者の踏み荒らしによる植生、地形や土壌の改変・消失を回復させます。これらは、大雪山グレードに応じて原生的な自然環境が維持された地域から優先的に取り組みます。

気候変動やエゾシカの影響等による植生の変化を監視して、気候変動への適応に関する取組を検討します。また、セイヨウオオマルハナバチを始めとする外来生物の導入、定着から、高山生態系を保全します。

これらにより、広大な原生的山岳景観、火山を基盤として広大さを形作る特徴的な地形と、その上に大規模に広がる生物多様性が守られた国立公園を目指します。

２）山麓地域—多様な景観要素の保全

峡谷と柱状節理、湖、滝、温泉など、山麓地域の多様な景観要素を守り、特に利用施設から見える重要な景観要素については、その周辺の自然環境とともに良好な景観が確保された状態を目指します。

（２）魅力を活かし、質の高い利用体験ができる国立公園

１）山岳地域—大雪山グレードに応じた管理と利用

大雪山グレードに応じた登山道の管理により登山道の荒廃が解消され、**周辺自然環境に調和した案内板、誘導標識等が整備され、野営指定地や避難小屋においては施設の更新と管理が行き届いた状態を目指します。**

また、携帯トイレの普及、携帯トイレ関係設備の充実、既存の常設トイレの効果的な利用などにより、野外へのし尿排出をなくし、し尿の問題を解決します。

また、**ドローンをはじめとする技術の進展等により新たな山岳地域における利用形**

削除: に

コメントの追加 [A47]: 事務局: 文章表現の適正化

削除: され

コメントの追加 [A48]: 渡辺教授の御意見を反映

コメントの追加 [A49]: 大雪と石狩の自然を守る会の御意見を踏まえて修正

削除: 気候変動やエゾシカの影響等による植生の変化を監視して、気候変動への適応対策に関する取組を進めます対応の適応に関する取組が進んだ状態を目指します。また、セイヨウオオマルハナバチを始めとする外来生物の導入、定着から、高山生態系を保全します。

削除: や

削除: 地質

削除: 対策

コメントの追加 [A51]: 上川総合振興局の御意見を踏まえて修正

大雪と石狩の自然を守る会の御意見を踏まえて修正

十勝自然保護協会の御意見を踏まえて修正

事務局: 気候変動への適応対策の具体的な対策については、「国立公園等の保護区における気候変動への適応策検討の手引き」（環境省 2019）などに基づき、慎重な検討が必要であることから表現を修正

削除: .

コメントの追加 [A52]: 十勝自然保護協会の意見を反映

削除: 地史を基にした

削除: 地質

コメントの追加 [A53]: 事務局: 文章表現の適正化

削除: の雰囲気に合う

削除: 、これまでに想定されなかった

削除: の

態が生じ、利用者間又は利用者・管理者間で問題が生じるような時は、関係者間で対応を検討して解決し、快適に利用できる空間を維持します。

これらにより、大雪山グレードに応じた利用が行われ、大雪山の原生的で雄大な山岳景観を満喫できる状態を目指します。

2) 山麓地域—利用体験の質の向上

層雲峡温泉、愛山溪温泉、高原温泉、旭岳温泉、天人峡温泉、白金温泉、吹上温泉、十勝岳温泉、トムラウシ温泉、然別湖、ぬかびら源泉郷、士幌高原などすべての利用拠点が、その場所に滞在することを主要な目的とする旅行者を増やします。

そのために、大雪山国立公園の資源（温泉、峡谷、湖、雪等の景観要素のほか、これらを眺望したり体験したりできる歩道、園地、乗り物、施設等）を、世界中で大雪山国立公園でしか体験できない“本物”を感じるストーリーを持つコンテンツに磨き上げ、SNSに発信したくなるような新たな体験の仕方が提案され、それを支える体制を各利用拠点で整えます。

また、これら利用拠点の宿舍等、施設を改修、更新にあわせ、省エネルギーの設備導入や地域の再生可能エネルギーの使用による温室効果ガスの削減、廃棄物の削減や資源の循環を促進することを通じて、大雪山国立公園の利用拠点が、地域循環共生圏¹⁸の中核としての役割を果たして自然と共生していくイメージ（付加価値）を付け、それを利用者に浸透させます。

これらにより、山麓地域の利用体験の質の向上を目指します。

(3) つながっていく国立公園

1) 来訪者に向けた情報発信

旅行や登山の準備段階時に、大雪山国立公園に入ってから出るまでの間に必要な情報についてインターネット等を通じて、わかりやすく得られる状態を目指します。また、各利用拠点を中心としてネットワークを形成し、質の高い利用体験がいつ、どこで、又はどの施設にコンタクトを取ればできるかという情報が発信できる状態を目指します。

旅行者や登山者が実際に大雪山国立公園に来訪した際には、各施設等で必要な情報に接することができ、求める情報にアクセスしやすいよう、窓口や案内板やサインの表記が充実した状況を目指します。

また、増加する外国人利用者に対しても、必要な情報が多言語で発信されることを目指します。

¹⁷ 施設については国立公園の公園計画（利用施設計画）に位置付けられたものに限る。

¹⁸ 「地域循環共生圏」とは、各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方で、2018年4月に閣議決定した第五次環境基本計画で提唱。

削除: 軋轢を生む

コメントの追加 [A54]: 北海道開発局開発連携推進課の御意見を踏まえて修正

削除: 軋轢を

削除: 消

削除: て

削除: 他

コメントの追加 [A55]: 大雪と石狩の自然を守る会の御意見を踏まえて修正

削除: 未整備の新たな資源の場合、自然環境の価値を損なわない範囲で自然景観と調和した形で開発されたものの…

コメントの追加 [A56]: 十勝自然保護協会の意見を反映

削除: が

コメントの追加 [A57]: 北海道地方環境事務所において検討、追記

削除: 標

削除: 応

削除: これらの

コメントの追加 [A58]: 事務局: 文章表現の適正化

情報発信を充実させることにより、利用者の満足度の向上だけでなく、山岳地域においては、遭難の減少や安全確保が実現します。

2) 大雪山国立公園に関わる者すべてに向けた価値の発信

大雪山国立公園の持つ優れた価値、荒廃や低迷を食い止め課題を解決するための取組、目指す姿が実現した状態を、大雪山国立公園に関わるすべての人々に発信するとともに、日本国内さらには世界に発信し続けることで、大雪山国立公園の価値が理解され、共有された状態を目指します。

これにより、大雪山国立公園が地域の誇りとなるばかりでなく、世界の人々を魅了し何度でも訪れてみたいと思う国立公園を目指します。

コメントの追加 [A59]: 事務局：文章表現の適正化

削除: の地域

(4) みんなが協働して管理運営する国立公園

1) 協働型管理運営体制の維持

私たち（大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）構成員）は、国立公園に関わる多様な立場の機関、団体が参画する協働型の管理運営体制を維持し、大雪山国立公園の目指す姿を実現する取組を進めます。

なお、私たちは、地域、観光、産業の振興、自然保護などそれぞれ立場や目的が異なる団体が構成されていますが、大雪山国立公園のために自分たちができること、貢献できることを考えて実施します。また、大雪山国立公園を通じて地域社会の課題解決にも寄与していきます。

2) 管理運営への利用者の参加、周辺地域との連携

このビジョンは、私たちに加え、大雪山国立公園の利用者、関係するあらゆる人々（みんな）と共有し、浸透させます。そして、みんなで目指す姿を実現するための取組を実施します。具体的には、大雪山国立公園の管理運営に参加・協力したい人がお金や労力を提供できる仕組みが整った状態を目指します。

また、大雪山国立公園周辺の旭川地域、帯広地域は、大雪山国立公園にアクセスする拠点です。国立公園外の地域から大雪山を見ると、雄大な山々が連なる素晴らしい景観を見ることができます。旭川地域、帯広地域などの地域も、大雪山国立公園にとって重要な地域であると考え、今後は、両地域との連携をさらに推進し、両地域においても大雪山国立公園の情報が発信される状態を目指します。

削除: 利用者も

コメントの追加 [A60]: 事務局：9 ページの関係記述を受けて、記述を具体化

削除: つまり、

削除: となる、旭川地域、帯広

削除: 図り

コメントの追加 [A61]: 愛甲准教授の御意見を踏まえて修正

削除: から

3) みんなが学び成長し、将来世代へ引き継ぐ国立公園

大雪山国立公園を取り巻く自然的、社会的環境は今後も急速に変化していくことが予想されます。今後の変化に柔軟に対応しながら目指す姿を実現していくためには、みんなが学び、成長していくことが重要です。

このビジョンを実現するために必要な具体的な取組を実施できる人材を育成する

観点から、学びを支援する体制が整った状態を目指します。

みんなで、これらの目指す姿が実現した国立公園を、後世まで地域の宝として守り続け、将来世代に引き継いでいきます。

4. ビジョンの実現に向けて

(1) 取組の方向性と具体的取組の実施に向けて

ビジョンを実現するために、協働型の管理運営体制のもと、利用者の参画も得つつ、別添の取組を適切に実施していく必要があります。

具体的には、ビジョンの内容を大雪山国立公園管理運営計画に位置づけるとともに、同管理計画を構成する管理運営方針、風致景観及び自然環境の保全に関する事項、適正な公園利用の推進に関する事項に、別添の取組を軸にビジョンの記述を反映させ、実施していく必要があります。

コメントの追加 [A62]: 事務局：文章表現の適正化

削除: する

削除: これらの取組を

削除: お

削除: ける

コメントの追加 [A63]: 愛甲准教授の御意見を踏まえて修正

(2) ビジョンの評価について

2024 年度の大雪山国立公園 90 周年を一つの区切りとして、国立公園に関わる多様な立場の機関、団体のそれぞれが、また、利用者、関係者すべてがビジョンに基づき自らできる取組を考え、協力して実行していきましょう。そして今から 10 年後の 2030 年を目標として大雪山国立公園のビジョンの達成状況を評価し、将来にわたって優れた国立公園の管理運営を実現していきます。

別添 ビジョンを実現するための取組例

1. 大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園の実現

○大雪山グレードに応じた歩道の補修等維持管理の促進（植生の回復、地形・土壌の浸食防止）

○気候変動による影響と適用対策検討のためのモニタリング（国立公園等の保護区における気候返送への適応策検討の手引き、平成 31 年、環境省自然環境局）

○セイヨウオオマルハナバチのモニタリング、防除活動（大雪山国立公園高山帯におけるセイヨウオオマルハナバチ防除の考え方、平成 30 年、環境省北海道地方環境事務所）

○エゾシカによる植生への影響把握、対応の検討

○森林植生の復元活動の継続（十勝三股園地、ミュビゲラの森など）

2. 魅力を生かし、質の高い利用体験ができる国立公園の実現

(1) 山岳地域

○適切な歩道維持管理のための基盤形成（未執行区間、課題のある区間段階的解消、最終的な全区間適正化等）

○大雪山グレードに応じた歩道の補修等維持管理の促進【再掲】

○歩道関連施設の整備、更新

○歩道の適正利用（大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言を含む。）

○利用者参加による管理運営、維持管理の検討（利用者~~の~~自主的な金銭・労力の提供、民間による資金の活用）

○外国人対応の充実

(2) 山麓地域

○利用可能な資源の発掘、ストーリーづくり、新たな体験の提案、発信

○利用拠点の満足度向上

○安心・安全の確保

○外国人対応の充実【再掲】

3. つながっていく国立公園の実現

○一元的な情報発信

○利用拠点間のネットワーク化（ビジターセンター等の利用施設間の連携）

○大雪山国立公園で行われる活動の認定等（パートナーシップ）

4. みんなが協働して管理運営する国立公園の実現

○総合型協議会の構築と維持

○利用者参加による管理運営、維持管理の検討（利用者負担、民間資金活用）【再掲】

コメントの追加 [A64]: 本文の構成変更にあわせて、本項目も構成を変更。

削除: の優れた価値の世界との共有

削除:

コメントの追加 [A65]: 事務局

大雪山国立公園の目指す姿に対応して記述を追加

コメントの追加 [A66]: 十勝自然保護協会の意見を反映

削除: ※ここに森林植生復元

削除: ○一元的な情報発信（登山者向け、観光利用者向け。公園内外の連携やプロモーションの促進を含む）

削除: 大雪山グレードに応じた保全と利用の実現と荒廃の解消...

書式変更: インデント: ぶら下げインデント: 1 字、左: 1 字、最初の行: -1 字

削除: 負担

コメントの追加 [A67]: 十勝自然保護協会の御意見を反映

削除:

3. 質の高いエコツーリズムを核としたにぎわいの創出

コメントの追加 [A68]: 木村特任教授の御意見を踏まえて修正

削除: ○エコツーリズムによる資源の活用

削除: 整備（ワイズユースの範囲内）

コメントの追加 [A69]: 北海道地方環境事務所で検討、追記

削除: パートナーシップ

削除: 事業【所長意見】

削除: の

削除: による

削除: (1)

削除: ※構成員の本業で国立公園に貢献する視点を付加。

... [8]

○公園内外の連携やプロモーションの促進（※一元的情報発信、モデル的な事例づくりと国立公園外（関係 10 市町の国立公園区域外）への普及）

○ビジターセンター等の国立公園の拠点施設による学びの支援（関係団体・関係者が行うフォーラムや講座等）

○上記 1 及び 2 の実現のための調査・研究の推進。研究成果の大雪山国立公園関係者へのフィードバックと、データの活用

○大雪山国立公園の管理有効性評価の実施

コメントの追加 [A70]: 大雪と石狩の自然を守る会の御意見を踏まえて修正

削除: (2)

削除: と

削除: (3)

別添 参考資料

- 大雪山グレード（利用体験ランク、保全対策ランク）（説明資料、図）
- 国立公園事業の執行状況
- 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言
- 大雪山国立公園利用者数、各利用拠点利用者数
- 大雪山国立公園登山者数の変化
- 気候変動による将来予測（紅葉最盛日、年間降水量、高山植物生育適地の変化）
- 大雪山国立公園を含む周辺地域の利用動態

コメントの追加 [A71]: 十勝自然保護協会の御意見を踏まえて修正

削除: 生息

ページ 8: [1] 削除	作成者
---------------	-----

エゾシカの生息域が拡大したり、

ページ 8: [1] 削除	作成者
---------------	-----

エゾシカの生息域が拡大したり、

ページ 8: [1] 削除	作成者
---------------	-----

エゾシカの生息域が拡大したり、

ページ 8: [1] 削除	作成者
---------------	-----

エゾシカの生息域が拡大したり、

ページ 8: [1] 削除	作成者
---------------	-----

エゾシカの生息域が拡大したり、

ページ 8: [1] 削除	作成者
---------------	-----

エゾシカの生息域が拡大したり、

ページ 8: [1] 削除	作成者
---------------	-----

エゾシカの生息域が拡大したり、

ページ 8: [1] 削除	作成者
---------------	-----

エゾシカの生息域が拡大したり、

ページ 8: [1] 削除	作成者
---------------	-----

エゾシカの生息域が拡大したり、

ページ 8: [2] 削除	作成者
---------------	-----

大雪山国立公園で多種多様の高山植物が生育するのは、在来のもとの共生関係があることによるものですが、近年は、

ページ 8: [2] 削除	作成者
---------------	-----

大雪山国立公園で多種多様の高山植物が生育するのは、在来のもとの共生関係があることによるものですが、近年は、

の共生関係があることによるものですが、近年は、

ページ 8: [2] 削除	作成者
---------------	-----

大雪山国立公園で多種多様の高山植物が生育するのは、在来のマルハナバチとの共生関係があることによるものですが、近年は、

ページ 8: [2] 削除	作成者
---------------	-----

大雪山国立公園で多種多様の高山植物が生育するのは、在来のマルハナバチとの共生関係があることによるものですが、近年は、

ページ 8: [2] 削除	作成者
---------------	-----

大雪山国立公園で多種多様の高山植物が生育するのは、在来のマルハナバチとの共生関係があることによるものですが、近年は、

ページ 8: [3] コメントの追加 [A32]	作成者
--------------------------	-----

上川総合振興局の御意見を踏まえて修正
大雪と石狩の自然を守る会の御意見を踏まえて修正

ページ 8: [4] 削除	作成者
---------------	-----

本来その場所で生育していた

ページ 8: [4] 削除	作成者
---------------	-----

本来その場所で生育していた

ページ 8: [5] 削除	作成者
---------------	-----

の

ページ 8: [5] 削除	作成者
---------------	-----

の

ページ 8: [5] 削除	作成者
---------------	-----

の

ページ 8: [5] 削除

作成者

の

ページ 8: [6] 削除

作成者

起因する

ページ 8: [6] 削除

作成者

起因する

ページ 8: [6] 削除

作成者

起因する

ページ 8: [7] 削除

作成者

定着した場合、在来のもうハナバチを駆逐し、

ページ 8: [7] 削除

作成者

定着した場合、在来のもうハナバチを駆逐し、

ページ 8: [7] 削除

作成者

定着した場合、在来のもうハナバチを駆逐し、

ページ 16: [8] 削除

作成者

※構成員の本業で国立公園に貢献する視点を付加

※モデル的な事例づくりと国立公園外（関係 10 市町の国立公園区域外）への普及

大雪山国立公園ビジョン

まもり、活かし、つなげよう

みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園

大雪山国立公園の価値と歩み

現状と課題

○優れた価値

日本でここだけにしかない
広大で原生的な山岳景観



大樹海と動物たち

多様な景観要素・高い生物多様性
〔高山植物、高山蝶、ヒグマ等大型哺乳類等
柱状節理、滝、温泉、湖、周水河地形等〕



温泉利用、登山などの利用価値
⇒多様な観点から高い評価
(天然記念物、森林生態系保護地域、日本遺産など)

○これまでの歩み

調査研究や保全のさきがけ
・霊山碧水国立公園建白書
・大雪山調査会による学術研究と活用

大規模開発と
自然保護の調整

写真

価値を損なわない範囲での
持続可能な利用がテーマへ

・大雪山グレード
・大雪山国立公園
携帯トイレ普及宣言



○気候変動

紅葉色づきの低下
ササの増加
降水量の増加



五色が原

○人口減少と高齢化
ライフスタイルの変化、
価値観の多様化



写真

○外国人利用者の増加



写真

○山岳地域の荒廃

①保全上の課題
植生の変化、地形地質の侵食

②利用上の課題
施設の荒廃と老朽化、し尿の問題、情報提供、
利用者間、利用者・管理者の軋轢登山道の荒廃



登山道荒廃

標識

し尿

○利用拠点の低迷

①体験型利用の取組
旅行形態の変化への対応不十分
資源の発掘、評価、ストーリー化が必要

②情報提供
体験型利用にアクセスするための情報発信
多言語による情報提供

写真

廃屋などにぎわいの
ない空間

地域の誇りとなり、世界の人々を魅了する山岳国立公園にするために！

大雪山国立公園の目指す姿	
①大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園	②魅力を活かし、質の高い利用体験ができる国立公園
○山岳地域・・・大雪山グレードに応じた保全 (植生、地形や土壌の回復、植生変化への対応、外来生物対策)	○山岳地域・・・大雪山グレードに応じた管理と利用 (登山道荒廃の解消、案内板や誘導標識整備、し尿問題解決、新たな利用形態により生ずる問題の解決)
○山麓地域・・・多様な景観要素の保全 (峡谷と柱状節理、湖、滝、温泉など)	○山麓地域・・・利用体験の質の向上 (利用拠点の目的地化、ストーリー磨き上げ、利用拠点のエコ化)
③つながっていく国立公園	④みんなが協働して管理運営する国立公園
○来訪者に向けた情報発信	○協働型管理運営体制の維持
○大雪山国立公園に関わるすべての人々に向けた価値の発信	○管理運営への利用者の参加、周辺地域との連携
	○みんなが学び成長し、将来世代へ引き継ぐ国立公園

大雪山国立公園90周年（2024年度）に向けて取組加速
10年後、2030年にビジョン達成状況の評価

※ビジョンは、大雪山国立公園
管理運営計画に位置づけて実行

資料 2

大雪山国立公園連絡協議会規約【改正案】

(名 称)

第 1 条 本会は、大雪山国立公園連絡協議会と称する。

(目 的)

第 2 条 本会は、大雪山国立公園の保全と利用の目標や将来像を検討し、会員相互の情報交換、連絡調整を図り、保全と適正な利用のための事業を実施することにより、大雪山国立公園の多様な関係者が協働した管理運営を行い、国立公園地域の健全な発展に資することを目的とする。

削除: 関係機関

削除: ること及び必要な管理

削除: 現地業務を円滑に遂行し

(事 業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 国立公園の保全と利用に関する目標や将来像の検討、同検討に基づく大雪山国立公園管理運営計画その他必要な方針や計画等の策定
- (2) 国立公園の管理運営に関する情報交換、連絡調整
- (3) 国立公園の保全及び適正な利用を推進するための事業
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

削除: 及び事業

コメントの追加 [t1]: 旧「(2) 国立公園の保護及び利用に関する研修及びその適切な推進」
「(3) 国立公園の施設整備促進に関する企画調整、調査及び研修」も、新「(3)」に含まれる。

削除: 2

削除: 国立公園の保護及び利用に関する研修及びその適切な推進。

(3) 国立公園の施設整備促進に関する企画調整、調査及び研修。

削除: (3) 国立公園の施設整備促進に関する企画調整、調査及び研修。

削除: 員及び幹事

削除: 次の関係機関の長をもって構成する。

削除: 上川総合振興局、十勝総合振興局、富良野市、上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、南富良野町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、環境省北海道地方環境事務所。

2 なお、環境省を除く各関係機関の担当課長及び環境省上川自然保護官を本会の幹事とする。

削除: 3

(構 成)

第 4 条 本会は、別紙に掲げる機関、団体により構成する。

(役 員)

第 5 条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副会長 2 名
- (3) 理 事 複数名
- (4) 監 事 2 名

(役員の選任及び任期)

第 6 条 役員は協議会において選任し、任期は 2 年とし、再任を妨げない。

- 2 選任された役員が任期中に第 4 条第 1 項に規定する機関の長の職でなくなったときは、役員を退任したものとみなし、その補充については、その職の後任者が役員に選任されたものとみなす。

ただし、その任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の職務)

第7条 会長は本会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。

3 理事は会長の指示を受けて会務を分担し、会の運営にあたる。

4 監事は、協議会の会計を監査する。

コメントの追加 [t2]: 例えば、作業部会（第9条）の運営など

削除: 3

(会 議)

第8条 会議は年1回総会を開催するほか、会長の招集により必要に応じて開催する。

2 また、会長の招集により必要に応じて幹事会を開催することができる。

幹事会には各機関、団体の幹事及び事務局員が出席する。

3 会議は予算、決算、事業計画、その他必要な事項を協議する。

(作業部会)

第9条 会長の指示により、第3条に掲げる事業に関して専門的に調査、検討するため、作業部会を設置することができる。

2 作業部会に属する会員は、会長が指名する。

3 作業部会には、会長が会員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

4 作業部会は、第1項の調査又は検討が終了したときは解散する。

(部 会)

第10条 本会には表大雪地域登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会を設置する他、必要に応じて、その他の部会を設置することができる。

2 部会の組織及び運営に必要な事項は、本会において規約を定める。

(事務局)

第 10 条 本会の事務局を環境省上川自然保護官事務所に置く。

2 事務局は、会の庶務及び会計事務を行う。

3 事務局員は上川、東川、上士幌自然保護官がその任にあたる。

削除: 9

(会 計)

第 11 条 協議会の経費は負担金、委託金、寄付金、その他の収入を持ってあてる。

2 協議会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

削除: 0

付 則 この規約は平成 5 年 12 月 7 日から施行する。
この規約は平成 12 年 5 月 15 日から施行する。
この規約は平成 13 年 5 月 9 日から施行する。
この規約は平成 18 年 5 月 11 日から施行する。
この規約は平成 20 年 5 月 13 日から施行する。
この規約は平成 23 年 5 月 12 日から施行する。
この規約は令和〇年〇月〇日から施行する。

書式変更: インデント: 左: 0 mm

別表

<u>分野</u>	<u>組織名・役職名</u>
<u>関係行政機関</u>	<u>北海道地方環境事務所長</u>
	<u>北海道上川総合振興局長</u>
	<u>北海道十勝総合振興局長</u>
	<u>富良野市長</u>
	<u>上川町長</u>
	<u>東川町長</u>
	<u>美瑛町長</u>
	<u>上富良野町長</u>
	<u>南富良野町長</u>
	<u>士幌町長</u>
	<u>上士幌町長</u>
	<u>鹿追町長</u>
	<u>新得町長</u>
	<u>上川中部森林管理署長</u>
	<u>上川南部森林管理署長</u>
	<u>十勝西部森林管理署東大雪支署長</u>
	<u>北海道開発局開発監理部開発連携推進課長</u>
	<u>北海道運輸局観光部長</u>
<u>観光協会</u>	<u>層雲峡観光協会</u>
	<u>(一社) ひがしかわ観光協会</u>
	<u>(一社) 美瑛町観光協会</u>
	<u>(一社) かみふらの十勝岳観光協会</u>
	<u>(一社) ふらの観光協会</u>
	<u>NPO 法人南富良野まちづくり観光協会</u>
<u>交通事業者</u>	<u>(株) りんゆう観光</u>
	<u>ワカサリゾート(株)</u>
	<u>道北バス(株)</u>
	<u>旭川電気軌道(株)</u>
	<u>十勝バス(株)</u>
	<u>北海道拓殖バス(株)</u>
<u>自然保護団体</u>	<u>大雪と石狩の自然を守る会</u>
	<u>十勝自然保護協会</u>
<u>研究者</u>	<u>北海道大学大学院環境科学研究院 渡邊悌二教授</u>

<u>ビジターセンター運営協議 会等</u>	<u>北海道大学大学院農学研究院 愛甲哲也准教授</u>
	<u>北海道大学観光学高等研究センター 木村宏特任教 授</u>
	<u>層雲峡地区自然ふれあい利用協議会</u>
	<u>ひがし大雪自然館運営協議会</u>
	<u>東川町【再掲】</u>

大雪山国立公園連絡協議会役員名簿

(案)

会 長 上川町長

副会長 東川町長

副会長 上士幌町長

理 事 北海道地方環境事務所長

監 事 美瑛町長

監 事 鹿追町長

大雪山国立公園連絡協議会
表大雪地域登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会 規約（案）

（趣旨）

第1条 本規約は、大雪山国立公園連絡協議会規約第10条第2項の規定に基づき、表大雪地域登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会の組織及び運営に必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 本部会は、大雪山国立公園内の登山道の荒廃等の課題及びその対策について関係者で協議し、もって登山道の適正な維持管理に資することを目的とする。

（活動内容）

第3条 本部会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）登山道の整備及び維持管理並びにそれに関連する登山道の利用や登山道周辺の自然環境等に関する情報交換、連絡調整
- （2）登山道の荒廃等の課題及びその対策に必要な事業
- （3）その他、前条の目的を達成するために必要な事業

（構成）

第4条 本部会は、別紙に掲げる構成員及びオブザーバーをもって構成する。

（大雪山国立公園連絡協議会への出席）

第5条 本部会の構成員は、大雪山国立公園連絡協議会に出席し、第3条に規定する事業の報告や意見を述べる。

- 2 前項の出席者は2名以内とし、部会において選任する。任期は1年とする。

（運営）

第6条 本部会は、事務局が招集し、事務局員が議事進行を務める。

- 2 本部会を年2回程度開催し、必要に応じて随時、臨時部会を開催する。

（事務局）

第7条 表大雪地域登山道維持管理部会の事務局を上川自然保護官事務所に、東大雪地域登山道維持管理部会の事務局を上士幌自然保護官事務所に置く。

- 2 事務局は、会の庶務を行う。
- 3 表大雪地域登山道維持管理部会の事務局員は上川自然保護官及び東川自然保護官が、東大雪地域登山道維持管理部会の事務局員は上士幌自然保護官がその任にあたる。ただし、事務局の業務を請負することを妨げない。

4 事務局員は、大雪山国立公園連絡協議会に出席し、第5条第1項に基づき出席する者を補佐する。

(会 計)

第8条 本部会の運営及び事業の実施に必要な経費は、大雪山国立公園連絡協議会の経費を充てる。

(その他)

第9条 本部会は、大雪山国立公園内の登山道の適正な維持管理のために、関係するその他の協議会との連携及び協力を図る。

付 則 この規約は令和〇年〇月〇日から施行する。

表大雪地域登山道維持管理部会

構成員

分野	名称
関係行政機関	北海道地方環境事務所 上川中部森林管理署 上川南部森林管理署 北海道上川総合振興局 富良野市 上川町 東川町 美瑛町 上富良野町 南富良野町
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	NPO 法人アース・ウィンド NPO 法人かむい NPO 法人大雪山自然学校 勤労者山岳連盟（道央地区） 合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊 山樂舎 BEAR 層雲峡ビジターセンター 大雪山倶楽部 大雪山国立公園パークボランティア連絡会 TREE LIFE 富良野山岳会 北海道山岳ガイド協会（表大雪地区）
自然保護関係団体	大雪と石狩の自然を守る会 山のトイレを考える会
調査・研究関係	北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺悌二教授 北海道大学大学院農学研究院 愛甲哲也准教授

オブザーバー

分野	名称
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	旭川勤労者山岳会 ガイドオフィス風 株式会社りんゆう観光

	上川山岳会 上富良野十勝岳山岳会 黒松内銀竜草の会 公益社団法人日本山岳会北海道支部 美瑛山岳会 ワカサリゾート株式会社
自然保護関係団体	北海道高山植物保護ネット
調査・研究関係	山岳レクリエーション管理研究会

※関係行政機関以外は、分野ごとに 50 音順

東大雪地域登山道維持管理部会

構成員

分野	名称
関係行政機関	北海道地方環境事務所 十勝西部森林管理署東大雪支署 北海道十勝総合振興局 士幌町 上士幌町 鹿追町 新得町
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター 合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊 山樂舎 BEAR 新得山岳会 大雪山国立公園パークボランティア連絡会 十勝山岳連盟
自然保護関係団体	
調査・研究関係	

オブザーバー

分野	名称
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	株式会社北海道ネイチャーセンター 公益社団法人日本山岳会北海道支部 しほろ自然環境に親しむ会 北海道山岳ガイド協会（東大雪地区） ボレアルフォレスト
自然保護関係団体	
調査・研究関係	

※関係行政機関以外は、分野ごとに 50 音順

大雪山国立公園ビジョン策定・大雪山国立公園連絡協議会改組記念シンポジウム
みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園（案）

1. 目的

- 「大雪山国立公園ビジョン」が策定されたこと、大雪山国立公園連絡協議会が総合型協議会に改組されたことを広く周知する。
- 「大雪山国立公園ビジョン」を実現するために、利用者と管理運営に携わる関係者ができることを考える（①大雪山国立公園連絡協議会で議論・実践していくべきこと、②利用者や関係者自身が自ら取り組み行動できることは何かを考え、実行する契機とするもの）。

2. 主催

- 大雪山国立公園連絡協議会、環境省北海道地方環境事務所

3. 日程、場所、参加者

- 候補日：3月16日（月）13:00～16:00
- 場 所：かみんぐホール（北海道上川郡上川町北町114番地1）
- 参加者：100人程度を想定（大雪山国立公園連絡協議会会員及び関係者、登山道維持管理部会関係者、一般の利用者・登山者）

4. 内容（プログラム）

- （1）開会挨拶：大雪山国立公園連絡協議会会長（上川町長）（5分）
- （2）趣旨説明（10分）
大雪山国立公園連絡協議会の改組と大雪山国立公園ビジョンの説明
（環境省上川自然保護官事務所 首席自然保護官）
- （3）講演（30分）
北星学園大学 ロバート・トムソン氏
「大雪山国立公園が世界を魅了するために」
- （4）交流会（30分）
○大雪山国立公園連絡協議会の新規参加メンバー、大雪山国立公園ビジョンの実現に向けて取り組む団体等が出展し、参加者同士が交流する機会とする。
- （5）パネルディスカッション（90分）
○テーマ：みんなで、まもり、つくる新しい時代の大雪山国立公園
—民間参画、協力金・ボランティア、公園管理団体…、未来のため
にあらゆる手法と可能性を探る—
○コーディネーター 北海道大学大学院農学研究院 愛甲 哲也 准教授
○パネリスト 北星学園大学 ロバート・トムソン 氏
りんゆう観光 代表取締役社長 植田 拓史 氏
一般社団法人 大雪山・山守隊 代表理事 岡崎 哲三 氏
屋久島町 観光まちづくり課 統括係長 木原 幸治 氏
環境省上川自然保護官事務所 首席自然保護官 榎 厚生
- （6）閉会挨拶：北海道地方環境事務所長（5分）

5. 参考

- 当日11:00～12:00は大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）を実施（改組決定）。

大雪山国立公園協働型管理運営体制の構築について

大雪山国立公園連絡協議会の改組・拡充 登山道維持管理部会の設置

大雪山国立公園の課題

自然的・社会的環境の変化

- 気候変動
- 人口減少と高齢化、ライフスタイルの変化、価値観の変化
- 外国人利用者の増加

大雪山国立公園の課題

山岳地域の荒廃

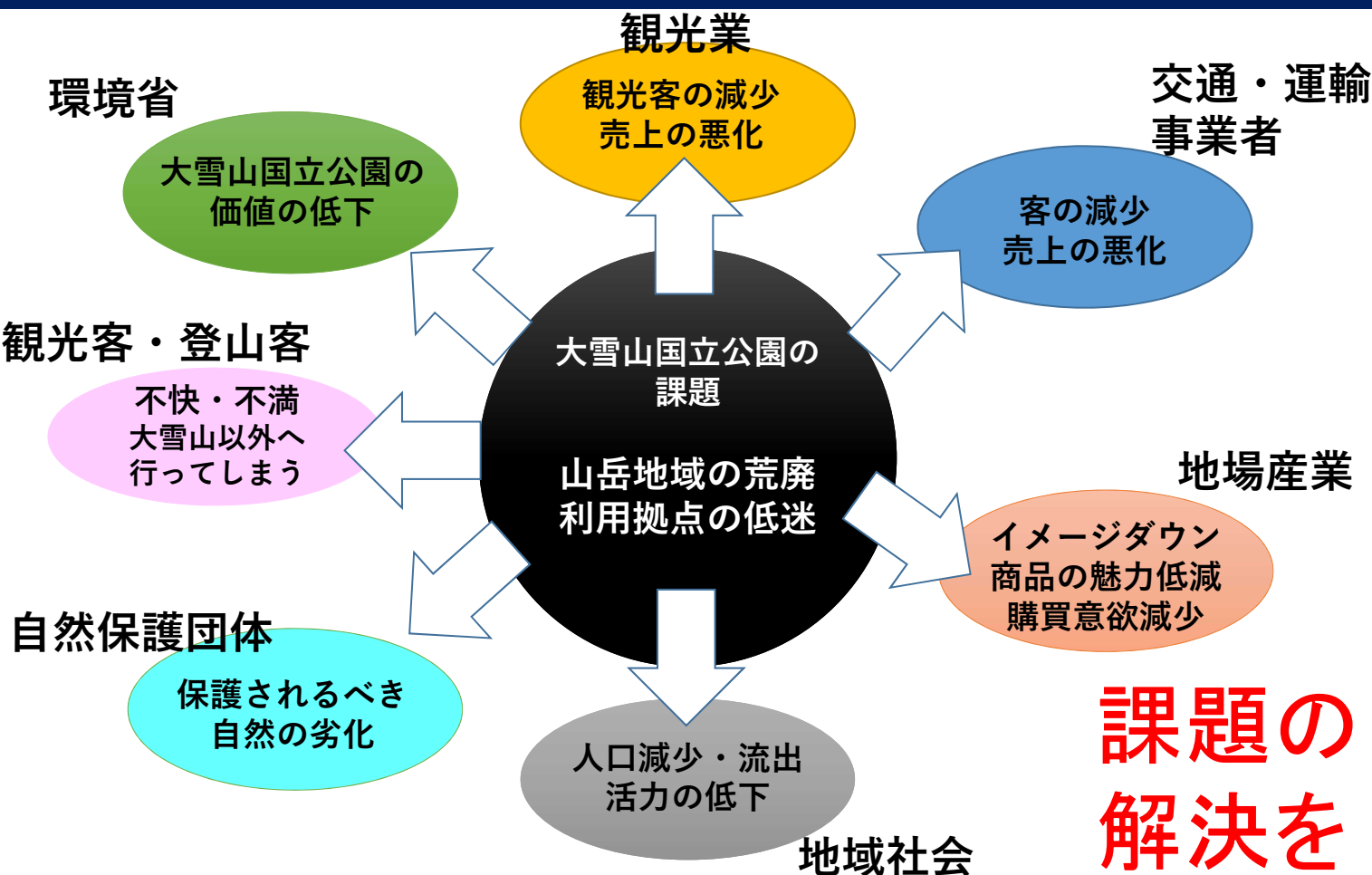
- ①自然環境保全上の課題
 - ・植生の変化、地形地質の消失
- ②利用上の課題
 - ・施設（登山道舎）の荒廃と老朽化
 - ・し尿の問題
 - ・情報提供
 - ・利用者間、利用者・管理者間の軋轢

利用拠点の低迷

- ①体験型利用の取組
 - ・旅行形態の変化への対応が不十分
 - 利用者数の減少、廃屋等もみられる
- ②情報提供
 - ・利用体験情報（多言語による）



誰が困るのか？ 何が困るのか？



大雪山国立公園の目指す姿

①守る

山岳地域

大雪山グレードに応じた保全

山麓地域

峡谷、柱状節理、湖、滝、温泉等
多様な景観要素の保全

②活かす

山岳地域

大雪山グレードに応じた管理と利用

山麓地域

利用体験の質の向上

③つなげる

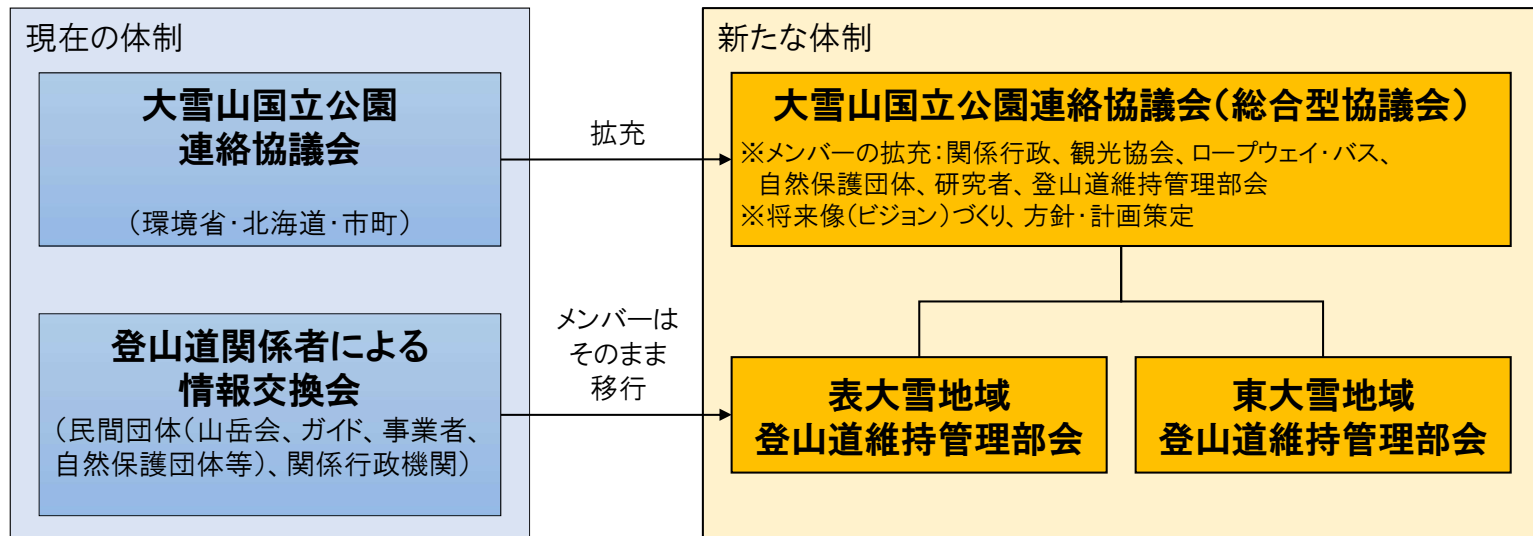
- ・来訪者に対する情報発信
- ・大雪山国立公園に関わるすべての者に向けた価値の発信

④協働で管理運営する

- ・協働型管理運営体制の維持
- ・管理運営への利用者の参加、周辺地域との連携
- ・学び成長し、将来世代へ引き継ぐ

新たな管理運営体制

目指す姿を実現するために必要な「協働型管理運営体制」



協働型管理運営体制とは

- 国立公園に係る環境省以外の国の機関、自治体、民間団体、公園事業者など多様な主体が参画する総合型協議会を中心とする体制
- 国立公園の将来像(ビジョン)、国立公園の管理運営方針や行動計画を定める体制
- 全国の国立公園で準備が整い次第、この体制を構築すること(平成26年7月7日付 環境省自然環境局長通知)

新たな管理運営体制に向けた議論の経過

大雪山国立公園連絡協議会での取組

大雪山国立公園連絡協議会総会での議論

平成29年度総会(5月12日)

- ・課題提起

平成30年度総会(5月11日)

- ・新たな体制案の議論

令和元年総会(5月10日)

- ・新たな体制案の合意形成について議論

大雪山国立公園フォーラム(平成31年1月28日)



妙高戸隠連山・尾瀬国立公園で先行している
協働型管理運営体制の事例を学ぶ

大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)準備会の開催



第1回平成30年11月27日
大雪山国立公園ビジョン【骨子案】



第2回 平成31年2月20日
大雪山国立公園ビジョン【素案】

大雪山国立公園ビジョン
を先行的に議論
協働型管理運営体制構築
に向けた機運を醸成

新たな大雪山国立公園連絡協議会の体制

【目的】

- 国立公園の将来像（ビジョン）の検討
- 情報交換、連絡調整
- 保全と適正な利用のための事業



多様な関係者が
協働した管理運営

【構成員】

- 環境省、北海道、1市9町
(上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、富良野市、南富良野町、新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町)
- 関係行政機関
(上川中部森林管理署、上川南部森林管理署、十勝西部森林管理署東大雪支署、北海道開発局、北海道運輸局)
- 観光協会
(ふらの、層雲峡、ひがしかわ、美瑛、かみふらの十勝岳、南富良野まちづくり各観光協会)
- ロープウェイ、バス事業者 ○自然保護団体 ○研究者 ○ビジターセンター関係者
- 登山道維持管理部会参加者（代表） ※公園管理のための民間団体（想定） ※下線部追加

■幹事会

構成員担当者の連絡調整

■作業部会

方針・計画づくり等個別案件の議論

■事務局

環境省（業務の一部の
民間団体請負も想定）

【予算】

- 1市9町からの負担金
(従前の大雪山国立公園連絡協議会の負担金の金額を変更せずに継続)
- 寄付金（協力金）※今後要検討 等

役員体制（案）

会長

○上川町長

副会長

○東川町長
○上士幌町長

(会長の補佐)

理事

○北海道地方環境事務所長
○自治体以外者など

(会長の指示を受け会務を分担)

監事

○美瑛町長
○鹿追町長

(会計監査)

※注 事務局について

現在は、上川・東川・上士幌の各自然保護官がその任にあたっている。

大雪山国立公園の環境省現地管理体制が拡充した後は、事務局長を設け、大雪山国立公園管理事務所長が就く。

新たな大雪山国立公園連絡協議会の具体的な取組

<大雪山国立公園連絡協議会>

○大雪山国立公園の将来像（ビジョン）

- ・「大雪山国立公園ビジョン」の作成、評価、再検討

○保全と利用の方針・計画づくり

<例>

- ・「大雪山国立公園管理運営計画」検討
- ・「大雪山国立公園登山道管理水準」検討
- ・「大雪山国立公園における登山道整備技術指針」検討
- ・利用者参加の国立公園のあり方（協力金等）の検討

○大雪山国立公園全体で一元的に取組む事業

<例>

- ・大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言の推進
- ・情報の一元化と情報発信
- ・登山道の維持管理活動の促進
（登山道維持管理部会の設置、運営） 等

※過去の例・・・パンフレットの作成、文献資料集の作成

個別の活動の促進・質の向上
連携強化

<各主体における取組（個別の維持管理活動等）>

環境省・北海道・市町
登山道維持管理連絡協議会等

関係行政機関

観光協会

ロープウェイ
バス

自然保護団体
○保護活動

利用者

その他
関係者

研究者
○研究活動

○国立公園事業施設の維持管理
（ビジターセンター、園地、歩道・登山道、避難小屋、標識等）

○道路、林道
維持管理
○観光業推進

○各宿泊施設
等の維持管理

○各ロープウェイ、バスの
維持管理

登山道維持管理部会

【目的】

- 登山道等の維持管理活動に関する総合調整、合意形成
（大雪山国立公園連絡協議会のうち、登山道の課題解決に関する部分の取組を実施）

【構成員】

- ・国立公園制度所管行政（環境省）・土地所有者（森林管理署、北海道）
- ・歩道事業執行者・関係市町：北海道、市町等
- ・山岳会関係者 ・ガイド事業者 ・ビジターセンター関係者
- ・保全活動団体（パークボランティア等）・登山道整備の専門家
- ・研究者、自然保護団体 等

※情報交換会からのスライド（オブザーバー参加か、構成員としての参加かは意向を調査）

■事務局

環境省（業務の一部の
民間団体請負も想定）

【予算】

- 当面の間、大雪山国立公園連絡協議会の会計から必要な事項を支出

【取組】

- 登山情報の一元的な発信
- 歩道等維持管理実施手順マニュアルに基づく関係者間の調整、作業結果の検討
- 人材育成（セミナー、ボランティア受入）、技術の蓄積と伝承
- 登山道等維持管理の適正化に向けた議論（歩道事業未執行区間の解消）
- 施設の老朽化対策 等

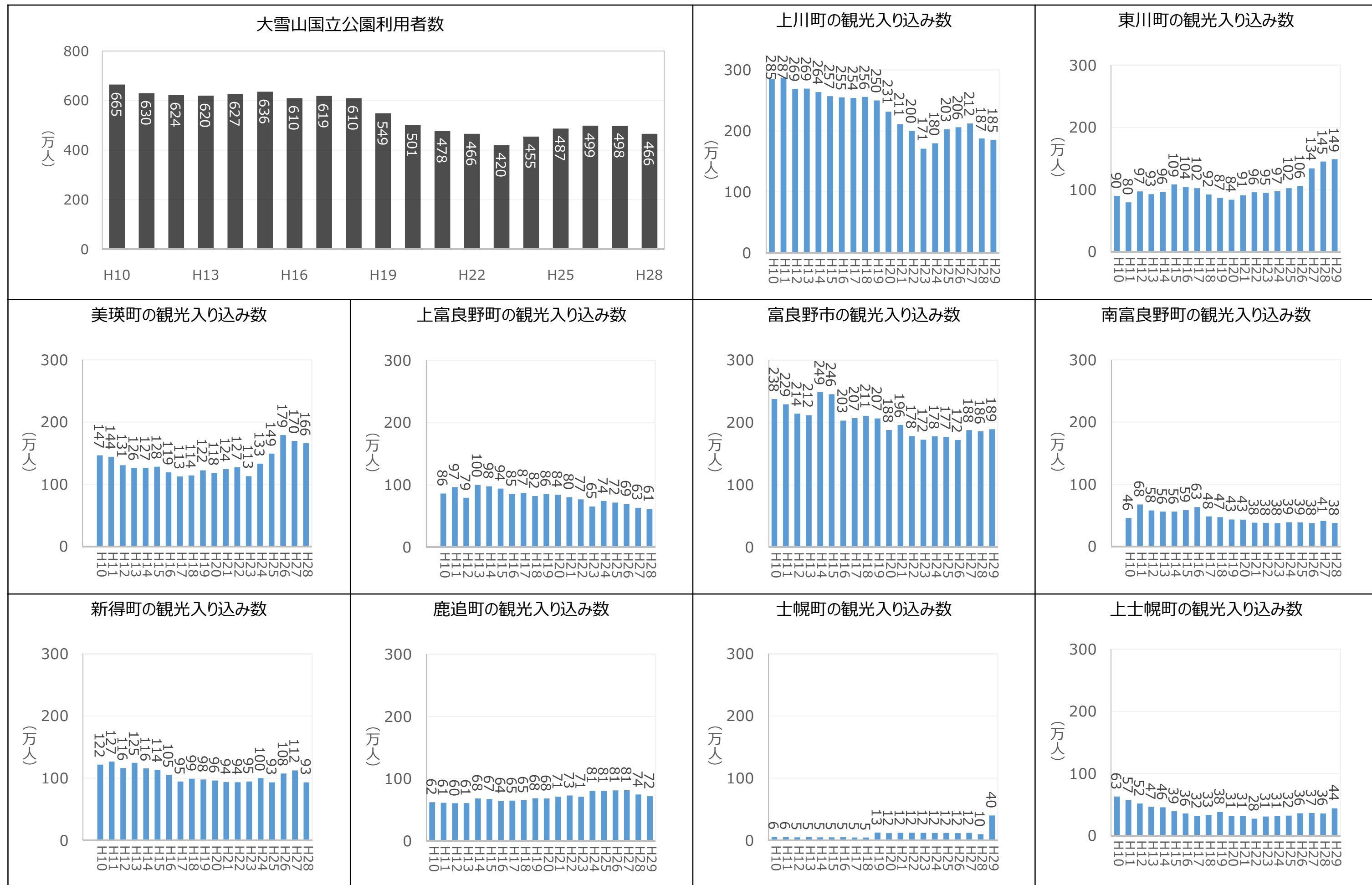
大雪山国立公園ビジョン作成に関する

参考資料集

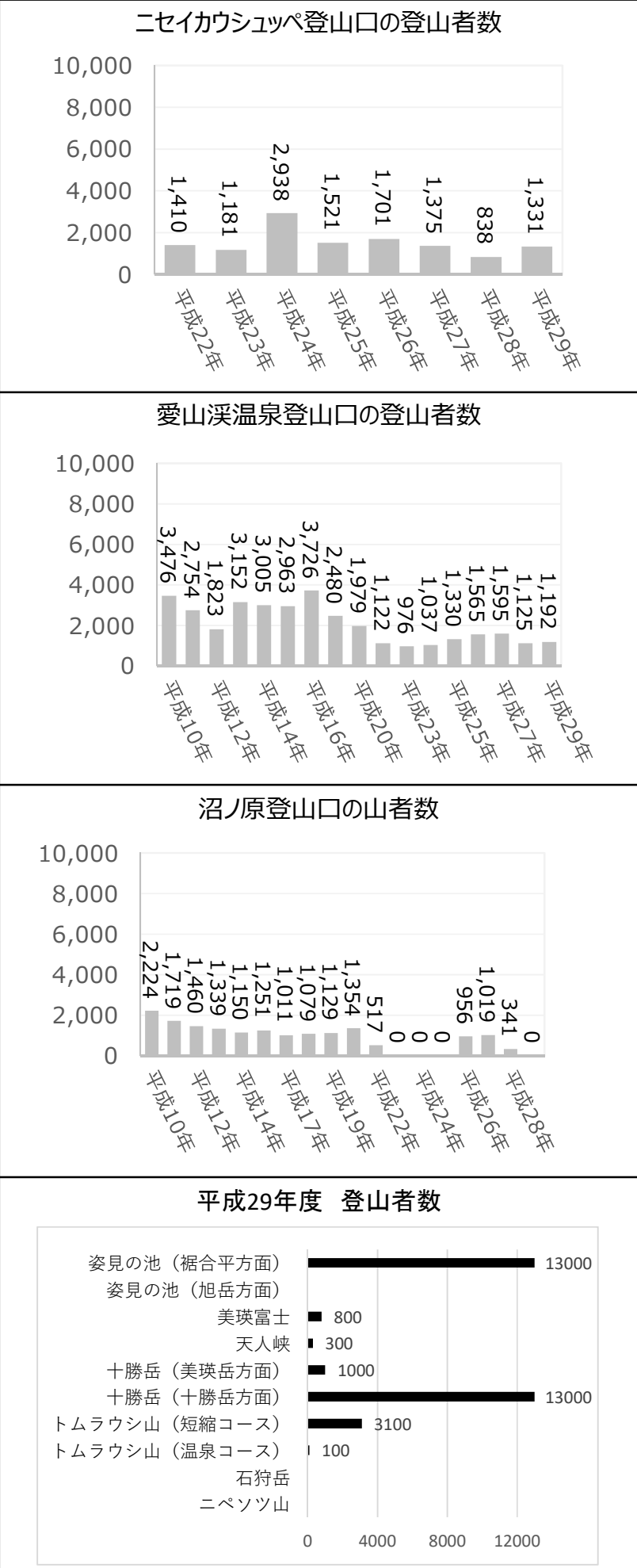
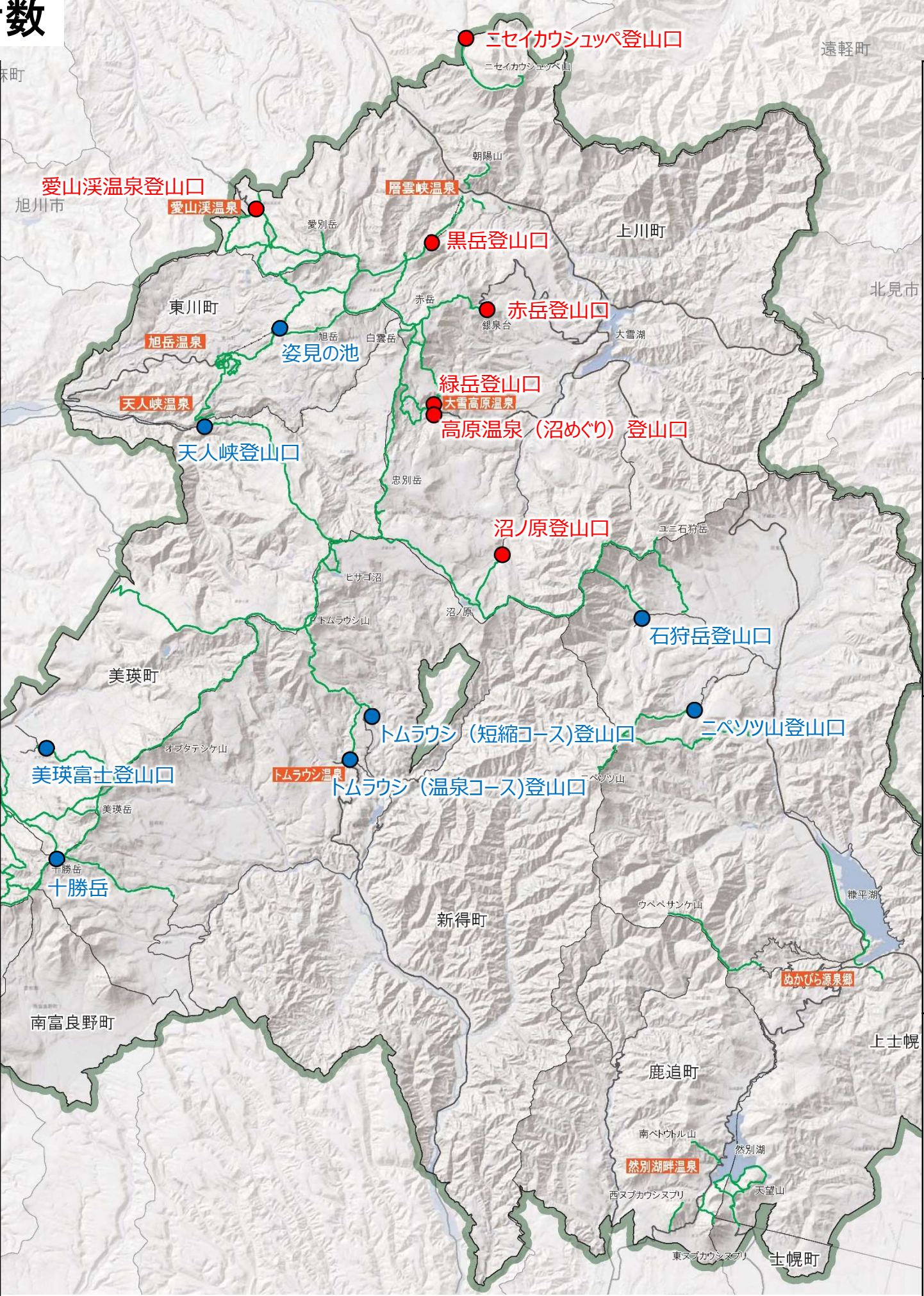
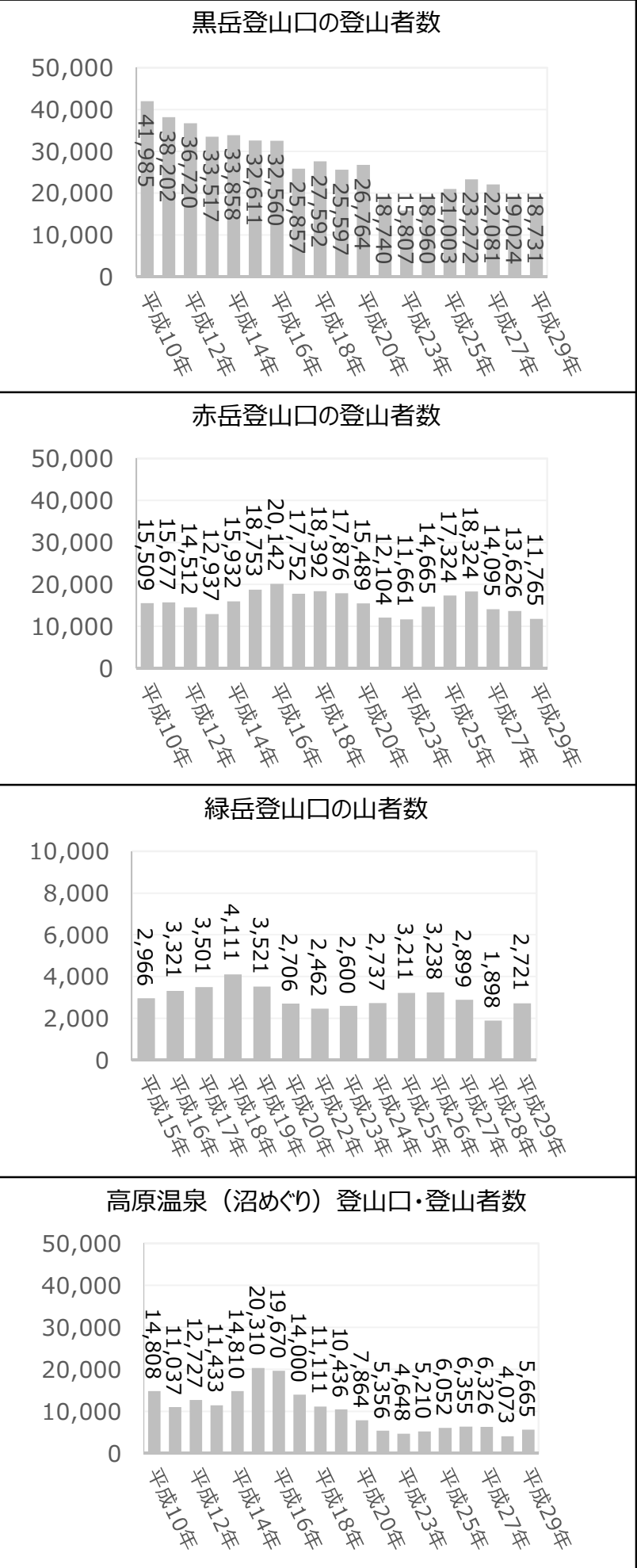
資料 1-1	大雪山国立公園利用者数
資料 1-2	主要登山口からの登山者数
資料 2	国立公園事業の執行状況
資料 3	登山道の荒廃状況
資料 4-1	登山道の整備・補修状況
資料 4-2	登山道の整備・補修状況の詳細
資料 4-3	登山道の整備・補修状況の詳細
資料 5	避難小屋等施設の整備状況
資料 6-1	し尿問題とその対応
資料 6-2	大雪山国立公園におけるトイレの現状
資料 7	公園利用において想定されるリスク
資料 8	利用拠点の利用者数
資料 9	利用拠点の施設一覧
資料 10	国立公園における情報発信の現状
資料 11-1	大雪山国立公園を含む周辺地域の利用動態 (周辺地域から大雪山国立公園へのアクセス)
資料 11-2	大雪山国立公園を含む周辺地域の利用動態 (周遊旅行の動態)
資料 12	大雪山国立公園の価値・魅力
資料 13	大雪山国立公園周辺の観光振興等、大連協の活動との連携可能性が 想定される取り組み一覧
資料 14	民間事業者の活動状況
資料 15	外国人利用者のニーズ
資料 16	外国人利用者への対応状況
資料 17	大雪山国立公園における協力金の現状
資料 18	国立公園周辺の人口予測
資料 19	国立公園の管理運営の担い手一覧
資料 20	大雪山国立公園連絡協議会の経緯
資料 21	登山道関係者情報交換会の経緯
資料 22	他国立公園における総合型協議会・国立公園ビジョンの事例

▶大雪山国立公園利用者数

資料1-1



▶ 主要登山口からの登山者数

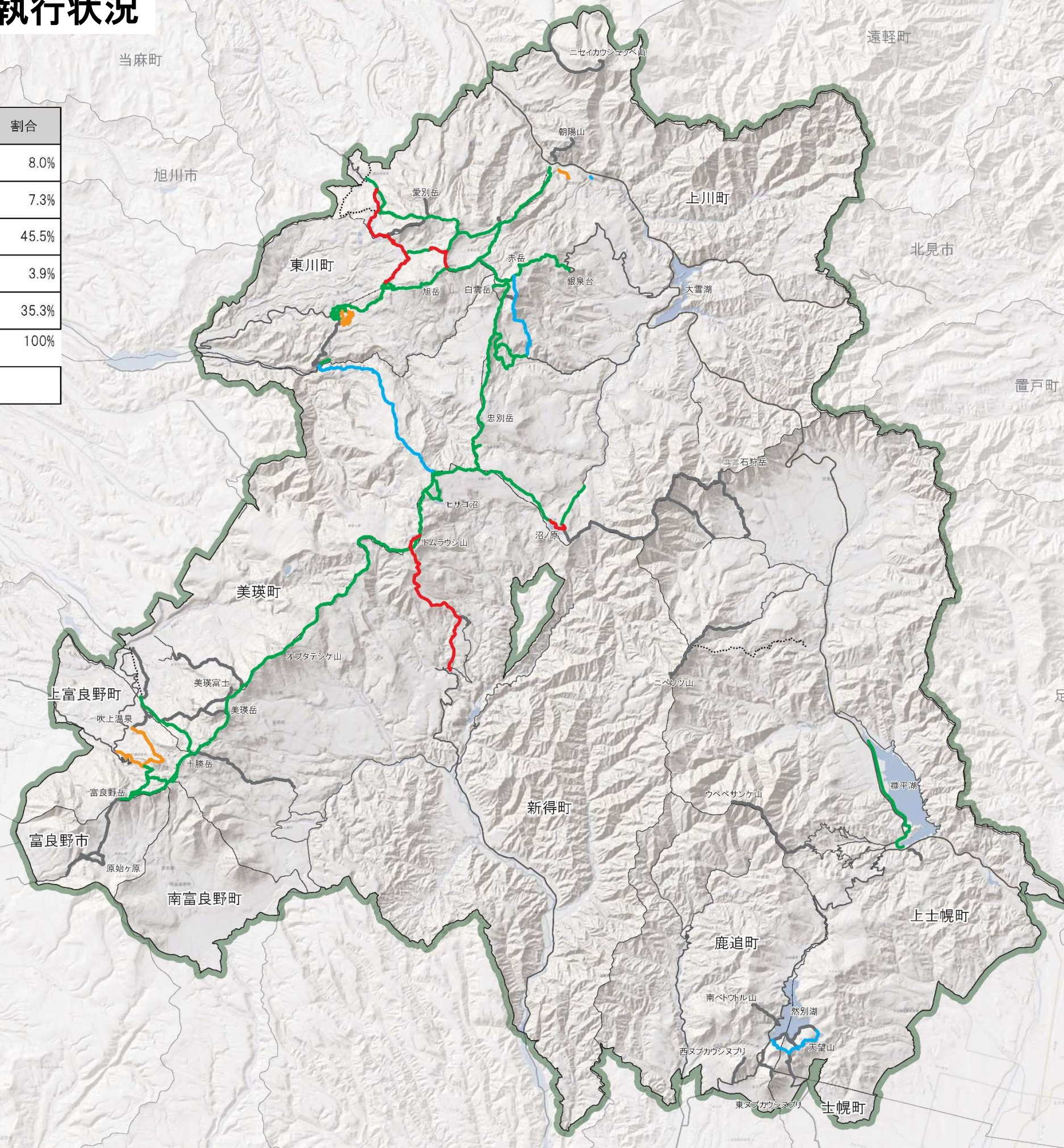


※上川町役場資料より（ただし、平成17年、18年度は、上川森林事務所資料より） ※林道封鎖の為カウントが0の部分あり

▶ 国立公園事業の執行状況

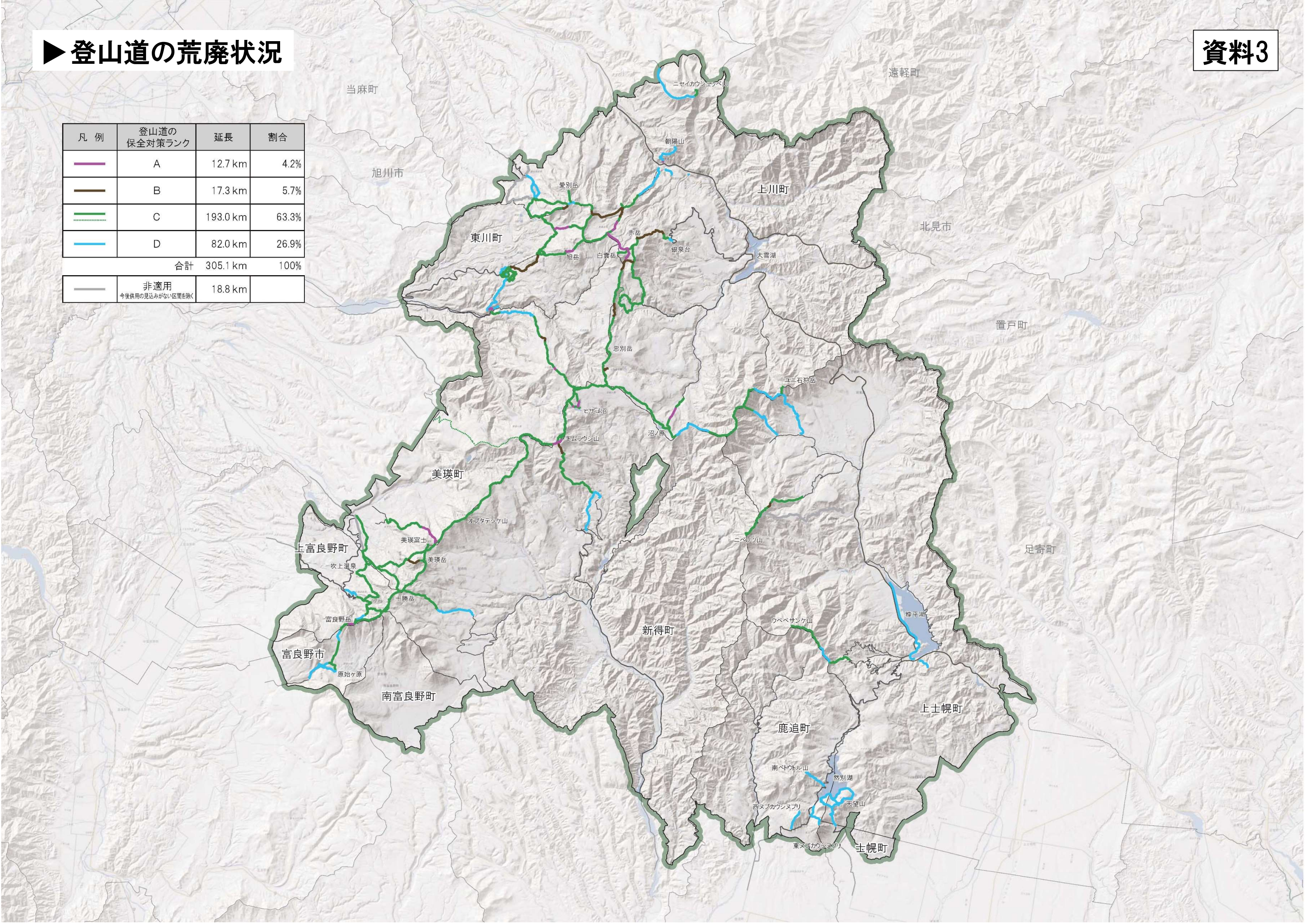
資料2

凡 例	事業執行者	延長	割合
	環境省	23.8 km	8.0%
	林野庁	21.6 km	7.3%
	北海道	134.5 km	45.5%
	自治体	11.4 km	3.9%
	未執行	104.6 km	35.3%
合 計		295.9 km	100%
.....	大雪山グレード非適用だが 利用実態がある又は利用が なされる見込みのある区間	18.8 km	



▶ 登山道の荒廃状況

凡 例	登山道の 保全対策ランク	延長	割合
	A	12.7 km	4.2%
	B	17.3 km	5.7%
	C	193.0 km	63.3%
	D	82.0 km	26.9%
合 計		305.1 km	100%
	非適用 今後供用の見込みがない区間を除く	18.8 km	



▶ 登山道の整備・補修状況

資料4-1

【愛山溪地区周辺】

- ・H30 ロープ張り、ササ刈り
- ・H29 たまには山へ恩返しin愛山溪
- ・H29 ササ刈り
- ・H28 登山道点検等
- ・H28 ロープ張り、ササ刈り

【雲の平・北海平地区周辺】

- ・H28～H30 旭岳自然保護対策事業
- ・H30 登山道整備
- ・H29 たまには山へ恩返しin黒岳
- ・H29 大雪山国立公園上川地区登山道補修業務
- ・H28 上川自然保護官事務所、上川中部森林管理署、上川総合振興局合同巡視
- ・H28 平成28年度大雪山国立公園上川地区登山道保守点検等業務
- ・H28 登山道補修後の点検（協働型作業）

【旭岳周辺】

- ・H28～H30 たまには山へ恩返しin旭岳
- ・H28～29 テンサー施工
- ・H30 登山道清掃、登山道整備
- ・H29 資材荷上げ体験
- ・H28 歩道の刈払い
- ・H28 ヤシ土嚢袋設置等
- ・H28 登山道修繕

【十勝岳・美瑛富士周辺】

- ・H28 登山道刈払い
- ・H28 倒木処理、段差処理
- ・H28 ササ刈り、登山道補修等
- ・H28 導流工、路面整備

【富良野岳周辺】

- ・H30 ボランティア登山
- ・H30 丸太橋修繕（2箇所）
- ・H29 登山道コース整備
- ・H29 ササ刈り、枝払い
- ・H29 林道復旧工事
- ・H28 原始ヶ原湿原植生復元

【トムラウシ山周辺】

- ・H29～30 大雪山国立公園トムラウシ山登山道補修工事
- ・H29～30 草刈り
- ・H30 たまには山へ恩返しintムラウシ（大雪山国立公園登山道補修イベント開催業務）
- ・H30 泥凪箇所への補修
- ・H29 南沼野営指定地トイレ道植生復元作業
- ・H29 ササ刈り、枝払い
- ・H28 赤石灰撒き、草刈り
- ・H28 登山道の軽微な補修

【ニセイカウシュッペ山周辺】

- ・H30 ササ刈り
- ・H28 歩道の刈払い

【層雲峡地区周辺】

- ・H29 歩道の軽微な補修
- ・H28 GSSのための登山道補修技術の研修

【白雲避難小屋・高原温泉地区周辺】

- ・H29～30 歩道の軽微な補修
- ・H30 泥凪箇所への木道敷設
- ・H30 登山道整備
- ・H29 泥凪箇所の木道組み立て、石組み補修
- ・H28 山の日には山に恩返し 大雪高原温泉荷上げ登山

【石狩連峰周辺】

- ・H28～30 ササ刈り、倒木処理等
- ・H29 林道復旧工事

【沼の原地区周辺】

- ・H28～29 登山道点検等

【ニベソツ山周辺】

- ・H28～30 ササ刈り、倒木処理等
- ・H29作業道復旧工事
- ・H28 ニベソツ山登山道整備

【ウベペサンケ山周辺】

- ・H28 ササ刈り、倒木処理等

【然別湖周辺】

- ・H28～30 然別湖周辺登山道整備
- ・H28～30 ササ刈り

【複数範囲】

- ・H28～H30 大雪山国立公園東川地区登山道補修業務
- ・H30 たまには山へ恩返しin黒岳

▶ 登山道の整備・補修状況の詳細

資料4-2

平成30年度

登山道作業、活動内容	主催	場所	資料4-1での区分
たまには山へ恩返しin旭岳	上川総合振興局、一般社団法人、大雪山山守隊、大雪山国立公園連絡協議会	中岳裾合平線、東川町森林体験研修センター	旭岳周辺
たまには山へ恩返しin黒岳	上川総合振興局、一般社団法人、大雪山山守隊	黒岳、雲の平	複数範囲
平成30年度大雪山国立公園東川地区登山道補修業務	合同会社北海道山岳整備	沼ノ平姿見の池線道路（歩道）、層雲峡勇駒別線道路（歩道）、中岳裾合平線道路（歩道）	複数範囲
ボランティア登山	上富良野町 協力：上富良野十勝岳山岳会、上富良野高校、十勝岳ジオパークの会	富良野岳カミホロカメットク山線	富良野岳周辺
たまには山へ恩返しinトムラウシ（平成30年度大雪山国立公園登山道補修イベント開催業務）	北海道地方環境事務所 一般社団法人、大雪山山守隊（請負者でもある） 協力：新得山岳会、新得町	トムラウシ山	トムラウシ山周辺
平成30年度大雪山国立公園トムラウシ山登山道補修工事	北海道地方環境事務所（請負者：合同会社北海道山岳整備）	トムラウシ山	トムラウシ山周辺
然別湖周辺登山道整備	然別自然休養林保護管理協議会 参加：ポレアルフォレスト	然別湖外輪山（東雲湖、南ベウトル山、白雲山、東ヌプカウシヌプリ）	然別湖周辺
ササ刈り	NPO法人かむい	ニセイカウシュツベ山、朝陽山	ニセイカウシュツベ山周辺
泥凪箇所への木道敷設	（有）風の便り工房	高原温泉～緑沼	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
歩道の軽微な補修	上川中部森林管理署	高原温泉～緑岳	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
登山道整備	NPO法人かむい	赤岳周辺	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
登山道整備	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	旭岳9合目～中岳分岐	雲ノ平、北海平地区周辺
旭岳自然保護対策事業	東川町大雪山国立公園保護協会、NPO法人大雪山自然学校	旭岳周辺	雲ノ平、北海平地区周辺
ロープ張り、ササ刈り	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	六の沼周辺、永山岳方面	愛山溪地区周辺
登山道清掃、登山道整備	東川町、東川町大雪山国立公園愛護少年団	旭岳登山道	旭岳周辺
丸太橋修繕（2箇所）	富良野市	原始ヶ原沢コース	富良野岳周辺
ササ刈り、倒木処理等	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセンター	幌加温泉登山口～前天狗南分岐	ニペソツ山周辺
ササ刈り、倒木処理等	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセンター	ユニ石狩岳三股登山口～シュナイダー登山口	石狩連峰周辺
ササ刈り	しほろ自然環境に親しむ会	白雲山士幌高原コース	然別湖周辺
泥凪箇所の補修	上士幌自然保護官事務所	短縮コース登山口～トムラウシ分岐～トムラウシ温泉登山口	トムラウシ山周辺
草刈り	新得町	短縮コース登山口～トムラウシ分岐～トムラウシ温泉登山口	トムラウシ山周辺

平成29年度

登山道作業、活動内容	主催	場所	資料4-1での区分
たまには山へ恩返しin旭岳	上川総合振興局、山楽舎BEAR、大雪山国立公園連絡協議会 協力：大雪山山守隊、旭岳ファンクラブ環境保全金	中岳裾合平線 東川町第二コミュニティーセンター	旭岳周辺
たまには山へ恩返しin黒岳	上川総合振興局	雲の平	雲ノ平、北海平地区周辺

たまには山へ恩返しin愛山溪	上川自然保護官事務所 協力：大雪山国立公園連絡協議会	愛山溪三十三曲がり	愛山溪地区周辺
平成29年度大雪山国立公園上川地区登山道補修業務	合同会社北海道山岳整備	沼ノ平姿見の池線道路（歩道）	雲ノ平、北海平地区周辺
平成29年度大雪山国立公園東川地区登山道補修業務	合同会社北海道山岳整備	沼ノ平姿見の池線道路（歩道）、層雲峡勇駒別線道路（歩道）、中岳裾合平線道路（歩道）	複数範囲
センサー施工	東川自然保護官事務所 協力：上川総合振興局環境生活課	中岳裾合平線道路（歩道）	旭岳周辺
平成29年度大雪山国立公園トムラウシ山登山道補修工事	北海道地方環境事務所（請負者：合同会社北海道山岳整備）	トムラウシ山	トムラウシ山周辺
南沼野営指定地トイレ道植生復元作業	十勝総合振興局	トムラウシ南沼野営指定地	トムラウシ山周辺
然別湖周辺登山道整備	然別自然休養林保護管理協議会	然別湖外輪山	然別湖周辺
登山道点検等	上川自然保護官事務所、北海道山岳整備	沼ノ原北東側急勾配区間	沼ノ原地区周辺
歩道の軽微な補修	上川中部森林管理署	黒岳	層雲峡地区周辺
歩道の軽微な補修	上川中部森林管理署	赤岳、緑岳	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
泥凪箇所の木道組み立て、石組み補修	上川総合振興局、上川町、（有）風の便り工房	高原温泉沼巡りコース	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
ササ刈り	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	永山岳方面	愛山溪地区周辺
旭岳自然保護対策事業	東川町大雪山国立公園保護協会、NPO法人大雪山自然学校	旭岳周辺	雲ノ平、北海平地区周辺
資材荷上げ体験	上川総合振興局	裾合平	旭岳周辺
登山道コース整備	富良野山岳会	原始ヶ原	富良野岳周辺
ササ刈り、倒木処理等	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセンター	幌加温泉登山口～前天狗南分岐	ニペソツ山周辺
作業道復旧工事	十勝西部森林管理署東大雪支署	幌加温泉登山口	ニペソツ山周辺
ササ刈り、枝払い	上士幌自然保護官事務所	シュナイダー登山口～シュナイダーの肩	石狩連峰周辺
ササ刈り、倒木処理等	上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセンター	ユニ石狩岳三股登山口～十石峠	石狩連峰周辺
林道復旧工事	十勝西部森林管理署東大雪支署	音更川本流林道	石狩連峰周辺
ササ刈り、倒木処理等	然別自然休養林保護管理協議会、ポレアルフォレスト	東雲湖、南ベウトル山、白雲山、東ヌプカウシヌプリ等	然別湖周辺
ササ刈り	しほろ自然環境に親しむ会	白雲山士幌高原コース	然別湖周辺
草刈り	新得町	南沼～短縮コース登山口～トムラウシ温泉登山口	トムラウシ山周辺
ササ刈り、枝払い	上士幌自然保護官事務所	三川台～南沼	トムラウシ山周辺
ササ刈り、枝払い	上士幌自然保護官事務所	十勝岳新得コース	富良野岳周辺
林道復旧工事	十勝西部森林管理署東大雪支署	十勝岳新得登山口	富良野岳周辺

▶ 登山道の整備・補修状況の詳細

資料4-3

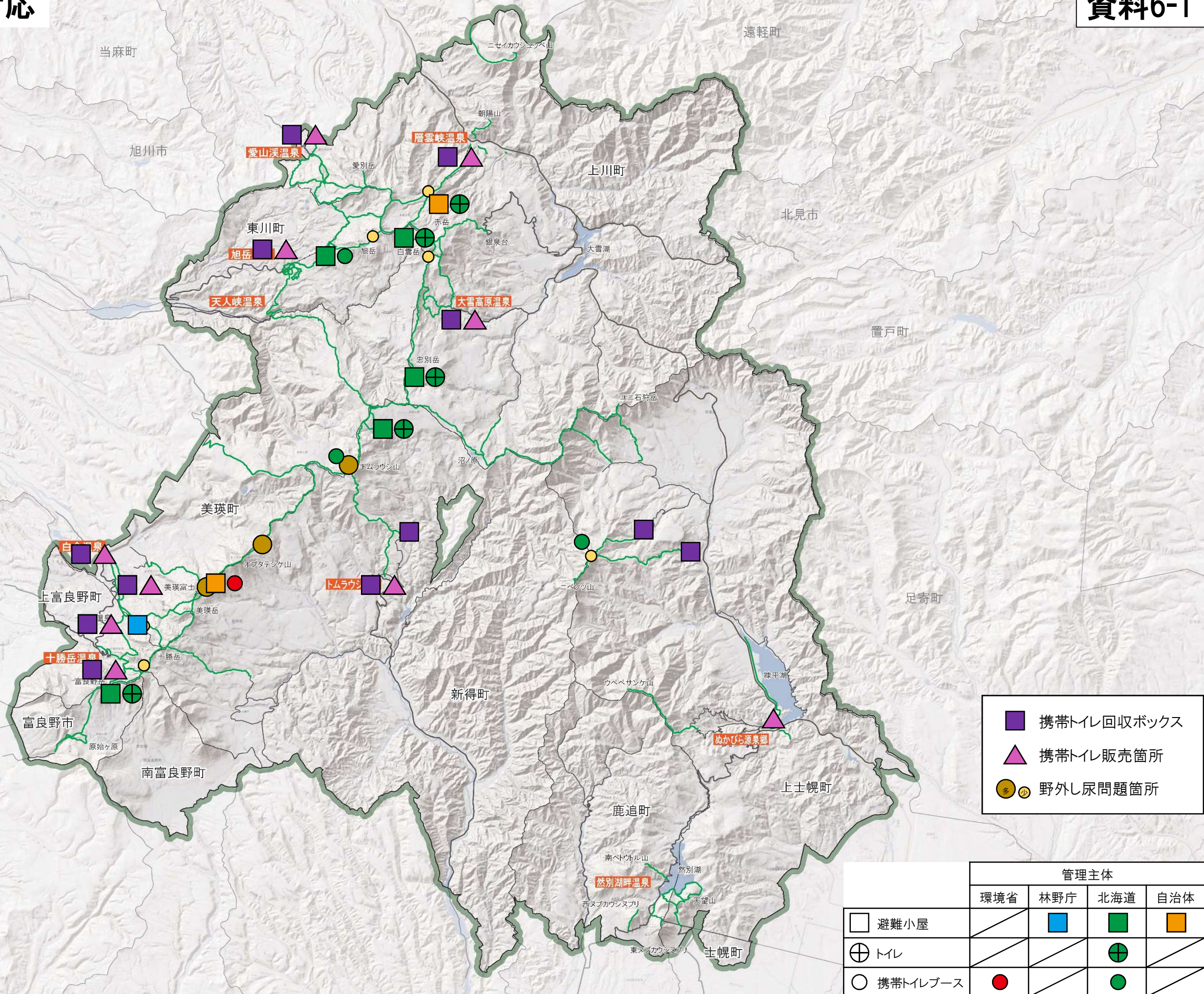
平成28年度

登山道作業、活動内容	主催	場所	資料4-1での区分
たまには山へ恩返しin旭岳	上川総合振興局、山楽舎BEAR、大雪山国立公園連絡協議会	旭岳姿見園地 東川町森林体験研修センター	旭岳周辺
山の日は山に恩返し 大雪高原温泉荷上げ登山	上川地区登山道維持管理連絡協議会、上川自然保護官事務所、上川総合振興局、上川中部森林管理署	大雪高原温泉沼巡りコース	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
GSSのための登山道補修技術の研修	上川自然保護官事務所	黒岳 7 合目	層雲峡地区周辺
GSSのための登山道補修技術の研修	上川自然保護官事務所	黒岳石室～赤石川間登山道整備	層雲峡地区周辺
上川自然保護官事務所、上川中部森林管理署、上川総合振興局合同巡視	上川自然保護官事務所、上川総合振興局、上川中部森林管理署	雲の平	雲ノ平、北海平地区周辺
平成28年度大雪山国立公園上川地区登山道保守点検等業務	合同会社北海道山岳整備	沼ノ平姿見の池線道路（歩道）	雲ノ平、北海平地区周辺
平成28年度大雪山国立公園東川管内登山道維持管理業務	合同会社北海道山岳整備	沼ノ平姿見の池線道路（歩道）、層雲峡勇駒別線道路（歩道）、中岳裾合平線道路（歩道）	複数範囲
テンサー施工	東川自然保護官事務所 協力：上川総合振興局環境生活課	中岳裾合平線道路（歩道）	旭岳周辺
原始ヶ原湿原植生復元	富良野市 協力：東川自然保護官事務所、富良野山岳会、大雪山国立公園パークボランティア連絡会 共催：上川南部森林管理署	原始ヶ原線	富良野岳周辺
然別湖周辺登山道整備	鹿追町（然別自然休養林保護管理協議会）	然別湖外輪山（西ヌブカウシヌプリ、東ヌブカウシヌプリ、白雲山土幌高原コース）	然別湖周辺
ニベソツ山登山道整備	ひがし大雪自然館運営協議会、上土幌自然保護官事務所	ニベソツ山	ニベソツ山周辺
ササ刈り、倒木処理等	上土幌町、ひがし大雪自然ガイドセンター	十六ノ沢コース登山口～ニベソツ山頂	ニベソツ山周辺
ササ刈り、倒木処理等	上土幌町、ひがし大雪自然ガイドセンター	シュナイダーの肩～シュナイダー登山口	石狩連峰周辺
ササ刈り、倒木処理等	上土幌町、ひがし大雪自然ガイドセンター	糠平コース新登山口～ウペベサンケ山西ピーク	ウペベサンケ山
ササ刈り、倒木処理等	上土幌町、ひがし大雪自然ガイドセンター	白雲山土幌高原登山口～白雲山登山口	然別湖周辺
倒木処理	上土幌自然保護官事務所	南ベトウトル山登山道	然別湖周辺
ササ刈り	しほろ自然環境に親しむ会	白雲山土幌高原コース	然別湖周辺
赤石灰撒き、草刈り	新得町	トムラウシ温泉登山口～短縮コース登山口～トムラウシ山	トムラウシ山周辺
登山道の軽微な補修	上土幌自然保護官事務所	トムラウシ温泉登山口～短縮コース登山口～トムラウシ山	トムラウシ山周辺
歩道の刈払い	上川中部森林管理署	ニセイカウシュツベ山	ニセイカウシュツベ山周辺
ササ刈り、ロープ張り	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	永山岳方面、半月湖周辺	愛山溪地区周辺
登山道点検等	上川自然保護官事務所	三十三曲～当麻乗越	愛山溪地区周辺
登山道点検等	上川自然保護官事務所	沼ノ原	沼ノ原地区周辺
（詳細なし）	NPO法人かむい	銀泉台～赤岳	白雲避難小屋、高原温泉地区周辺
（詳細なし）	NPO法人かむい	黒岳	層雲峡地区周辺

登山道補修後の点検（協働型作業）	上川自然保護官事務所	雲ノ平、北海平、赤石川周辺	雲ノ平、北海平地区周辺
旭岳自然保護対策事業	東川町大雪山国立公園保護協会、NPO法人大雪山自然学校	旭岳周辺	雲ノ平、北海平地区周辺
歩道の刈払い	上川中部森林管理署	勇駒別	旭岳周辺
ロープ張り、標柱ペイント、テンサー工、ヤシ土嚢袋設置等	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	旭岳周辺	旭岳周辺
ロープ張り、ササ刈り	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	愛山溪周辺	愛山溪地区周辺
登山道修繕	東川自然保護官事務所	沼ノ平～姿見の池線、中岳温泉～間宮分岐線	旭岳周辺
登山道刈払い	上川中部森林管理署	美瑛富士登山道	十勝岳、美瑛富士周辺
倒木処理、段差処理	美瑛山岳会	美瑛富士登山道	十勝岳、美瑛富士周辺
ササ刈り、登山道補修等	美瑛山岳会	美瑛岳登山道	十勝岳、美瑛富士周辺
導流工、路面整備	美瑛山岳会	十勝岳登山道	十勝岳、美瑛富士周辺

▶し尿問題とその対応

資料6-1



▲大雪山国立公園におけるトイレの現状

平成30年10月18日現在
 上川・東川・上士幌自然保護官事務所

場所		市町	避難小屋・山小屋	野営場	トイレ	野外し尿の状況	携帯トイレ ブース	回収ボックス	携帯トイレ販売
山岳地	黒岳	上川	有 (管理人有)	有 (野営指定地)	有	少	無	-	-
	裏旭	東川	無	有 (野営指定地)	無	少	無	-	-
	白雲岳	上川	有 (管理人有)	有 (野営指定地)	有	少	無	-	-
	忠別岳	上川	有	有 (野営指定地)	有	無	無	-	-
	ヒザゴ沼	新得	有	有 (野営指定地)	有	無	無	-	-
	南沼	新得、美瑛	無	有 (野営指定地)	無	多	有	-	-
	沼ノ原大沼	上川	無	有 (野営指定地)	無	未確認	無	-	-
	ブヨ沼	上士幌、上川	無	有 (野営指定地)	無	無	無	-	-
	小天狗のコル	上士幌	無	有 (野営指定地)	無	無	無	-	-
	ニベソツ山前天狗	上士幌	無	有 (暫定的な野営指定地)	無	少	有	-	-
	双子池	美瑛、新得	無	有 (野営指定地)	無	多	無	-	-
	美瑛富士	美瑛、新得	有	有 (野営指定地)	無	多	有	-	-
	十勝岳避難小屋	美瑛	有	無	無	少	無	-	-
	上ホロカメツク	上富良野、新得	有	有 (野営指定地)	有	少	無	-	-
	層雲峡	上川	無	有	有	無	無	設置は環境省、回収は上川町	有 ○層雲峡ビジターセンター ○黒岳ロープウェイ売店 ○層雲峡各大手ホテル等
登山口	愛山溪温泉	上川	有	無	有	無	無	設置・回収は上川町	有 ○愛山溪倶楽部
	銀泉台	上川	無	無	有	無	無		無
	大雪高原温泉	上川	有	無	有	無	無	設置は上川地区登山道維持管理連絡協議会、回収は上川町	無 ○大雪高原山荘
	姿見	東川	有	無	有	無	有		有 ○旭岳ビジターセンター ○大雪山旭岳ロープウェイ
	旭岳温泉	東川	無	有	有	無	無	設置は振興局、回収は東川町	有 同上
	天人峡	美瑛	無	無	有	無	無		無
	クチャンベツ	上川	無	無	有 (仮設)	無	無		-
	美瑛富士登山口	美瑛	無	無	無	無	無		-
	白金温泉望岳台歩道登山口 (白金温泉観光センター)	美瑛	無	有	有	無	無	設置は山のトイレを考える会、回収は美瑛町	有 ○湯元白金温泉ホテル ○大雪山白金温泉観光ホテル ○ホテルパープルレズ
	望岳台	美瑛	無	無	有	無	無	設置・回収は美瑛町	無 ○十勝岳望岳台防災シェルター
	吹上温泉	上富良野	無	有	有	無	無	回収は上富良野町	有 ○白銀荘
	十勝岳温泉	上富良野	無	無	有	無	無	回収は上富良野町	有 ○十勝岳温泉凌雲閣
	原始ヶ原登山口	富良野	有	無	有	無	無		無
	シュナイダーコース登山口	上士幌	無	無	有	無	無		無
	エニ石狩岳登山口	上士幌	無	無	無	無	無		無
	トムラウシ温泉コース登山口	新得	無	無	有	無	無	設置は北海道、回収は新得町	有 ○トムラウシ温泉東大雪荘
	トムラウシ短縮コース登山口	新得	無	無	有	無	無	設置は北海道、回収は新得町	有 ○トムラウシ温泉東大雪荘
	十勝岳新得コース登山口	新得	無	無	無	無	無		無
	ニベソツ山十六の沢コース登山口	上士幌	無	無	有	無	無	設置は北海道、回収は上士幌町	無
	ニベソツ山幌加温泉コース登山口	上士幌	無	無	有	無	無	設置は北海道、回収は上士幌町	無
	ウベサンケ山登山口	上士幌	無	無	無	無	無		有 ○ひがし大雪自然館
	天宝山登山口	上士幌	無	無	無	無	無		有 ○ひがし大雪自然館
	南ペトウルル山登山口	鹿追	無	無	有	無	無		無
	白雲山然別湖側登山口	鹿追	無	無	有	無	無		無
	白雲山士幌側登山口	士幌	無	無	有	無	無		無
	東ヌブカウシヌブリ登山口	鹿追	無	無	無	無	無		無
	西ヌブカウシヌブリ登山口	鹿追	無	無	有	無	無		無

▶公園利用において想定されるリスク

【想定されるリスク】

- ・ 滑落
 - ・ 道迷い
 - ・ 転倒
 - ・ 疲労
 - ・ 熱中症
 - ・ 低体温症
- ・ 雪崩
 - ・ 強風
 - ・ 濃霧
 - ・ ハチ
 - ・ クマ

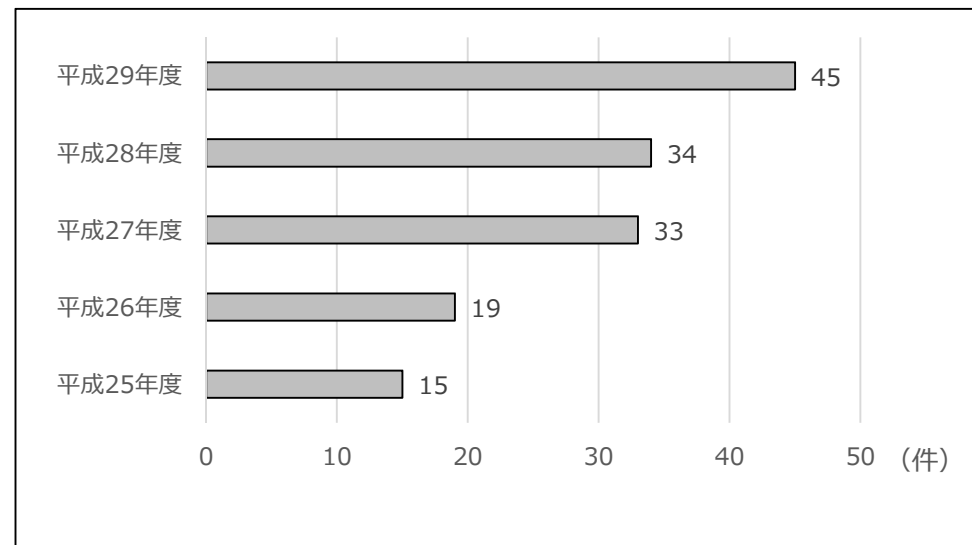


図 平成25～29年度大雪山国立公園での事故件数

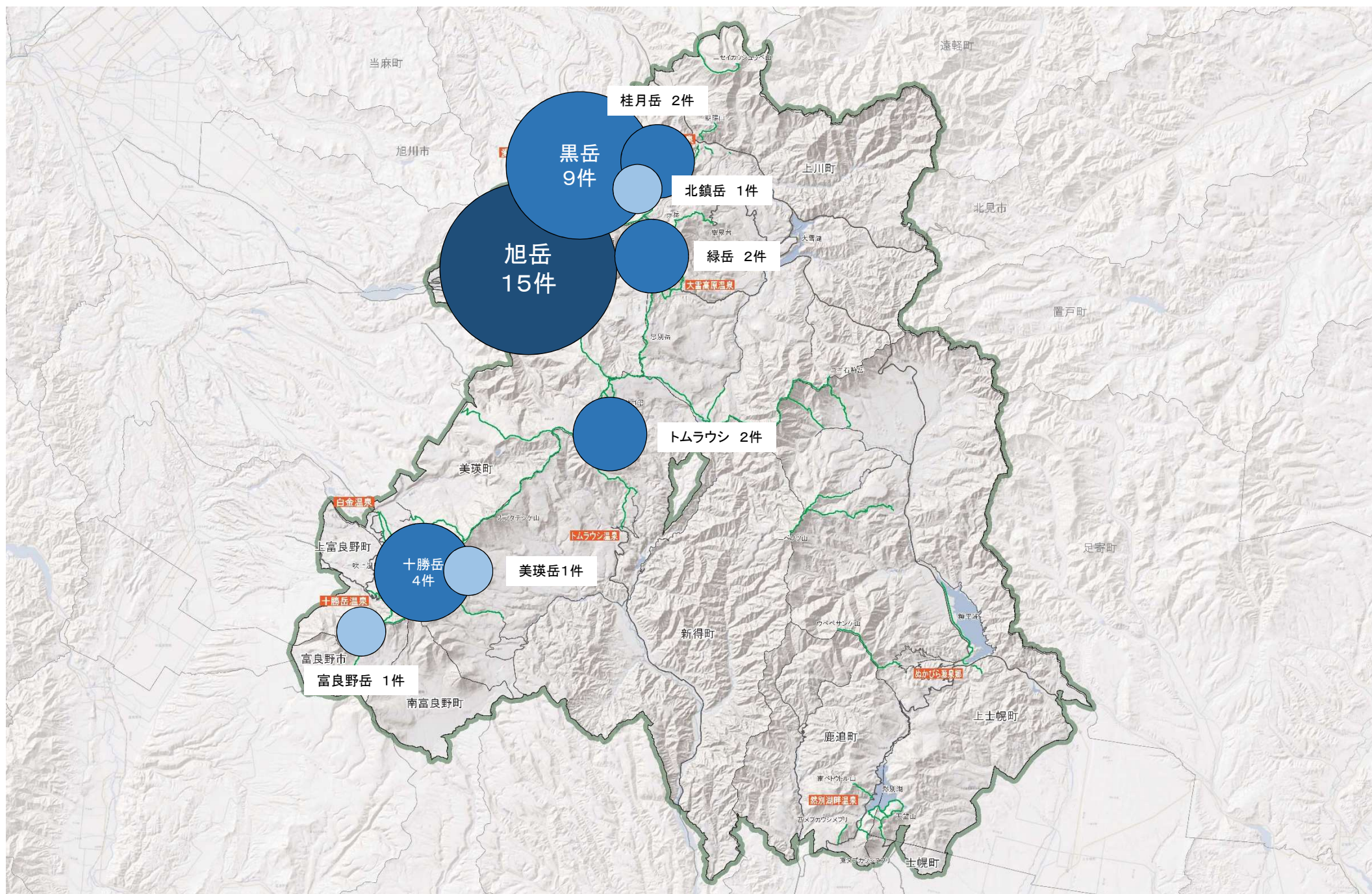


図 平成29年度大雪山国立公園での遭難事故件数

資料7

表 平成29年度遭難事故の詳細

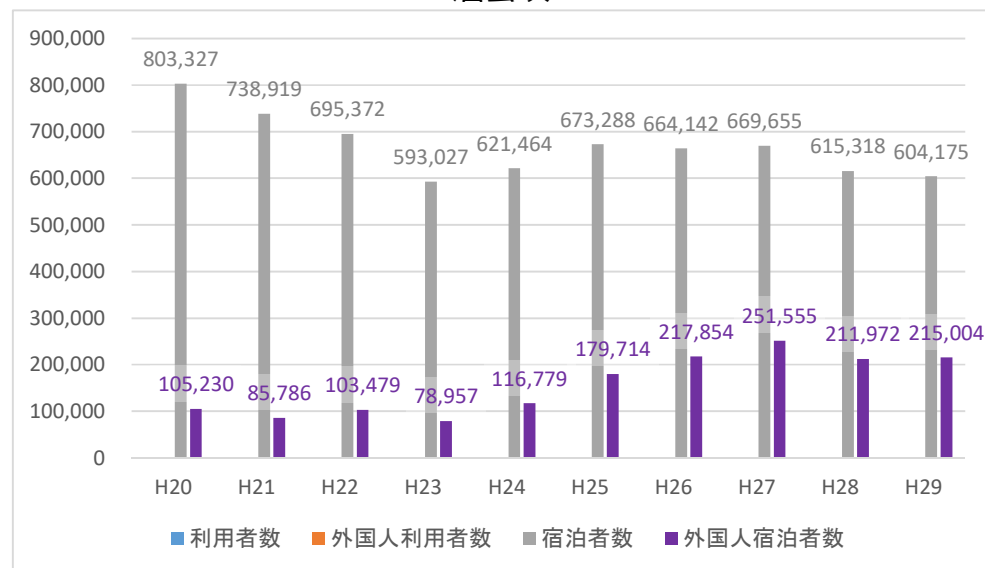
発生日	山岳名	山系	遭難者			
			居住地	性別	年齢	態様
4月8日（土）	黒岳	大雪山系	中国	男	30代	負傷
4月14日（金）	旭岳	大雪山系	中国	女	20代	負傷
5月4日（木）	暑寒別岳	増毛山地	北海道	男	60代	無事
6月2日（金）	旭岳	大雪山系	北海道	女	10代	負傷
6月5日（月）	黒岳	大雪山系	フィンランド	男	20代	無事
6月5日（月）	黒岳	大雪山系	フィンランド	女	20代	無事
6月11日（日）	十勝岳	十勝岳連峰	東京都	男	50代	死亡
6月15日（木）	旭岳	大雪山系	山梨県	男	60代	死亡
6月17日（土）	黒岳	大雪山系	北海道	女	60代	負傷
6月18日（日）	十勝岳	十勝岳連峰	北海道	男	60代	無事
6月23日（金）	北鎮岳	大雪山系	大阪府	男	50代	無事
6月23日（金）	旭岳	大雪山系	兵庫県	男	40代	無事
6月24日（土）	トムラウシ	十勝岳連峰	北海道	男	70代	負傷
7月3日(月)	南暑寒岳	増毛山地	茨城県	男	50代	負傷
7月4日(火)	利尻山	利尻山	茨城県	男	40代	無事
7月7日(金)	利尻山	利尻山	東京都	女	60代	負傷
7月9日(金)	十勝岳	十勝岳連峰	徳島県	女	60代	負傷
7月10日(月)	利尻山	利尻山	兵庫県	男	70代	無事
7月13日(木)	緑岳	大雪山系	神奈川県	女	70代	負傷
7月14日(金)	旭岳	大雪山系	北海道	女	70代	負傷
7月15日（土）	トムラウシ	十勝岳連峰	千葉県	男	60代	負傷
7月16日（日）	緑岳	大雪山系	兵庫県	女	60代	負傷
7月21日（金）	旭岳	大雪山系	山梨県	女	60代	負傷
7月24日（月）	富良野岳	夕張山地	埼玉県	男	70代	負傷
7月24日（月）	利尻山	利尻山	広島県	男	60代	負傷
8月13日（日）	桂月岳	大雪山系	北海道	男	20代	負傷
8月20日（日）	旭岳	大雪山系	東京都	男	20代	無事
8月20日（日）	旭岳	大雪山系	神奈川県	男	70代	負傷
8月20日（日）	暑寒別岳	増毛山地	北海道	男	60代	負傷
8月20日（日）	暑寒別岳	増毛山地	北海道	女	30代	負傷
8月31日（木）	利尻山	利尻山	カナダ	男	30代	負傷
9月10日（日）	美瑛岳	十勝岳連峰	北海道	女	70代	負傷
9月17日（日）	旭岳	大雪山系	北海道	男	60代	負傷
9月23日（土）	旭岳	大雪山系	北海道	女	50代	負傷
10月17日（火）	旭岳	大雪山系	神奈川県	男	70代	負傷
			神奈川県	女	60代	負傷
			マレーシア	男	20代	負傷
			シンガポール	女	20代	負傷
11月7日（火）	十勝岳	十勝岳連峰	北海道	男	40代	無事
12月6日（水）	黒岳	大雪山系	北海道	男	20代	負傷
12月5日（火）	黒岳	大雪山系	タイ	男	30代	負傷
			タイ	男	20代	負傷
12月23日（土）	北の峰	夕張山地	大阪府	男	40代	無事
			大阪府	女	40代	無事
			大阪府	男	10代	無事
			大阪府	女	10代	無事
12月30日（日）	北の峰	夕張山地	福岡県	女	20代	無事
			福岡県	女	20代	無事
			福岡県	女	20代	無事
			福岡県	女	20代	無事
			福岡県	男	20代	無事
			福岡県	女	20代	無事
1月6日（土）	旭岳	大雪山系	スウェーデン	女	50代	負傷
2月8日（木）	北の峰	夕張山地	フランス	男	50代	無事
			フランス	男	50代	無事
			フランス	女	50代	無事
			フランス	男	50代	無事
			フランス	男	50代	無事
2月14日（水）	北の峰	夕張山地	オーストラリア	男	40代	負傷
2月24日（土）	北の峰	夕張山地	スウェーデン	女	50代	負傷
3月3日（土）	北の峰	夕張山地	オーストラリア	男	50代	無事
3月18日（日）	半面岳	その他	北海道	男	50代	死亡
3月19日（月）	旭岳	大雪山系	中国	男	30代	無事

※ 出典 平成25～29年度道北地方山岳遭難防止対策協議会総会資料

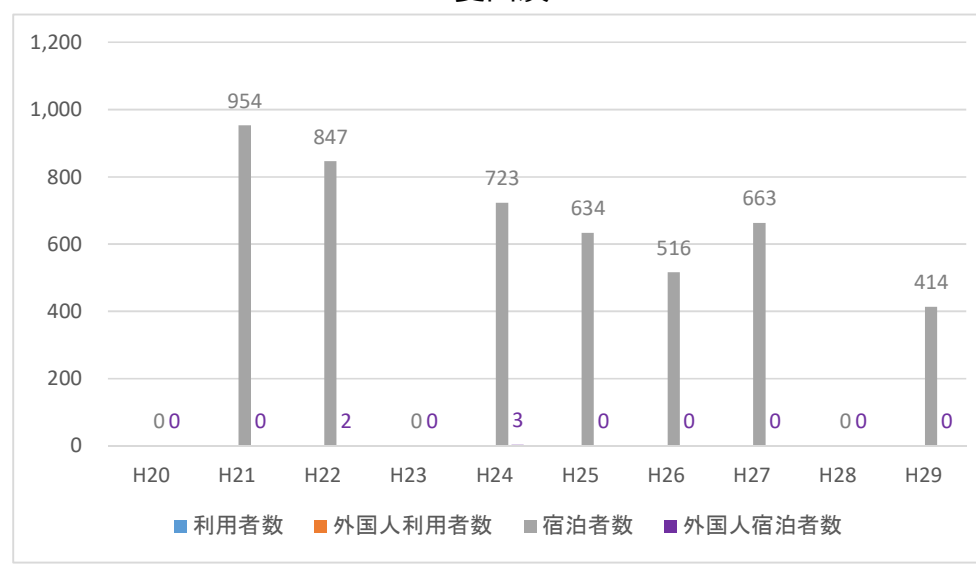
▶利用拠点の利用者数

資料8

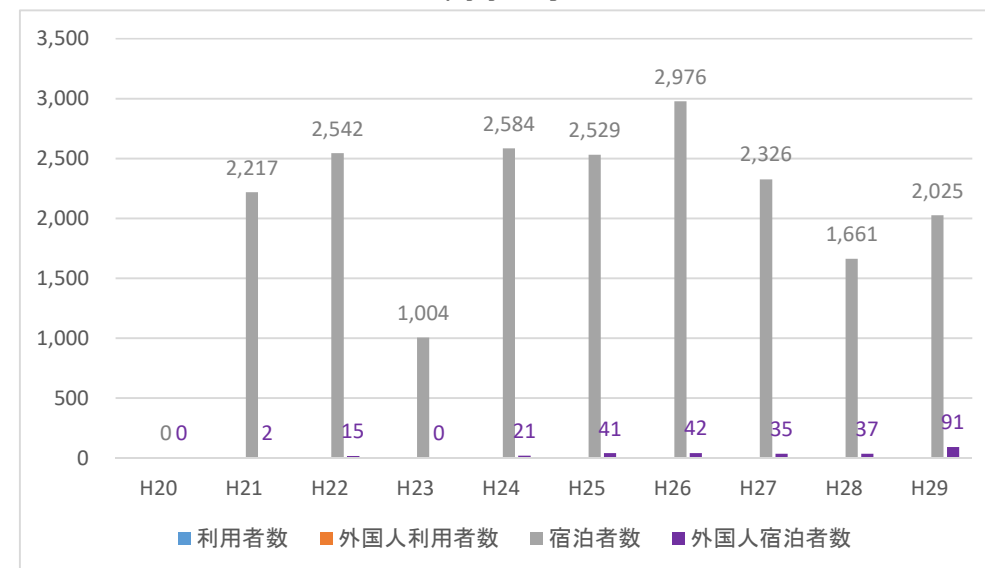
層雲峡



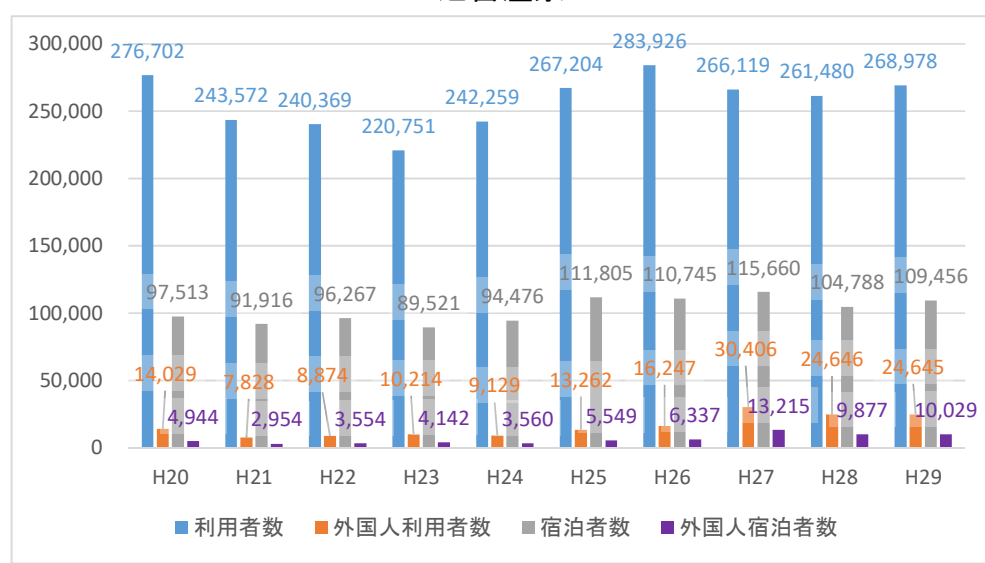
愛山溪



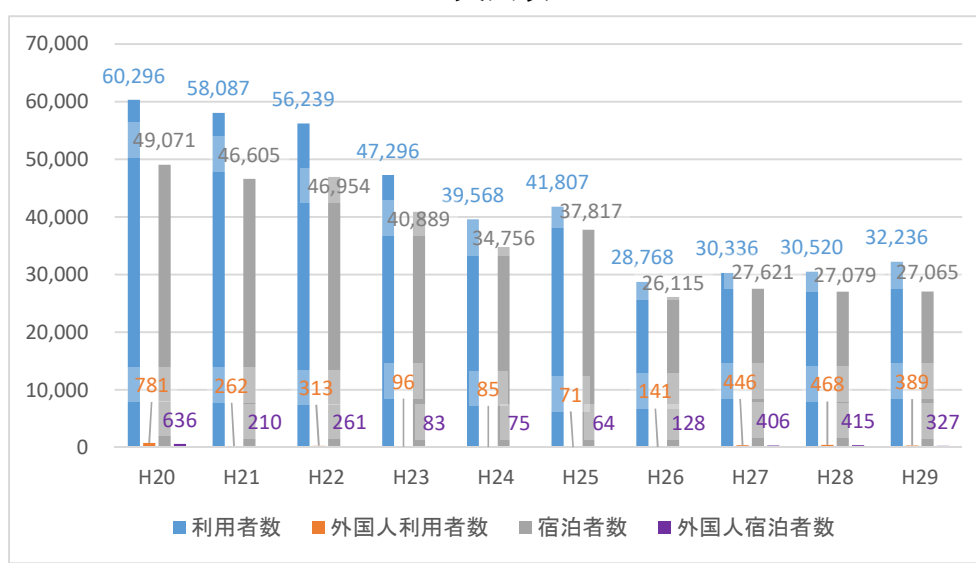
高原温泉



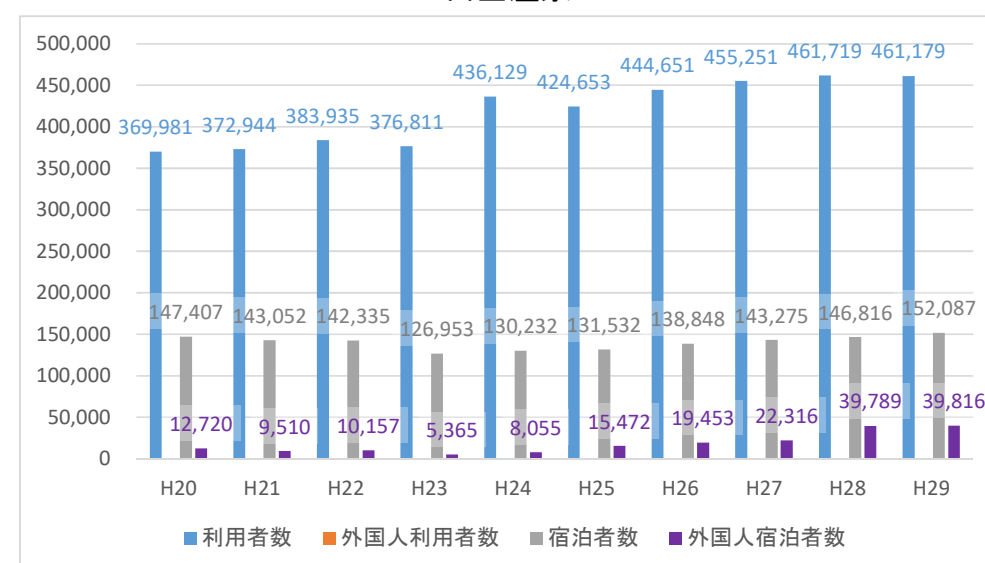
旭岳温泉



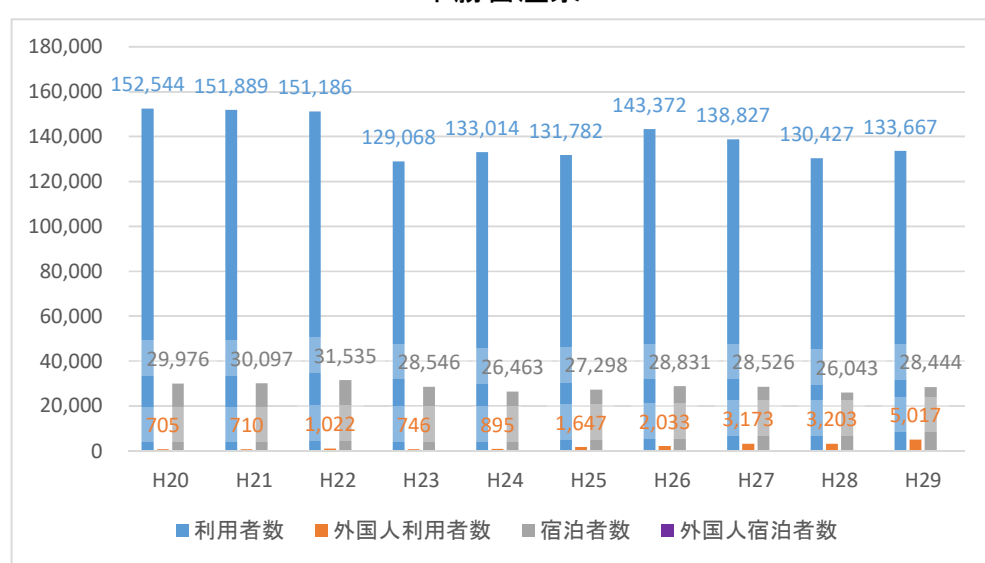
天人峡



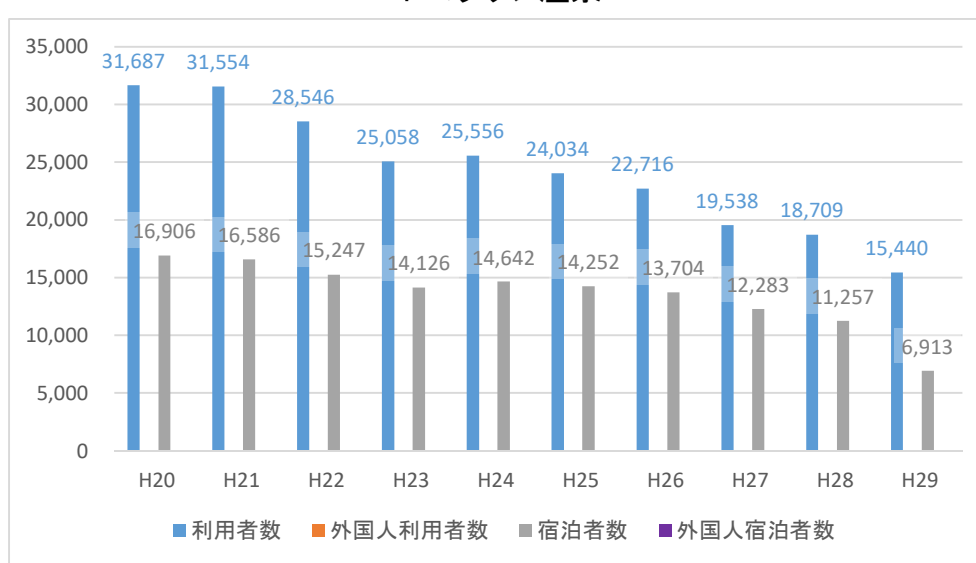
白金温泉



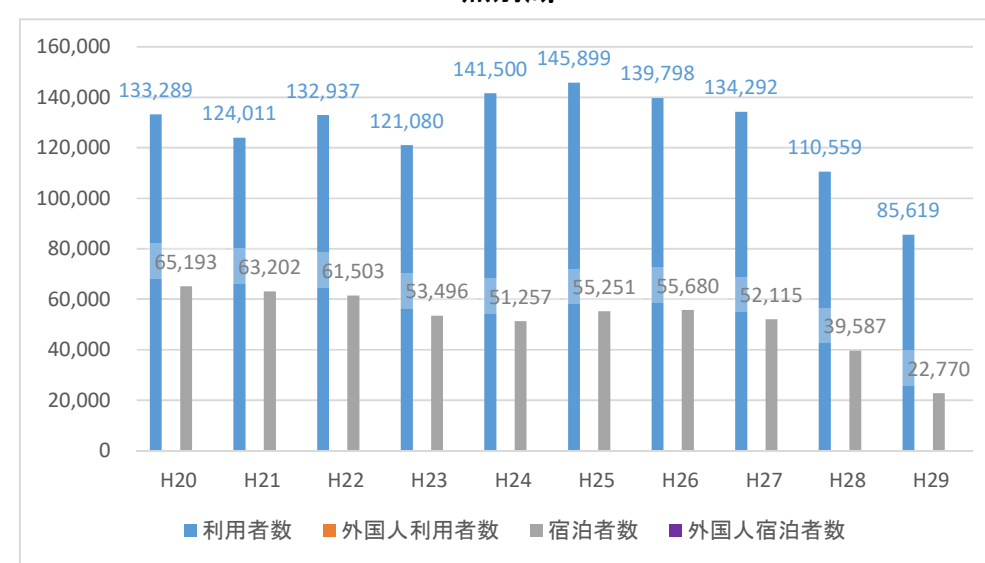
十勝岳温泉



トムラウシ温泉



然別湖



※各観光協会データ参考。データがあるもののみ記載

利用拠点	施設名	提供するサービス	利用期間	利用料金
層雲峡	層雲峡ビジターセンター(環境省)	見学施設	通 年	無料
	黒岳の湯(上川町)	温泉、レストラン、売店	通 年	温泉:600円(大人)、300円(小人)
	層雲峡野営場(北海道)	キャンプ場	7月～8月	キャンプ料金:無料
	層雲峡写真ミュージアム(上川町)	見学施設	5月～10月	入館料:600円(一般)、500円(団体10名以上)
	層雲閣グランドホテル	宿泊(158室/820名)、温泉、レストラン、売店、宴会、アミューズメント	通 年	温泉:1,000円(日帰り) 宿泊:約11,800円(大人)
	ホテル大雪	宿泊(231室/1,100名)、温泉、レストラン、売店、宴会、アミューズメント	通 年	温泉:800円(大人)、600円(小人) 宿泊:約13,200円(大人)
	層雲峡観光ホテル	宿泊(242室/850名)、温泉、レストラン、売店、宴会、アミューズメント	通 年	温泉:600円(大人)、300円(小人) 宿泊:約15,300円(大人)
	層雲峡朝陽亭	宿泊(252室/1,008名)、温泉、レストラン、売店、宴会、アミューズメント、マッサージ	通 年	温泉:800円(大人)、400円(小学生)、無料(幼児) 宿泊:9,300円～10,300円(大人)
	層雲峡温泉朝陽リゾートホテル	宿泊(188室/826名)、温泉、レストラン、売店、宴会、アミューズメント	通 年	温泉:800円(大人)、400円(小学生)、無料(幼児) 宿泊:約9,000円～10,000円(大人)
	ホテルノーザンロッジ	宿泊(36室/130名)、温泉(日帰り入浴なし)、レストラン、売店、レンタサイクル	通 年	温泉:日帰り入浴なし 宿泊:約7,100円～8,100円(大人)
	湯元銀泉閣	宿泊(36室/150名)、温泉、レストラン、売店、宴会、アミューズメント	5月～10月頃	温泉:600円(大人)、300円(小学生) 宿泊:表記なし
	民宿とだて	宿泊(9室/20名)、レストラン	通 年	宿泊:3,500円(1名) ※7、9、10月は3,800円
	ホテルクモイ	宿泊(35室/180名)、温泉、アミューズメント	通 年	温泉:表記なし 宿泊:約5,400円～5,940円
高原温泉	層雲峡ホテル	宿泊(10室/72名)	6月下旬～10月中旬	宿泊:3,200円～4,500円
	ヒグマ情報センター	見学施設 大雪高原温泉沼めぐり 登山コース利用ルールレクチャー	6月下旬～10月上旬	無料
	大雪高原山荘	宿泊(16室/56名)、温泉、レストラン、売店	6月上旬～10月上旬 ※夏、秋のみ	温泉:800円(大人)、400円(小学生) 宿泊:14,730円～20,130円
愛山溪	愛山倶楽部	宿泊(8室/人数表記なし)、温泉	5月12日～10月14日 ※営業休止中、 営業再開は早くとも 2019年8月末の予定	温泉:600円(大人)、450円(小学生)、無料(未就学児童) 宿泊:8,000円～14,000円(大人、本館)、2,400円(大人、別館)
旭岳温泉	旭岳ビジターセンター(北海道)	登山関連施設、レンタル、休憩所	通 年	無料
	旭岳青少年野営場	キャンプ場 ※炊事場、トイレ有	6月10日～9月30日	利用料金(1泊):500円(大人)、200円(子供)、100円(日帰り)
	ラピス大雪山	宿泊(85室/249名)、温泉、レストラン、売店、エステ	通 年	温泉:1,500円(大人)、750円(小人) 宿泊:約15,000円～(大人)
	湯元湧駒荘	宿泊(室数、人数表記なし)、温泉、レストラン、売店	通 年	温泉:800円～1,500円(大人)、350円(小学生)、無料(幼児) 宿泊:約6,900円～(大人)
	大雪山白樺荘	宿泊(室数、人数表記なし)、温泉、レストラン、売店	通 年	温泉:800円(大人)、400円(小人) 宿泊:約8,940円～(大人)
	旭岳温泉ホテルディアバレー	宿泊(26室/54名)、温泉(日帰り入浴なし)、レストラン(宿泊客のみ利用可)、売店	通 年	温泉:日帰り入浴なし 宿泊:約7,500円～(大人)
	旭岳温泉ホテルペアモント	宿泊(107室/365名)、温泉、レストラン、売店、宴会	通 年	温泉:1,080円(大人)、480円(小人)、無料(小学生未満・幼児) 宿泊:約7,000円～(大人)
	大雪山山荘	宿泊(5室/10名)、温泉(日帰り入浴なし)	通 年	温泉:日帰り入浴なし 宿泊:約6,500円～(大人)
	アートヴィレッジ杜季	宿泊(室数、人数表記なし)、温泉(日帰り入浴なし)	通 年	温泉:日帰り入浴なし 宿泊:約21,750円(大人)
	【休館中】グランドホテル大雪			
	【休館中】白雲荘			
	御やど しきしま荘	宿泊(室数、人数表記なし)、温泉、宴会、売店、レストラン	通 年	温泉:700円(大人)、400円(小人) 宿泊:約7,000円～(大人)
	【休館中】天人閣	宿泊(99室/444名)、温泉、宴会、売店、レストラン、アミューズメント	通 年	温泉:1,000円(大人)、500円(小人) 宿泊:約7,500円～(大人)
天人峡	十勝岳望岳台防災シェルター(美瑛町)	見学施設	春、夏、秋 ※冬期閉鎖(積雪状況により期間変動)	無料
白金温泉	国民保養センター(美瑛町)	温泉(日帰り)	通 年	温泉:300円(大人)、100円(小人)
	国立大雪青少年交流の家 (独立行政法人国立青少年教育振興機構)	宿泊施設、体験、レストラン (社会教育・団体活動等利用制限有)	通 年	使用料金(1泊):800円
	大雪山白金観光ホテル	宿泊(74室/336名)、温泉、宴会、売店、レストラン、アミューズメント	通 年	温泉:1,000円(大人)、400円(小人) 宿泊:約6,000円～(大人)
	民宿・観光みやげ 林道	宿泊(6室/12名)、温泉	通 年	温泉:表記なし 宿泊:約7,000円
	森の旅亭 びえい	宿泊(17室/52名)、温泉、売店、レストラン	通 年	温泉:800円(大人)、400円(小学生)、100円(幼児) 宿泊:約17,000円～32,000円(大人)
	湯元白金温泉ホテル	宿泊(55室/240名)、温泉、宴会、売店	通 年	温泉:800円(大人)、400円(子供)、200円(幼児) 宿泊:約10,000円～(大人)
	美瑛ゲストハウス&温泉宿 白金の湯	宿泊(室数、人数表記なし)、温泉	通 年	温泉:500円(大人)、300円(7～12歳)、200円(6歳以下) 宿泊:約3,150円～4,000円(大人)

▶利用拠点の施設一覧(つづき)

利用拠点	施設名	提供するサービス	利用期間	利用料金
十勝岳温泉	吹上露天の湯(上富良野町)	温泉	通年	無料
	吹上温泉保養センター 白銀荘 (上富良野町)	宿泊(8室/70名)、温泉 ※自炊設備有、食事提供はなし	通年	温泉:600円(大人)、400円(中・高校生)、200円(小学生) 宿泊:2,600円(大人)、1,800円(中・高校生)、1,200円(小学生) ※暖房料金(11/1～4/30まで):1泊150円
	十勝岳温泉 カミホロ荘	宿泊(23室/92名)、温泉、売店、宴会 ※乾燥室(スキー等用)	通年	温泉:600円(大人)、350円(小人) 宿泊:1室2名10,500円～16,500円、1室4名8,500円～13,500円
	十勝岳温泉 湯元 凌雲閣	宿泊(16室/64名)、温泉、 レストラン、売店、宴会場(有料)	通年	温泉:800円(大人)、400円(小学生)、無料(幼児) ※冬期大人600円、小学生300円 宿泊:約6,000円～(大人)
	富良野 思惟林(FURANO Shiyuirin)	宿泊(室数、人数表記なし)、 温泉(日帰り入浴なし)	通年	温泉:表記なし 宿泊:約16,000円～46,000円(大人2名～)
	然別峡野営場(鹿追町)	キャンプ場、温泉 ※炊事場、トイレ有	7月1日～9月30日	キャンプ料金(1泊):250円(大人)、150円(子供) 温泉:無料
	然別湖北岸野営場(東大雪支署)	キャンプ場	7月1日～9月30日	キャンプ料金(1泊):250円(大人)、150円(子供)
	【休業中】山田温泉宿舎(鹿追町)			
	然別湖湖畔温泉ホテル風水	宿泊(室数、人数表記なし)、 温泉、レストラン、遊覧船	通年	温泉:1,000円(大人)、500円(小人) 宿泊:約12,460円～20,000円(大人) 遊覧船:650円(1,000円(大人)、330円～500円(小人) ※貸しボート:1,000円(60分)
	然別峡かんの温泉	宿泊(室数、人数表記なし)、温泉、 売店、レストラン(宿泊客に提供のみ)	通年	温泉:650円(大人)、300円(中学生)、200円(小学生)、無料(幼児) 宿泊:約7,170円～14,190円(大人)
めかびら源泉郷	ひがし大雪自然館(環境省、上士幌町)	見学施設	通年	無料
	糠平野営場(東大雪支署)	※炊事場、トイレ、テーブル、ベンチ有	6月25日～9月24日	利用料金(1泊):350円(大人)、200円(小学生)、無料(小学生未満) ※日帰り料金:100円(大人)、50円(小学生)
	上士幌町鉄道資料館(上士幌町)	見学施設	4月～10月	入館料:100円
	中村屋	宿泊(18室/人数表記なし)、温泉、売店、 レストラン、マッサージ、レンタルカー、 体験(著作り、バードコール作り)	通年	温泉:500円(大人)、300円(小学生)、200円(幼児) 宿泊:6,630円～14,190円(大人) 体験:2,000円(著作り)、800円(バードコール作り) ※宿泊者以外も体験可
	湯元館	宿泊(コテージのみ1棟につき2～4名)、温泉 ※本館宿泊は休業中。 当分の間営業再開予定はなし	通年	温泉:800円(大人)、200円(小学生) コテージ利用料金:28,000円～30,000円(大人2名) ※小学生以下利用無料
	山の旅籠 山湖荘	宿泊(8室/人数記載なし)、温泉 ※小学生以下のお子様の宿泊不可	通年	温泉:500円(大人)、200円(小学生)、100円(小学生以下) 宿泊:約8,000円～12,500円(大人)
	糠平館観光ホテル	宿泊(88室/330名)、温泉、売店、 レストラン、アミューズメント	通年	温泉:1,000円(大人)、500円(小人)、300円(幼児) 宿泊:約4,860円～9,720円(大人)
	ペンション 森のふくろう	宿泊(7室/人数表記なし)、風呂、 レストラン、レンタルスキー・スノーボード	通年	温泉:500円(大人)、200円(小学生)、無料(小学生未満) 宿泊:約9,800円～(大人)
	糠平温泉ホテル	宿泊(15室/60名)、温泉、宴会、 レストラン	通年	温泉:500円(大人)、300円(小人) 宿泊:5,550円～12,030円(大人)
	東大雪めかびらユースホステル	宿泊(8室/23名)、温泉、 季節イベント・ツアー (宿泊客のみ参加可能)	休館期間あり (4月上旬～中旬、 11月下旬～12月中旬)	温泉:400円(大人)、200円(小学生)、無料(小学生未満) 宿泊:4,200円～7,450円(大人)
トムラウシ温泉	プライマルステージ	宿泊(コテージ4棟/1棟につき2～6名)、 温泉、レストラン	通年	温泉:500円(大人)、250円(子供) 宿泊(コテージ利用料金):14,532円～22,212円
	グリーン糠平	宿泊(室数、人数表記なし)、 温泉(日帰り可否表記なし)	通年	温泉:表記なし 宿泊:6,000円～(1泊2食)
	トムラウシ温泉国民宿舎東大雪荘 (新得町)	宿泊(29室/118名)、温泉、売店、 宴会、レストラン	通年	温泉:500円(大人)、250円(小学生)、無料(就学前幼児) 宿泊:7,500円～(大人)
士幌高原	トムラウシ野営場(東大雪支署)	キャンプ場(テント150張り) ※炊事場、トイレ有	7月1日～9月30日	利用料金:250円(大人)、150円(小人)
	山の交流館 とむら	宿泊 (コテージ棟数表記なし/1棟につき6名)	表記なし	利用料金:1棟につき12,960円～
士幌高原	士幌高原スプカの里(士幌町)	宿泊(コテージ6棟/1棟につき6～11名) (ロッジ最大50名宿泊可能)、 キャンプ場、売店 ※敷地内焼肉ハウス有	4月～11月	コテージ宿泊料:1棟1泊5,000円～ ※7～8月は7,000円～ ロッジ宿泊料(1泊):1,200円(大人)、800円(高校生)、500円(小中学生) ※日帰り利用料金:600円(大人)、400円(高校生)、200円(小中学生) キャンプ場利用料金(1泊):1区画500円

※【施設名】 赤字:公園事業 黒字:公園事業以外

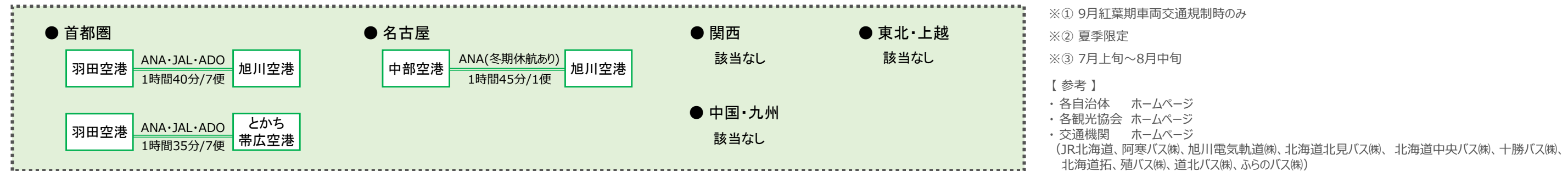
分類	団体名（施設名）	SNS			総合型 協議会 (準備会)	情報 交換会	その他
		Facebook	Twitter	Instagram			
行政機関	北海道上川総合振興局	△	×	×	●	●	
	北海道十勝総合振興局	△	△	×	●	●	
	富良野市	△	×	×	●		
	上川町	△	×	×	●	●	
	東川町	△	×	×	●		
	美瑛町	△	△	△	●	●	
	上富良野町	△	△	×	●	●	
	南富良野町	△	×	×	●		
	士幌町	△	×	×	●	●	
	上士幌町	○	△	×	●	●	
	鹿追町	○	×	×	●	●	
	新得町	×	×	×	●	●	
	北海道森林管理局 （上川中部・上川南部・十勝西部東大雪支署）	△	△	×	●	●	
	北海道開発局旭川開発建設部	△	△	×	●		
	北海道開発局帯広開発建設部	×	△	×	●		
	北海道運輸局観光部	×	×	×	●		
	旭川東警察署	×	×	×		●	
観光協会	（一社）層雲峡観光協会	○	×	×	●		
	（一社）ひがしかわ観光協会	○	×	×	●		
	（一社）美瑛町観光協会	△	△	×	●		
	（一社）かみふらの十勝岳観光協会	○	△	△	●		
	（一社）ふらの観光協会	△	△	△	●		
	NPO法人南富良野まちづくり観光協会	×	×	×	●		
	㈱りんゆう観光	△	△	×	●	●	
交通事業者	ワカサリゾート㈱	○	△	△	●		
	道北バス㈱	×	×	×	●		
	旭川電気軌道㈱	×	△	×	●		
	十勝バス㈱	△	△	△	●		
	北海道拓殖バス㈱	△	△	×	●		
	合同会社 北海道山岳整備・大雪山・山守隊	○	×	×		●	
	（有）風の便り工房	×	×	×		●	
保全活動団体 （行政制度に基づくもの）	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	△	×	×		●	
	大雪地区自然公園指導員連絡協議会	×	×	×		●	
	しほろ自然環境に親しむ会	×	×	×		●	
	NPO法人 大雪自然学校	△	×	×		●	
ビジターセンター	層雲峡地区自然ふれあい利用協議会	×	×	×	●		
	ひがし大雪自然館運営協議会	×	×	×	●		
	東川エコーリズム推進協議会	○	×	×		●	
	層雲峡ビジターセンター	×	×	×	●	●	
山岳会	ヒグマ情報センター	×	×	×	●		
	旭岳ビジターセンター	○	×	×	●	●	
	ひがし大雪自然館	○	△	×	●		
	層雲峡写真ミュージアム	△	×	×		●	
	十勝岳望岳台防災シェルター	×	×	×		●	
	上士幌町鉄道資料館	×	×	×		●	
	新得山岳会	×	×	×		●	
ガイド等事業者	十勝山岳連盟	×	×	×		●	
	日本山岳会北海道支部	×	×	×		●	
	旭川山岳会	×	×	×		●	
	美瑛山岳会	×	×	×		●	
	富良野山岳会	○	×	×		●	
	NPO ひがし大雪自然ガイドセンター	△	△	△		●	
	株式会社北海道ネイチャーセンター	○	×	△		●	
自然保護団体	ポレアルフロレスト	△	×	×		●	
	北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室	×	×	×		●	
	山樂舎BEAR	○	×	×		●	
	大雪山倶楽部	×	×	×		●	
	NPO法人かむい	△	×	×		●	
自然保護団体	大雪と石狩の自然を守る会	△	△	×	●	●	
	十勝自然保護協会	×	×	×	●		
	山のトイレを考える会	○	×	×		●	

○：国立公園の情報とわかる発信をSNSで行っている

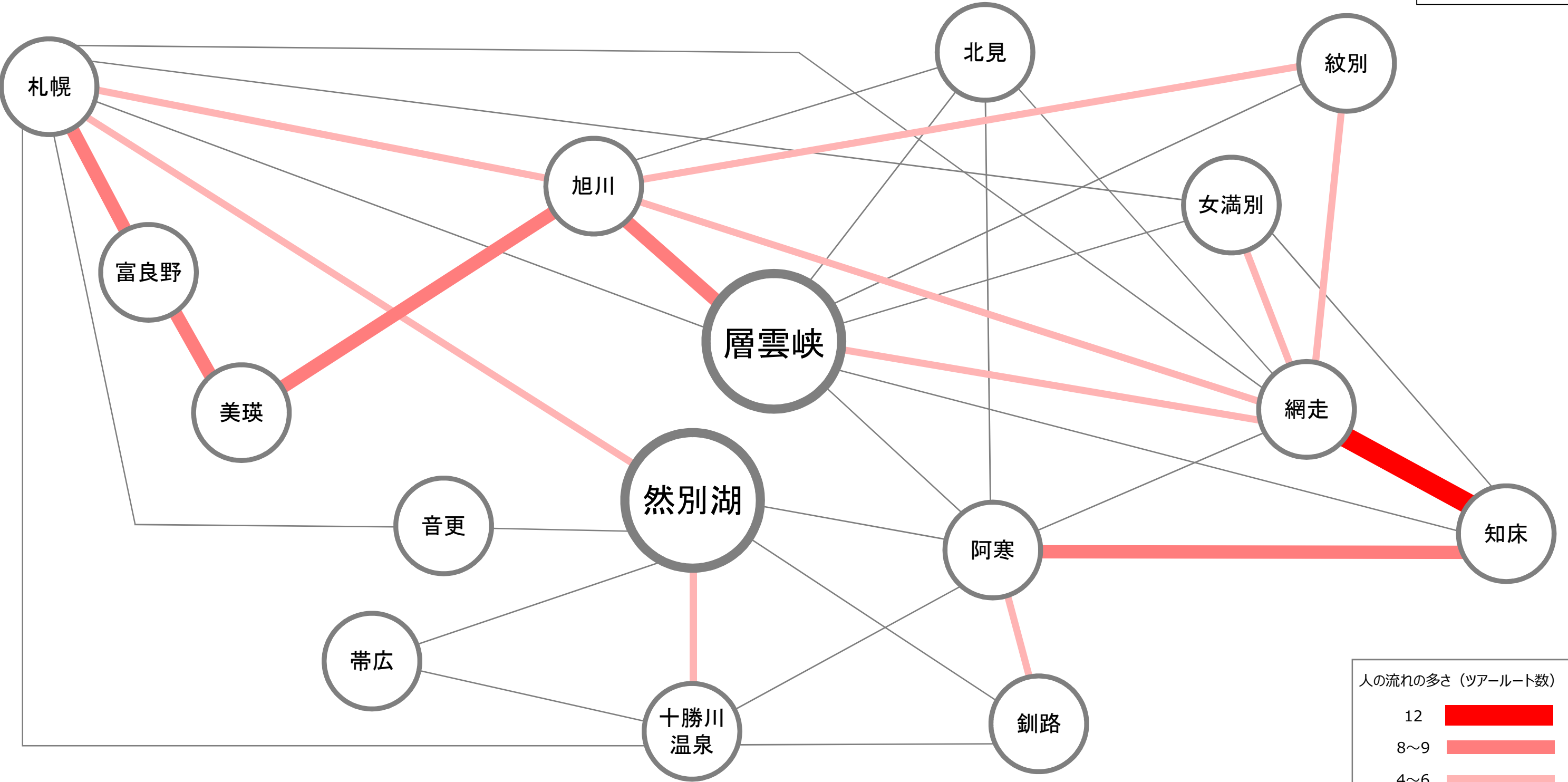
△：国立公園の情報を掲載していないが、SNSのアカウントを持っている

×：SNSアカウントを持っていない

資料11-1



▶大雪山国立公園を含む周辺地域の利用動態(周遊旅行の動態)



※google検索：キーワード「北海道 ツアー 周遊観光」で検索
※3月中取り扱いのあるツアールートのうち大雪山国立公園内の地域が含まれているものを選択
※検索結果のうち上位に出てくる旅行会社の取り扱いツアーより集計(25ツアー)

【主なツアールート】(クラブツーリズム、近畿日本ツーリスト、H.I.S、しろくまツアー)

- ・(発) 札幌—旭川—**層雲峡**—北見—阿寒—知床—網走—札幌 (終)
- ・(発) 札幌—旭川—**層雲峡**—網走—知床—阿寒—釧路—十勝川温泉—札幌 (終)
- ・(発) 札幌—十勝川温泉—阿寒—知床—網走—女満別—**層雲峡**—旭川 (終)
- ・(発) 女満別—知床—網走—北見—**層雲峡**—旭川—美瑛—富良野—札幌 (終)
- ・(発) 釧路—阿寒—網走—**層雲峡**—旭川 (終)
- ・(発) 札幌—**然別湖**—十勝川温泉—釧路—阿寒—知床—網走—**層雲峡**—旭川—美瑛—富良野—札幌 (終)
- ・(発) 札幌—**然別湖**—十勝川温泉—阿寒—知床—網走—女満別 (終)

● 広大で原始的な山岳景観

＜広大な山岳景観＞

○広大な山岳景観を有する理由は、表大雪地域・東大雪地域の広範囲にわたり中生代に日高累層群が堆積し、その上に、新生代に火山活動により形成された溶岩や火砕流が堆積した台地を基盤とした高地が形成されたため。

表大雪地域では溶岩や火砕流が非常に厚く堆積したため広大で平坦な高山帯が形成され、東大雪地域では標高に応じてさまざまな種類の木々から成る大樹海が形成。

＜原始的な山岳景観＞

○表大雪地域、東大雪地域に共通する一体的な基盤が広大であるため、その上に展開する地形地質も雄大で、生物多様性が高い状態で大規模に確保されている。

そのため、現在も噴煙を上げる旭岳や十勝岳を含む多様な火山、十勝三股をはじめとする大きなカルデラ、高山植物のお花畑、ヒグマ等の大型哺乳類、高山蝶をはじめとする昆虫類、湿原などが人間活動により失われず、原始的な状態で残されてきた。

この他、各地の利用拠点では、峡谷と柱状節理、湖、滝、多様な温泉、さらには、大雪山の名にふさわしいたくさんの雪や雪氷現象、周氷河地形などが見られ、景観要素の多様性が際立っている。

▶大雪山国立公園周辺の観光振興等、大連協の活動との連携可能性が想定される取り組み一覧

資料13

取り組み	関係している組織	概要	取り組み(詳細)
一般社団法人 大雪カムイミントラDMO	地域連携DMO (旭川市、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町、一般社団法人旭川観光コンベンション協会、一般社団法人層雲峡観光協会、愛別町観光協会、一般社団法人ひがしかわ観光協会、東神楽町観光協会、当麻町観光協会、鷹栖町観光協会)	大雪山国立公園周辺の市町村と観光協会で構成する大雪圏の広域観光を推進する団体で、大雪圏域の魅力を広くPRし、観光客の誘致を目的とする団体	・大雪山圏域の情報の発信（発信内容：観光名所、グルメ、宿泊施設、体験、お土産、特産品、冬期スキー・ゲレンデ情報、活動内容の報告） ・イベント・研修会・セミナーの開催
上川町DMC大雪山ツアーズ	地域DMC (上川町・層雲峡観光協会・上川町商工会・JA上川中央、層雲峡温泉観光事業組合)	多様な関係者と連携を強めながら目指すべき“観光地づくり”の推進役として活動	・上川町・層雲峡温泉を基点とした滞在プラン 体験プログラムの企画・販売 ・北海道内の駅・空港から連続する二次交通商品の販売 ・上川町・層雲峡温泉の観光コンテンツ素材のご提供。又それらの素材のプロモーション活動
観光振興及び地域活性化に関する包括連携協定	上川町、スノーピーク、上川大雪酒造	大雪山周辺の自然と、それを軸にした産業価値を高めるべく、「アウトドア」「日本酒」を切り口に、観光事業の拡大や商品づくりなど地域のブランド化につながる取り組みを推し進めるための連携	【連携事項】 ・魅力ある観光地づくり及び地域活性化に関すること ・山岳リゾート地としての認知度向上及びブランド化、交流人口並びに関係人口の増加に関すること ・大雪山をはじめとする自然環境の保全及び活用等に関すること ・商品づくりや販路の開拓、人材の確保育成に関すること ・移住者の増加やローカルベンチャー創出に関すること ・その他観光振興や地域活性化に関すること
大雪山大学	【主催】上川町（上川町まちづくりイノベーション推進協議会） 【サポート企業】電通北海道、樫出版社、北海道ルーション(北海道ファンマガジン) 【協力】上川町、層雲峡観光協会、大雪 森のガーデン、大雪山層雲峡・黒岳ロープウェイ（りんゆう観光）、層雲峡温泉観光事業組合、上川大雪酒造、JT B	「山に学び、山で学ぶ」をスローガンに、学びの場、コミュニティの場を提供し、町民との交流を図るなかで、町の魅力を再認識し地域資源の活性化を図ることを目的としたプロジェクト	大雪山や麓の地域をキャンパスとし、山から学ぶことを目的とした講座(イベント)の開講（ワークショップ、体験、講座、商品紹介※一部川上町民対象の講座などもあり）、イベントレポートの紹介
日本遺産 「カムイと共に生きる上川アイヌ」 ～大雪山のふところに伝承される 神々の世界～	大雪山麓上川アイヌ日本遺産推進協議会 (上川町、旭川市、富良野市、愛別町、上士幌町、上富良野町、鹿追町、士幌町、新得町、当麻町、東川町、比布町)	地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定された「カムイと共に生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～」を推進 日本遺産推進協議会を中心に、日本遺産専用HPの解説や、PR動画、観光周遊ルートを作成するなど、日本遺産を活用した地域活性化事業を進めるとともに、自らの地域の歴史・文化に親しめるような取り組みを進める	大雪山の自然や、アイヌの伝統文化に関わる情報の発信、構成文化財・自然・営みなどの紹介、誘致計画など
とかち鹿追ジオパーク推進協議会	【構成自治体】北海道鹿追町（とかち鹿追ジオパーク推進協議会） 【推進組織構成団体】鹿追町、JA鹿追町、鹿追商工会、鹿追観光協会、鹿追町立教育研究所、十勝総合振興局、環境省、森林管理署	地学的にも特徴的な自然を保全・伝える場として利用する方法としてとかち鹿追ジオパーク～火山と凍れ(しばれ)が育む命の物語～ジオパーク活動を推進する協議会	とかち鹿追ジオパーク・とかち鹿追ジオパークビジターセンター（とかち鹿追ジオパーク会館）の運営、講座・ツアー・イベントの開催、パネル展示、PRビデオ上映
大雪山 カムイミントラジオパーク 構想推進協議会	旭川市、東神楽町、愛別町、東川町、鷹栖町、比布町、上川町の1市6町 あさひかわジオパークの会などの市民団体、旭川観光コンベンション協会といった事業者団体を合わせた14団体 上川総合局や旭川開建などの行政機関や学術・教育機関など24団体がオブザーバーとして参加	ジオパーク内の特徴的な地形や地質が存在するジオサイトの調査、ジオパークの普及促進などに取り組んでいく	ジオサイトの調査研究と選定を進める保全分野、学校教育で活用する副読本の作成や体験講座などを検討する教育分野、ジオパークの情報発信を行う普及分野、ジオツアー商品の開発とPRを担当する観光分野、行政的な課題に対応する行政分野—の5つのワーキンググループを発足させ、具体的な検討を進めていく
十勝岳ジオパーク推進協議会	美瑛町・上富良野町	1..美瑛・上富良野の雄大な大地や生態系を保全します。 2.十勝岳と共に生きてきた歴史を学び、「郷土愛」を育みます。 3..地域を活性化させるため経済や観光の発展に寄与します。 4.防災教育を通して災害に強いまちづくりを目指します。 5.ジオパークネットワーク活動に積極的に貢献します。 6..地域住民と関係機関・団体等と共に、継続的なジオパーク活動を推進していきます。	【地域・普及部会】出前講座・ジオカフェ・PRイベントの開催、ポスター・パンフレットの作成など 【防災・教育部会】教育事業の実施、学校教育への参加など 【観光・ツーリズム部会】ジオガイドの養成、ジオツーリズムの推進など 【産業部会】ノベルティ商品の開発・販売、ジオ食の推進など 【行政部会】行政支援や活動への助言の検討、提案など
包括連携協定	東川町・モンベル	相互の連携を強化し、豊かな自然環境を活かしたアウトドア活動等の促進を通じて、地域の活性化に寄与することを目的として、包括連携協定を締結	・自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関すること ・子どもたちの生き抜いていく力の育成に関すること ・自然体験の促進による健康増進に関すること ・防災意識と災害対応力の向上に関すること ・地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関すること ・農林水産業の活性化に関すること ・高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進に関すること
包括連携協定	南富良野・モンベル	相互の連携を強化し、豊かな自然環境を活かしたアウトドア活動等の促進を通じて、地域の活性化に寄与することを目的として、包括連携協定を締結	・自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関すること ・子どもたちの生き抜いていく力の育成に関すること ・自然体験の促進による健康増進に関すること ・防災意識と災害対応力の向上に関すること ・地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関すること ・農林水産業の活性化に関すること ・高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進に関すること
「自然体感！ あらうんど大雪パートナーシップ」	旭山動物園（旭川市）、NPO法人C.C.C富良野自然塾(富良野市)、国立青少年振興機構 国立大雪青少年交流の家(美瑛)、株式会社北海道ネイチャーセンター 然別湖ネイチャーセンター(鹿追町)、認定NPO法人どんごろ野外学校(南富良野町)、NPO法人大雪山自然学校(東川町)、の6施設・団体と、オリックス自動車株式会社	大雪山連峰を囲む広域エリアを核として、自然環境を題材にした体験活動や、食・文化と自然とのつながりをに関連する活動などを通じて、自然の魅力や環境の大切さを伝え、人と自然が「共生」できる未来を築いていくため、パートナーシップとして連携	地域観光促進のため各施設・団体の活動・イベント情報などの一元化を図るとともに、各ホームページやSNSを活用した広報活動の強化やスタンプラリーなど各種イベントの共同企画。また、環境配慮型の車両による「オリックスレンタカー」と各施設とのお得なバック商品などを提供。

事業者名	所在地	活動地域	提供するプログラムの内容	ウェブページ
NPO法人大雪山自然学校	東川町	表大雪地域	環境保全活動、自然体験、キャンプ、エコツアー、環境教育	HP、Facebook、ブログ
NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター	上士幌町	東大雪地域	会員制ネイチャーツアー	HP、Facebook、Twitter、Instagram
NPO法人かむい	上川町	表大雪地域	夏山ガイド	HP、Facebook、ブログ
一般社団法人大雪山・山守隊	当麻町	大雪山全域	写真展、報告会、登山道整備イベント	HP、Facebook、ブログ
株式会社りんゆう観光	上川町	表大雪地域 (黒岳・層雲峡・愛山溪)	夏山ガイド 自然観察会（黒岳5合目等）	HP、Facebook、Twitter、ブログ
然別湖ネイチャーセンター (株式会社北海道ネイチャーセンター)	鹿追町	東大雪地域(主に然別湖)	ネイチャーツアー、受託事業、しかりべつ湖コタン企画運営	HP、Facebook、Instagram、ブログ
山樂舎BEAR	東川町	大雪山全域	夏山、スノーシュー、エコツアー、登山ガイド、講座	HP、Facebook、Twitter、ブログ
富良野ネイチャークラブ (有限会社アルパイン計画)	富良野市	十勝岳連峰地域 (主に富良野周辺)	アウトドア・インドア体験型観光の情報発信	HP、Facebook、Twitter
アースウインド	江別市	大雪山全域	ガイドツアー、リサーチ登山、調査・研修の実施	HP
TREE LIFE	富良野市	大雪山全域	アウトドア体験、自然体験、夏山、バックカントリースキー、自然散策、登山教室	HP、Facebook
ガイドの山小屋	美瑛町	美瑛・上富良野	バックカントリースキー、レンタサイクル、スノートレッキング	HP、Facebook、ブログ
白金ネイチャークラブ	美瑛町	十勝岳連峰・美瑛・白金温泉	ツアー、トレッキング、アニマルウォッチング	HP、ブログ
ボレアルフォレスト	鹿追町	然別湖周辺	夏山登山、カヌー、スノーハイク	HP、Facebook
ガイドオフィス風	東川町	大雪山全域	アウトドア体験、自然体験、夏山、自然散策	HP、Facebook
大雪山倶楽部	旭川市	表大雪・十勝岳連峰	夏山、冬山トレッキング	HP、ブログ
層雲峡ビクターセンター	上川町	層雲峡周辺	自然観察会、冬期スノーシュー	HP、ブログ
大雪山ネイチャーガイド	東川町	表大雪・十勝岳連峰	夏山、自然体験、自然散策、アニマルウォッチング	なし
マウンテンフロー	東川町	大雪山全域	夏山、冬山	HP、Instagram、ブログ
ネイチャーズ	東川町	表大雪地域	夏山、バックカントリースキー、スノーシュー	HP、facebook、ブログ
東川エコツーリズム推進協議会	東川町	旭岳・東川町	夏山、自然体験、自然散策、アニマルウォッチング	Facebook
山岳ガイドねこやなぎやま	中富良野町	大雪山全域	夏山、冬山	HP
バックカントリーガイドゆきのこ	南富良野町	十勝岳連峰	バックカントリースキー	HP、Facebook、Instagram、ブログ
マウンテック・大橋	新得町	十勝連峰・トムラウシ	夏山、冬山	HP
ひがし大雪自然館	上士幌町	糠平周辺	自然観察会	HP、Facebook、Twitter
東大雪ぬかびらユースホテル	上士幌町	東大雪地域	遺構巡り、スノーシュー登山	HP、Facebook、ブログ
大雪山トレッキングデスク	上士幌町	大雪山全域	夏山、冬山	なし
山岳ネイチャーガイドセンターえぞっこヨコテ	旭川市 倶知安町	大雪山全域 表大雪地域	夏山、バードウォッチング、自然散策 ガイド、バックカントリー、スキー、トレッキング	なし HP、ブログ
株式会社アルパインガイドノマド	札幌市	表大雪地域	夏山ガイド、バックカントリー、アイスクライミング、スノートレック、ツアー	HP、Facebook、ブログ
mini moon flower	札幌市	大雪山・十勝岳連峰・道内山岳全域	夏山ガイド、バックカントリー、層雲峡アイスクライミング	HP、ブログ
TAKT	札幌市	大雪山・十勝岳連峰・道内山岳全域	夏山ガイド、バックカントリー、層雲峡アイスクライミング	HP、Facebook、Instagram、ブログ
ハローポーター	江別市	大雪山・十勝岳連峰・道内山岳全域	夏山ガイド、冬山ガイド、キャンプ、登山、スノーシュー	HP、Facebook
山旅倶楽部”山歩好”	札幌市	大雪山全域	夏山ガイド	Facebook
札幌ガイドセンター	札幌市	大雪山全域	夏山ガイド、冬山ガイド	HP
ガイドオフィスユーゴ	札幌市	大雪山全域	夏山ガイド、冬山ガイド、バックカントリー	HP
レインポートレイルジャパン	日高町	大雪山全域	夏山ガイド、バックカントリー	HP
ノースランド	黒松内町	大雪山全域	夏山ガイド	HP
アウトドアネイチャーズ	東川町	大雪山全域・国内外	夏山ガイド、バックカントリー	HP
ガイドオフィスノルテ	札幌市	大雪山全域	夏山ガイド、バックカントリーガイド	HP
どんごろ野外学校	南富良野	大雪山全域	夏山ガイド、バックカントリー、スノーハイク	HP、Facebook
北海道バックカントリーガイド	赤井川村	大雪山全域	バックカントリーガイド	HP、Facebook
マウンテンガイドイマイ	小樽市	大雪山・全道・国内外	縦走・沢登り、ロッククライミング、バックカントリーツアー、アイスクライミング、スノーシュー登山	HPあり
サッポロマウンテンタイム	札幌市	大雪山全域・全道	トレッキング、クライミング、バックカントリー	HP、ブログ
ゼクランクラブ	当別町	大雪山全域・全道	夏山ガイド、クライミング、バックカントリー	HPあり
ガイドベリカ	栗沢町	大雪山全域・全道	夏山ガイド	HPあり
野遊みちくさ	札幌市	大雪山	夏山ガイド	HPあり
ICISポーツ	札幌市	大雪山・全道	夏山ガイド、クライミング、バックカントリー	HPあり
TACとかちアドベンチャークラブ	新得町	富良野・十勝・日高	バックカントリー、ラフティング、カヌー	HP、Facebook、Twitter
TOM十勝アウトドアメイツ	新得町	十勝	トレッキング、ラフティング、カヌー、釣り	HP、Facebook

(1) 層雲峡ビジターセンター外国人対応記録

分類	質問の 総数 (割合)	よくされる質問	分類 番号
アクティビティ	5119 (66%)	銀河流星の滝について（場所、行きかた、移動時間）	①
		層雲峡で何ができるのか（できるアクティビティや観光について）	②
		登山について（黒岳や旭岳について、ハイキング、散策、トレッキングなど、コース、ルートについての確認、山頂までいけるかの確認、所要時間、数時間で回れるルート、2.3日の長期で回れるルート、ロープウェイでどこまで上がれるかなど）	③
		紅葉や桜について（紅葉谷への行きかた、場所、時期についてなど）	④
		大函と小函について（行きかた、場所についてなど）	⑤
		アイスパビリオン、氷瀑祭りの場所はどこか	⑥
施設	1783 (23%)	レンタルすることができるか（自転車、スキー、ブーツ、スノーシューなど）	⑦
		レンタサイクルについて知りたい（料金、コース、ルートなど）	⑧
		登山中の危険性についての質問	⑨
		拠点の場所についての質問（ロープウェイ乗り場、観光施設、ホテル、温泉など）	⑩
		ロープウェイについての質問（運行状況、景観、時刻、所要時間、料金など）	⑪
		温泉について（温泉のある場所について、おすすめの温泉について）	⑫
		宿泊について(予約をしたい、泊まれるところはあるかなど)	⑬
		その他の施設（ガソリンスタンド、コンビニ、キャンプ場など）の場所について	⑭
		ATM、両替できる場所について	⑮
移動	343 (4%)	目的地（旭川、北見、小樽、帯広、上川、屈斜路湖、糠平、然別湖、大雪湖、大雪森のガーデン、写真ミュージアム、ヒグマ情報センター、キツネ牧場など）への行き方、移動手段所要時間について	⑯
		目的地への交通機関について（バスの有無の確認、バスルートの確認、拠点へのアクセス方法など）	⑰
		バス停（場所、時刻）についての質問	⑱
		タクシーを利用したい(タクシーを呼んでほしい、利用料金は乗り場について)	⑲
		道路の通行止め、通行止め解除などの情報について	⑳
食事	285 (4%)	レストランの有無	㉑
		食事について（場所、ラーメン（ジャパニーズラーメン）、カフェ、日本食、居酒屋、しゃぶしゃぶ、すき焼き、お茶、バーベキュー）	㉒
		食事の制限について（豚肉を食べられない、どこで食事をしたいか、など）	㉓
販売	154 (2%)	お土産を購入したい、お土産を買える場所を教えて欲しい	㉔
		地図の購入（登山マップ、縦走時間を書いてあるマップ、ハイキングマップ、北海道全体のマップなど）	㉕
		館内で展示している写真や映像（山の風景や動物）、はく製などの購入、販売について	㉖
		パンフレット（英語版・韓国語版・中国語版の希望、国立公園パンフレット、植生について、「紅葉谷おさんぽガイドブック」英語版など）がほしい	㉗
その他	131 (2%)	ヒグマについての質問（山に熊はいるか、遭遇したときの対応など）	㉘
		動植物についての質問(高山植物や桜など植生、動物の種類や名前（主に、エゾシカ、キツネ、ナキウサギ、キツツキなど）	㉙
		スキー場はどこか	㉚
		地図が欲しい（無償）	㉛
		ドローンの許可について	㉜
		携帯トイレについて（欲しい、使い方を知りたいなど）	㉝

(2) 海外旅行のガイドブック（Lonely Planet:14th edition 2015 における大雪山国立公園の紹介）

掲載地域	分量	分類	内容	分類 番号
旭岳温泉	約3/4ページ	活動（Activities）	旭岳ロープウェイ乗車、旭岳でのスキー	㉞
		情報（information）	旭岳ビジターセンター	㉟
		宿泊（Sleeping）	白樺荘、ロッジスタクカウシュツバ	㊱
層雲峡温泉	約 1 ページ	見どころ（Sight）	柱状節理、流星の滝、銀河の滝、大函、小函	㊲
		活動（Activities）	層雲峡・黒岳ロープウェイ乗車、黒岳でのスキー、黒岳の湯の入浴	㊳
		情報（information）	層雲峡ビジターセンター	㊴
		宿泊（Sleeping）	層雲峡ユースホステル、ペンション山の上	㊵
大雪高原温泉	約1/2ページ	活動（Activities）	高原沼めぐり登山コースのハイキング（野生のヒグマを観察することが可能）	㊶
		情報（information）	ヒグマ情報センター	㊷
		宿泊（Sleeping）	大雪高原山荘	㊸
十勝岳温泉	約1/4ページ	宿泊（Sleeping）	カミホロ荘	㊹
大雪山グランドトラバス	約 1 ページ	－	大雪山全縦走、姿見の池散策、旭岳～黒岳縦走、黒岳登山、銀泉台～赤岳縦走、十勝岳登山、富良野岳登山等の紹介	㊺
吹上露天の湯	約1/4ページ	－	露天風呂の紹介	㊻

● (1)・(2)から抽出した海外利用者のニーズ

抽出した海外利用者のニーズ	(1)・(2)と対応する 分類番号
○利用拠点にある施設に関する基礎的な情報が提供されること。 ※交通、宿泊、温泉、食事、コンビニ、ガソリンスタンド、A T M等	⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑰、⑱、 ⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、 ③①、③⑥、③⑧、③⑨、④①、④③、④④、 ④⑥
○食事については、日本食、日本ならではのものを食べることができること。	㉒
○アクティビティーが存在すること／アクティビティーに関する情報が提供されること。 ※ウォーキング、トレッキング、登山、スキー等（単に景勝地に行き、景色を見るだけではない）。	①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、 ⑩、⑪、③①、③④、③⑧、④①、④⑤
○特に、動物（ヒグマ等）を観察したり、動物とのふれあいができること。	①⑥、②⑥、②⑧、②⑨、④①、④②
○利用拠点周辺の広域的な情報が提供されること。	①⑥、①⑦、①⑧、②①、②⑤、③①

●屋外のサイン（看板、案内板等）の多言語化状況

集団施設地区 又は主な利用	管理	サイン（看板、案内板等）
層雲峡	環境省 自治体 民間	◎（英語のみ）
		○（英語のみ）
		△（英語のみ）
旭岳温泉	環境省 自治体 民間	◎（英語のみ）
		× ○（英語のみ）
天人峡	環境省 自治体 民間	◎（英語のみ）
		× -
白金温泉	環境省 自治体 民間	◎（英語のみ）
		- -
十勝岳温泉	環境省 自治体 民間	◎（英語のみ）
		△（英語のみ） -
然別湖	環境省 自治体 民間	◎（英語のみ）
		○（英語のみ） ×
ぬかびら源泉郷	環境省 自治体 民間	◎（英語のみ）
		△（英語のみ）
		△（英語のみ）
トムラウシ温泉	環境省 自治体 民間	◎（英語のみ）
		× ×
高原温泉	環境省 自治体 民間	◎（英語のみ）
		× ×
愛山溪	環境省 自治体 民間	◎（英語のみ）
		× -

凡例

- ：該当なし
- × ：多言語表記なし
- △ ：一部あり
- ：おおむね多言語化されている
- ◎ ：全て多言語化されている
- ※ 英語のみの場合はその旨記載

●ビジターセンター又は類似の機能を有する施設の多言語化状況

集団施設地区又は 主な利用拠点	施設名	施設の詳細			
		展示	パンフレット	外国語での会話	ホームページ
層雲峡	層雲峡ビジターセンター（環境省）	◎	◎	◎（英語のみ）	◎
	層雲峡写真ミュージアム（上川町）	○（英語のみ）	◎	×	×
旭岳温泉	旭岳ビジターセンター（北海道）	×	○（英語のみ）	◎（英語のみ）	×
	旭岳ビジターセンター（環境省、2019年6月開館予定）	◎	◎（英語のみ）	◎（英語のみ）	×
天人峡	該当なし	-	-	-	-
		-	-	-	-
白金温泉	十勝岳望岳台防災シェルター（美瑛町）	○（英語のみ）	×	△（英語のみ）	◎
		-	-	-	-
十勝岳温泉	該当なし	-	-	-	-
		-	-	-	-
然別湖	該当なし	-	-	-	-
		-	-	-	-
ぬかびら源泉郷	ひがし大雪自然館（環境省、上士幌町）	◎	◎	○（英語のみ）	◎
	上士幌町鉄道資料館（上士幌町）	×	-	×	×
トムラウシ温泉	該当なし	-	-	-	-
		-	-	-	-
高原温泉	ヒグマ情報センター	△（英語のみ）	○	△（英語のみ）	×
		-	-	-	-
愛山溪	該当なし	-	-	-	-
		-	-	-	-

凡例

- ：該当なし
- × ：多言語表記・対応なし
- △ ：一部あり
- ：おおむね多言語表記・対応がなされている
- ◎ ：全て多言語表記・対応がなされている
- ※ 英語のみの場合はその旨記載

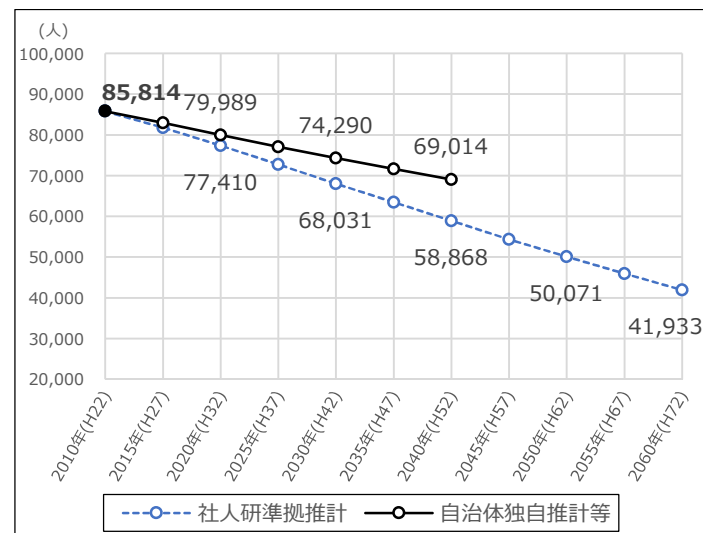
▶ 大雪山国立公園における協力金の現状

資料17

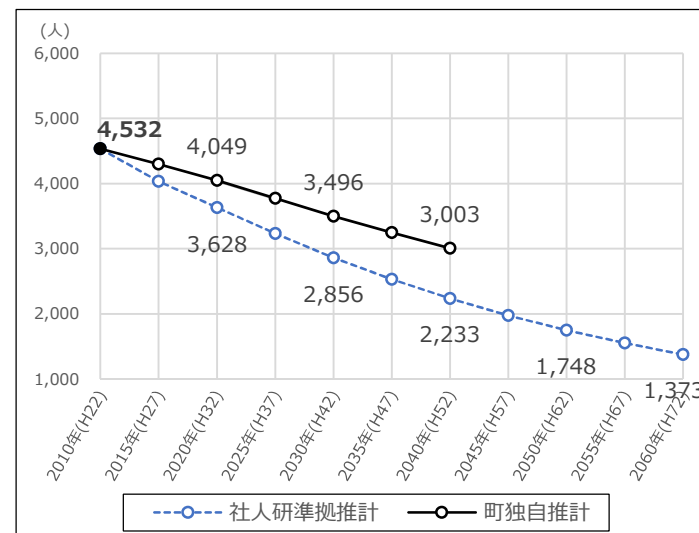
協力金 項目	①黒岳石室トイレ協力金	②白雲岳避難小屋環境協力金	③黒岳バイオトイレ維持管理協力金	④旭岳・天人峡協力金
協力金の目的	黒岳石室でのトイレ維持管理	白雲岳避難小屋の維持管理	黒岳石室横のバイオトイレの維持管理	旭岳・天人峡周辺環境保全
徴収の主体	りんゆう観光 上川地区登山道維持管理連絡協議会	上川地区登山道維持管理連絡協議会	上川地区登山道維持管理連絡協議会 上川総合振興局	東川町大雪山国立公園保護協会 (事務局：東川町産業振興課)
徴収方法	石室での料金(小屋:2,000円、野営:500円)のうち200円がトイレ維持管理協力金となる。 残りは施設の利用料金。 徴収は常駐するりんゆう観光の管理人が行っている。	小屋:1,000円/人 野営場:300円/人 徴収は常駐する管理人が行っている。 (総合振興局→上川町→協議会委託となっている)	200円/人 募金箱にて徴収。 (利用者の50%程度の協力率)	東川町5か所に募金箱を設置。 金額設定は無い。 募金者には大雪山の絵葉書を持って行ってもらう。
金額と使途	＜徴収額＞ H27年：115万円 (利用料金に含まれる200円分の合計) ＜使途＞ バイオトイレの維持管理費の一部に充てられる。	＜徴収額＞ H27年：185万円 ＜使途＞ 協議会が行う事業の一部に充てられる。	＜徴収額＞ H25年：125万円 H26年：136万円 ＜使途＞ 年間200万の維持管理および搬出費用に充てられる	＜徴収額＞ H25年：169万円 H26年：161万円 H27年：98万円 ＜使途＞ 保護協会の事業の一部に充てられる。
課題等	徴収額および使途に関する情報の公開はない。	徴収額および使途に関する情報の公開はない。	バイオトイレが当初より機能しておらず、対策も施されていないので年5～6回の汲み取りとヘリでの搬出が続いている。	徴収額および使途に関する情報の公開はない。
備考	「利用料金」に協力金・力金が入るため、乗客は「利用料金」の認識が強い。小屋の建替え計画あり。	全員からの徴収なので支払者は「利用料金」の認識が強い。小屋の建替え計画あり。	収支や使途については山のトイレの会・フォーラムなどで定期的に報告している。	東川町では他に大雪湧水やクロカンコース整備維持の協力金も設けている。

▶ 国立公園周辺の人口予測

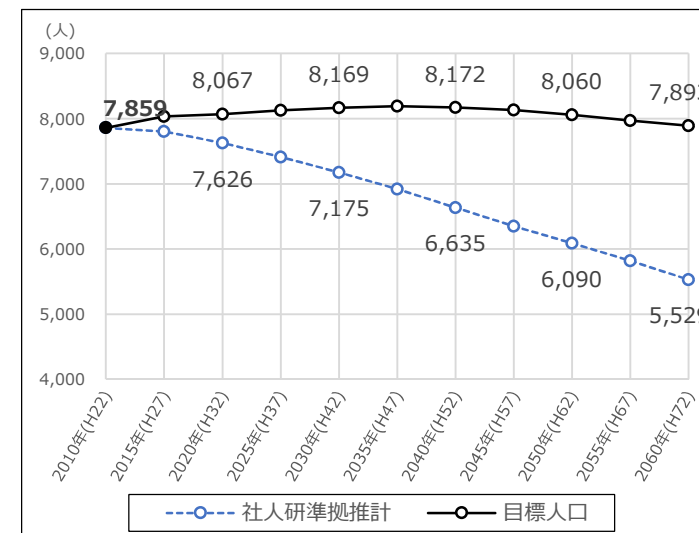
全体（1市9町の合計値）



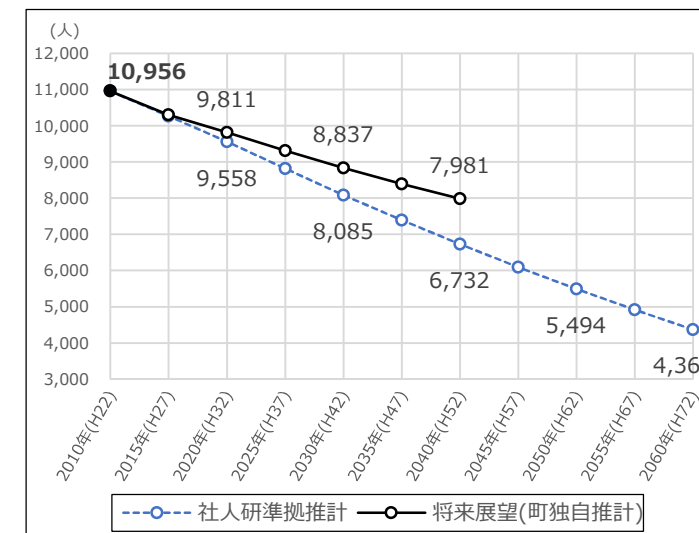
上川町



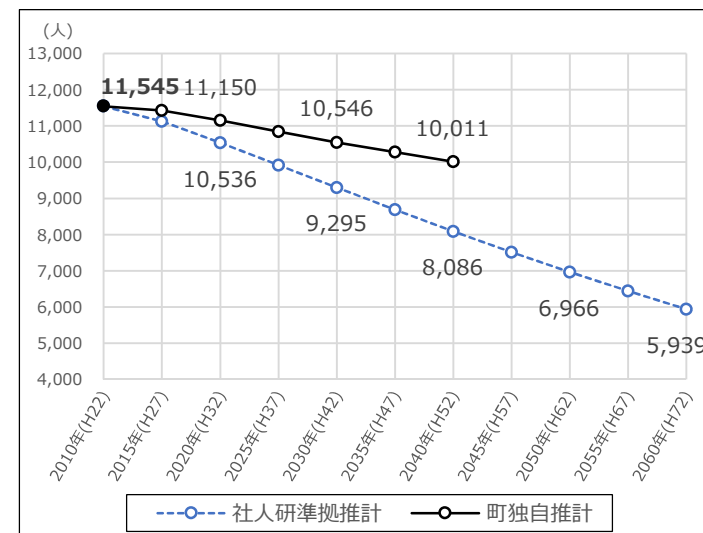
東川町



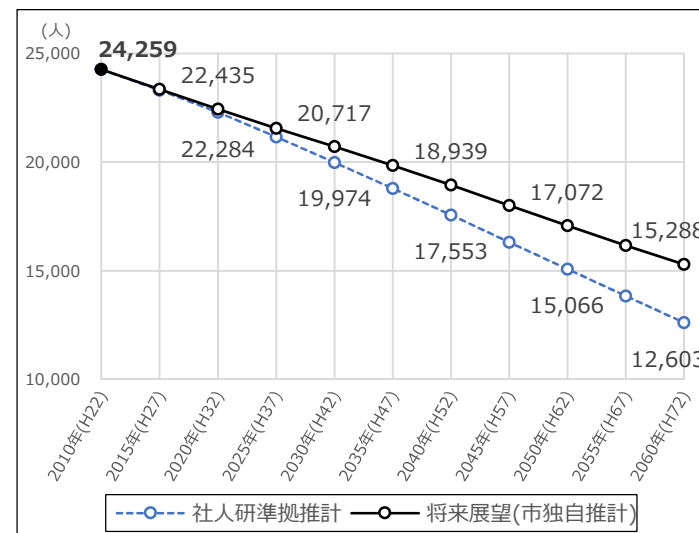
美瑛町



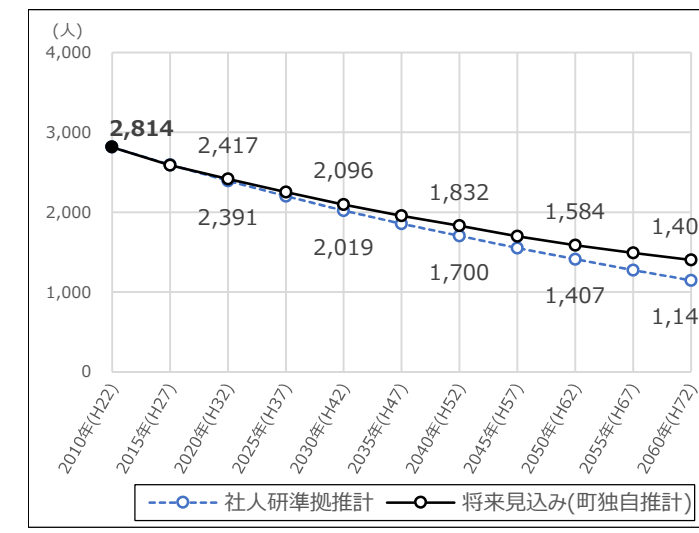
上富良野町



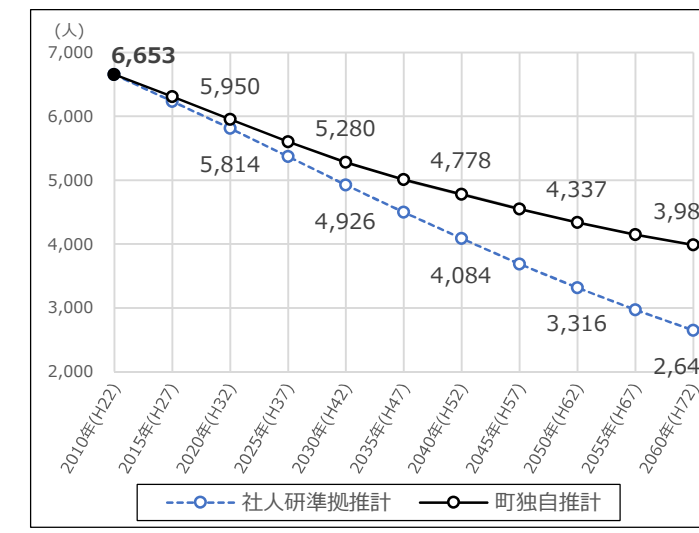
富良野市



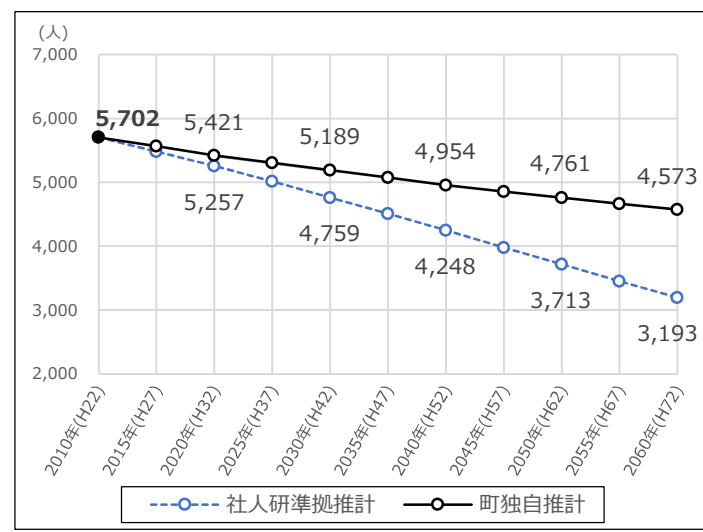
南富良野町



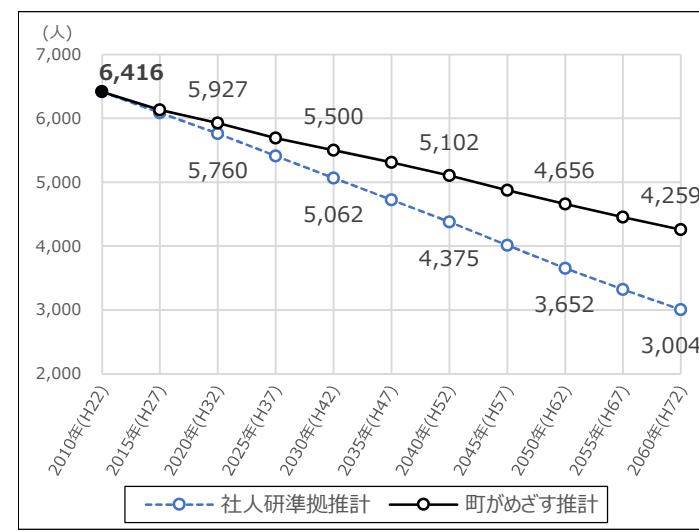
新得町



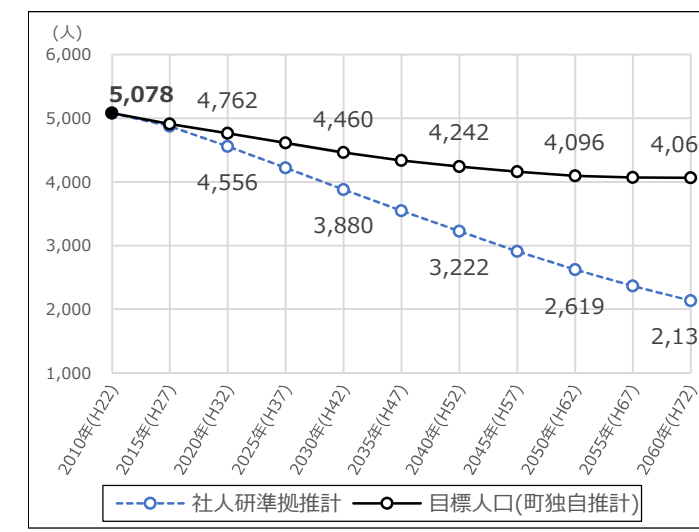
鹿追町



士幌町



上士幌町



● 各市町の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定のための「人口ビジョン」より抜粋

※社人研準拠推計：国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口（平成25年（2013年）3月推計）

※町独自推計・目標人口等：出生や移動の仮定を設けて独自に推計し人口ビジョンに示した値（2040年もしくは2060年まで示されている）



国立公園の管理運営の担い手一覧

事業者名	拠点	分野	活動場所・内容	業務・活動の形態
環境省 上川自然保護官事務所	上川町	国立公園管理運営全般 国立公園事業の執行	○大雪山国立公園全域 ○沼ノ平委員の池線、ヤンベツツ五色岳線の一部の維持管理 ○登山口の案内標識の維持管理	業務として実施
			○大雪山国立公園表大雪地域 ○層雲峡勇駒別線、沼ノ平委員の池線の一部維持管理 ○登山口の案内標識の維持管理 ○勇駒別園地（木道）の維持管理	業務として実施
			○美瑛富士遊難小屋携帯トイレブースの維持管理	
環境省 東川自然保護官事務所	東川町	国立公園管理運営全般 国立公園事業の執行	○大雪山国立公園東大雪地域 ○トムラウシ山温泉コース登山口～南沼野営指定地（歩道）の維持管理 ○登山口、登山道の案内標識の維持管理 ○ぬかびら源泉郷ビクターセンターの管理運営	業務として実施
			○黒岳周辺、銀泉台周辺、高原温泉周辺の巡視等（グリーンサポースタッフ） ○十勝岳、富良野岳、原始ヶ原の巡視等（グリーンサポースタッフ） ○天望山周回線道路（歩道）の標識整備	業務として実施
林野庁 上川中部森林管理署	旭川市	国有林の管理経営（土地所有者） 国立公園事業の執行	○大雪山縦走線、層雲峡勇駒別線、愛山溪北横岳線、中岳裾合平線、銀泉台白雲岳線、高原温泉高根が原線等の維持管理 ○旭岳石室、白雲岳遊難小屋、忠別岳南遊難小屋、黒岳トトレ、上ホロカメツク山遊難小屋の管理	業務として実施
			○旭岳地区（裾合平、中岳分岐、間宮岳、旭岳、天ヶヶ原、旭岳温泉）、愛山溪地区の高山植物巡視	業務として実施
林野庁 上川南部森林管理署	南富良野町	国有林の管理経営（土地所有者） 国立公園事業の執行	○大雪山縦走線等の維持管理 ○ヒザゴ沼遊難小屋の管理 ○トムラウシ山短縮コース登山口バイオトレの維持管理、南沼野営指定地及びニベソツ山前天狗の携帯トイレブースの維持管理	業務として実施
			○新得地区登山道等維持管理連絡協議会山岳トイレ環境対策部会事務局	業務として実施
林野庁 十勝西部森林管理署 東大雪支署	上士幌町	国有林の管理経営（土地所有者） 国立公園事業の執行	○白雲岳遊難小屋の維持管理（北海道からの委託） ○黒岳石室の維持管理 ○紅葉谷線の維持管理	業務として実施
			○東川江ノツリズム推進協議会事務局 ○東川町大雪山国立公園保護協会事務局	業務として実施
北海道 上川総合振興局 環境生活課	旭川市	国立公園事業の執行	○美瑛富士遊難小屋、十勝岳遊難小屋の維持管理 ○美瑛富士、美瑛岳、十勝岳登山道等の維持管理 ○三段山線の一部維持管理 ○十勝岳登山道等の維持管理 ○天望山周回線の一部の維持管理 ○原始ヶ原植生復元、誘導標識の維持管理 ○しろろ自然環境に親む会事務局	業務として実施
			○石狩岳ジュナイダー登山口及びニベソツ山麓加温泉登山口の簡易トイレ設置・維持管理 ○ひがし大雪自然館運営協議会事務局	業務として実施
北海道 上川総合振興局 南部森林室	旭川市	道有林の管理経営（土地所有者）	○然別自然休養林保護管理協議会事務局 ○トムラウシ山線の維持管理 ○新得地区登山道等維持管理連絡協議会事務局 ○トムラウシ自然休養林保護管理協議会事務局	業務として実施
			○美瑛富士トレイル管理運営指定地での携帯トイレ利用促進、普及啓発 ○層雲峡勇駒別線、沼の平委員の池線、勇駒別周回線、中岳裾合平線の維持管理	ボランティア ボランティア
北海道 十勝総合振興局 環境生活課	帯広市	国立公園事業の執行	○層雲峡勇駒別線、愛山溪北横岳線、沼ノ平委員の池線、中岳裾合平線、高原温泉高根が原線、大雪山縦走線、天人峽化雲岳線、美瑛富士線、美瑛岳線、富良野岳上ホロカメツク山線、十勝三股ニベソツ山線、石狩連峰縦走線、南ベトルクトル山線、天望山周回線、駒止湖東ヌマガワシズリ線、西ヌマガワシズリ線、トムラウシ山線、養旭野営指定地、ヒザゴ沼野営指定地、上ホロカメツク野営指定地、南沼野営指定地、忠別岳遊難小屋、ヒザゴ沼遊難小屋、上ホロカメツク遊難小屋、美瑛富士遊難小屋の維持管理	ボランティア
			○大雪山縦走線、沼ノ平委員の池線、天人峽化雲岳線、美瑛富士線、美瑛岳線の維持管理 ○大雪山縦走線（富良野岳）、原始ヶ原の登山道修繕 ○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
大雪山国立公園パークボランティア連絡会	旭川市	登山道補修・環境パトロール	○沼ノ平委員の池線、天人峽化雲岳線、大雪山縦走線、白金温泉十勝岳線、美瑛富士野営指定地、美瑛富士遊難小屋、十勝岳遊難小屋の維持管理 ○ヒグマ情報センターの管理運営 ○高原温泉高根ヶ原線の維持管理 ○沼ノ平委員の池園地、委員の池遊難小屋（旭岳石室）の維持管理 ○層雲峡勇駒別線の一部の維持管理 ○羽衣教島の滝線の維持管理 ○層雲峡勇駒別線（黒岳カミイ森の道）の維持管理 ○黒岳石室の維持管理 ○沼ノ平委員の池線、天人峽化雲岳線での補修イベント実施、補修イベント参加 ○沼ノ平委員の池線、ヤンベツツ五色岳線、層雲峡勇駒別線の一部の維持管理 ○トムラウシ山線の一部の補修 ○南沼野営指定地の植生復元	美瑛町からの委託 ボランティア 環境省からの請負 北海道、上川町からの委託 東川町大雪山国立公園保護協会からの委託 業務として実施 上川町からの委託 ボランティア 環境省からの請負 上川町からの委託 ボランティア 環境省からの請負 北海道からの委託 業務として実施 上川町からの請負 業務として実施 上川町からの委託 業務として実施 環境省、北海道からの請負 ボランティア 環境省からの請負 北海道からの請負 ボランティア ボランティア ひがし大雪自然館運営協議会からの請負 北海道からの請負 ボランティア 業務として実施
			○大雪山山縦走線、沼ノ平委員の池線、天人峽化雲岳線、美瑛富士線、美瑛岳線の維持管理 ○大雪山山縦走線（富良野岳）、原始ヶ原の登山道修繕 ○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理 ○沼ノ平委員の池線、天人峽化雲岳線、大雪山縦走線、白金温泉十勝岳線、美瑛富士野営指定地、美瑛富士遊難小屋、十勝岳遊難小屋の維持管理 ○ヒグマ情報センターの管理運営 ○高原温泉高根ヶ原線の維持管理 ○沼ノ平委員の池園地、委員の池遊難小屋（旭岳石室）の維持管理 ○層雲峡勇駒別線の一部の維持管理 ○羽衣教島の滝線の維持管理 ○層雲峡勇駒別線（黒岳カミイ森の道）の維持管理 ○黒岳石室の維持管理 ○沼ノ平委員の池線、天人峽化雲岳線での補修イベント実施、補修イベント参加 ○沼ノ平委員の池線、ヤンベツツ五色岳線、層雲峡勇駒別線の一部の維持管理 ○トムラウシ山線の一部の補修 ○南沼野営指定地の植生復元	ボランティア ボランティア 環境省からの請負 北海道、上川町からの委託 東川町大雪山国立公園保護協会からの委託 業務として実施 上川町からの委託 ボランティア 環境省からの請負 上川町からの委託 業務として実施 上川町からの委託 業務として実施 環境省、北海道からの請負 ボランティア 環境省からの請負 北海道からの請負 ボランティア ボランティア ひがし大雪自然館運営協議会からの請負 北海道からの請負 ボランティア 業務として実施
旭川山岳会	旭川市	登山道補修	○大雪山縦走線、沼ノ平委員の池線、天人峽化雲岳線、美瑛富士線、美瑛岳線の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線（富良野岳）、原始ヶ原の登山道修繕	富良野市からの請負
富良野山岳会	富良野市	登山道補修・施設管理	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
上富良野十勝山岳会	上富良野町	登山道補修	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
美瑛山岳会	美瑛町	登山道補修	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
(有)風の便り工房	上川町	国立公園施設の維持管理	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
NPO法人大雪自然学校	東川町	姿見コース整備、観光客レクチャー 国立公園施設の維持管理	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
(株)りんどう観光	上川町	国立公園事業の執行 国立公園施設の維持管理	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
山樂舎BEAR	東川町	登山道補修ツアー開催	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
北海道山岳整備	当麻町	登山道整備	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
一般社団法人 大雪山・山守隊	当麻町	イベントの開催	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
東川エコツーリズム推進協議会	東川町	エコツーリズム 自然活動	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
大雪山倶楽部	旭川市	自然活動 ガイド	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
NPO法人かむい	上川町	登山道整備	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
旭川勤労者山岳会	旭川市	登山道補修	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
層雲峡ビクターセンター	上川町	登山道情報の収集、提供	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
東川町大雪山国立公園保護協会	東川町	登山道補修・環境整備	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
上川地区登山道等維持管理連絡協議会	上川町	登山道補修・環境整備	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
（一社）層雲峡観光協会	上川町	登山道補修	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
然別自然休養林保護管理協議会	鹿追町	登山道補修・環境整備	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
ポレアルフォレスト	鹿追町	登山道補修・環境整備	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
トムラウシ自然休養林保護管理協議会	新得町	環境整備	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
新得地区登山道等維持管理連絡協議会	新得町	登山道補修・環境整備	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
新得地区登山道等維持管理連絡協議会 山岳トイレ環境対策部会	新得町	環境整備	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
新得山岳会	新得町	登山道補修・環境整備	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
しろろ自然環境に親む会	新得町	登山道補修・環境整備	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
美瑛富士トレイル管理連絡会(北海道山岳連盟、札幌山岳連盟、日本山岳会北海道支部、道史地区勤労者山岳連盟、道北地区勤労者山岳連盟、北海道山岳ガイド協会、大雪山国立公園パークボランティア連絡会、山のトレイルを考える会)	札幌市	美瑛富士小屋の携帯トイレ管理連絡会（H27より）	○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア
			○大雪山山縦走線、三段山線、富良野岳上ホロカメツク山線、上ホロカメツク野営指定地、上ホロカメツク遊難小屋、上ホロカメツク山、富良野岳の維持管理	ボランティア

経緯	・ 設立は、平成 5 年12月（大雪山国立公園指定60周年を契機）。 ・ 既存の大雪山国立公園東大雪連絡協議会（環境庁、十勝支庁、東大雪 4 町）は解消。
目的	・ 大雪山国立公園の関係機関相互の情報交換、連絡調整を図ること及び必要な管理事業を実施することにより、大雪山国立公園の現地業務を円滑に遂行し、国立公園地域の健全な発展に資する。
構成及び役員体制	・ 上川町（会長）、東川町（副会長）、美瑛町（監事）、上富良野町、富良野市、南富良野町、新得町、鹿追町（監事）、士幌町、上士幌町（副会長） ・ 北海道上川総合振興局、十勝総合振興局 ・ 環境省北海道地方環境事務所
事業内容	・ 国立公園の管理に関する情報交換、連絡調整及び事業 ・ 国立公園の保護及び利用に関する研修及びその適切な推進 ・ 国立公園の施設整備促進に関する企画調整、調査及び研修 等
分担金	・ 地元市町が分担金を拠出。 ・ 全額（100％）のうち、全市町一律の基礎的な負担（会議費及び通信費の趣旨）によるものが20%、国立公園指定面積に応じた傾斜配分による負担によるものが22%、施設の収容力に応じた傾斜配分による負担によるものが22%、利用計画の存在に応じた傾斜配分による負担によるものが36%で構成されている。
意義	・ 分担金の理由に、国立公園の利用に関する理由が挙げられていること、その割合が 6 割にも上る。 このことから、自然公園法に基づく許認可制度の運用及び施設の整備を通じた国立公園の管理運営を補完するため、地元自治体からは快適で適正な利用の増進に資する事業を実施することが本協議会に特に期待されていると考えられる。

▶ 登山道関係者情報交換会の経緯

平成21年度～

登山道維持管理
の課題が明らかになる

<登山道維持の課題（平成21年度「登山道整備・維持管理体制の検討基礎調査業務」）>

- 登山道維持管理の課題について基礎的な情報収集が行われた。
 - ・ 事業執行されている登山道は、管理水準（当時）で示された57区間中、25区間。他の区間では事業執行者なし。
 - ・ 事業執行路線の管理は、事業執行者だけでなく様々な関係者が携わり、複雑化。
 - ・ 事業執行されていない路線の管理は、協議会やボランティアにより維持されている。
 - ・ 維持管理に係る財源が不足している。

平成22年度～

情報交換会開催の
背景

<情報交換会開催の背景（平成22年度「表大雪地域登山道協働型維持管理体制検討業務」>

- 関係者にヒアリングを行った結果、「登山道管理水準」や「技術指針」の認知度の低さへの指摘や、関係者の横の連絡がないこと、登山道維持に関する情報発信が必要であること等の意見があった。
- 表大雪地域における登山道の維持管理に関わる各種の問題の整理、今後とるべき解決策の方向性について、実際の維持管理に関わりのある自治体及び地域山岳会を集め、ワークショップ形式（以下「WS」という。）で検討。
 - ・ WSでは登山道の維持に関しての課題、関心事、心配事、また維持に関しての提案、情報、可能性について意見交換を行った
 - ・ 登山道維持管理に関する情報交換の場を確保することが必要との提案があった→情報交換を行う場の設置へ

平成23年度～

情報交換会の
設立・目的

<情報交換会の設立（平成23年度「大雪山地域登山道協働型維持管理体制検討業務」）>

- 前年度の提案を受けて、維持管理に関わる山岳関係者の情報共有を目的とした情報交換会を実施
- 表大雪地域は平成24年2月1日、東大雪地域は平成24年2月2日に開催（大雪山の全域を対象）
- 相互の連絡体制や維持管理に関する課題を共有

<その後の動き>

- 夏山シーズン前とシーズン終了後の年に2回、表大雪地域と東大雪地域の各々で情報交換会を行っている。
- シーズン前は各関係者からの登山道維持管理予定情報を、シーズン後は活動結果報告や来年度の予定など情報交換が中心。

現在

▶他国立公園における総合型協議会・国立公園ビジョンの事例

公園名 (地域)	協議会名	設置 年	構成員		事務局	目的・部会	議論・活動内容	ビジョンの作成年と タイトル	ビジョンの内容（目指す姿）
尾瀬 国立公園	尾瀬国立 公園協議会	平成 20 年 1 月	環境省 林野庁 群馬県 福島県 新潟県 栃木県 片品村 南会津町 檜枝岐村 魚沼市 日光市 尾瀬保護財団 東京電力 三井物産 山小屋組合 観光協会 自然保護団体 学識経験者 など31者	関東地方環境事務所	○「新・尾瀬ビジョン」の進行促進、進行管理及び実現 ○参加型管理運営体制の構築 【適正利用小委員会】	○一年間の達成評価（レビュー）と今後の方向性 ○各種取組の情報共有	平成30年9月 新尾瀬ビジョン～「あなた」と創る「みんな」の尾瀬～	○尾瀬がめざす姿：みんなに愛され続ける尾瀬 ・「生きもの」の視点：尾瀬本来の生きものがあるのままだに生きている ・「利用者」の視点：いつ来ても楽しく誰もがわくわくできる ・「地域」の視点：地域の人々が誇りを持っていきいきできる ○行動理念：みんなの尾瀬を みんなで守りみんなで楽しむ	
妙高戸隠連山 国立公園	妙高戸隠連山国立公園連絡協議会	平成 28 年度	環境省 林野庁 長野県 新潟県 妙高市 糸魚川市 長野市 小谷村 飯綱町 信濃町 山岳関係者 博物館関係者 観光協会 有識者 など30名	信越自然環境事務所	○妙高戸隠連山国立公園の協働型の管理運営の実施 ○妙高戸隠連山国立公園の保全と利用の促進 【情報発信部会・歩く利用部会エコツアー部会】	○地域内の合意形成・連絡調整 ○管理運営計画の策定 ・ビジョン、管理運営方針等の策定 ・計画案を幹事会で検討、地域説明会を実施 ○行動計画に基づいた取組実施 ○6市町村から負担金をもらい事業に充当	平成28年 妙高戸隠連山国立公園ビジョン	○基本理念：温故知新、そして、日本一愛される国立公園へ ○魅力：山岳信仰と人々の暮らしが息づく、一目五山の風景 ○役割：色鮮やかな自然があり続け、日本一の“自然×文化”の遊学舎（まなびや）であること ○保全・利用目標：先人が築き守った自然と文化を、私たちが自信をもって子どもたちに引き継ぐこと	
中部山岳 国立公園 (上高地地域)	中部山岳国立公園上高地連絡協議会	平成 24 年	環境省 林野庁 国土交通省 長野県 松本市 安曇野市 上高地町会 上高地観光旅館組合 北アルプズ山小屋友交会 沢渡町会 ピアーズさわんど 自然公園財団 信州大学 アルピコ交通株式会社 濃飛乗合自動車株式会社 上高地タクシー運営協議会 東京電力 ほか10の協議会等を含む27機関	松本自然環境事務所	○公園管理の課題や手法についての検討 ○合意形成 ○多様な関係者が協働した管理運営 【部会等なし】	○地域の合意形成 ・「上高地ビジョン」の進捗確認及び管理 ○地域内の連絡調整	平成26年7月 上高地ビジョン2014～協働型管理による、世界最高水準の山岳公園づくり～	○基本的視点 世界に誇る山岳公園としての価値の継承 品格のある、災害に強く国立公園づくり地域が一丸となった協働型の管理体制の構築	
阿蘇くじゅう 国立公園 (阿蘇地域)	国立公園阿蘇地域連絡協議会	平成 26 年	九州地方環境事務所 九州農政局 九州森林管理局 熊本県 阿蘇市 菊池市 大津町 南小国町 小国町 産山村 高森町 南阿蘇村 （公財）阿蘇地域振興デザインセンター （公財）阿蘇グリーンストック （一財）自然公園財団 （オブザーバー 西原村）	九州地方環境事務所	○阿蘇地域ビジョンの策定 ○地域ビジョンに基づいた施策の推進に向けて関係行政機関等がさらに連携を深める 【幹事会】	○共通目標の達成に向けた、本会議における各主体の取組状況の共有 ○国立公園を共通の基盤とした新たな取り組みに向けた協議の実施	平成27年3月 阿蘇くじゅう国立公園阿蘇地域ビジョン―協働型管理による、世界レベルの観光地づくり ―	○共通目標 阿蘇地域の新たな振興の取り組みや課題の解決に向けビジョンを共有し、阿蘇地域の行政機関・関係団体等が連携することで、地域特有の魅力となっている自然環境や景観、農業や文化等の資源を将来にわたり守り、今後20年先（阿蘇くじゅう国立公園100周年）に向けた更なる保全と利用の促進を行い、世界レベルの観光地として活性化を図る。	

大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（第2回）
議事概要

■日 時：平成31年2月20日（水）13:00～15:10

■場 所：十勝総合振興局 講堂

■出席者：資料のとおり（出席者名簿のうち鹿追町商工観光課観光振興係 野口氏は当日欠席。役職等のうち十勝自然保護協会の川内氏の役職を代表から事務局長に訂正。）

■概 要

1. 開会（挨拶：北海道地方環境事務所 大林統括自然保護企画官）

2. 議事

（1）大雪山国立公園フォーラムの開催結果について

（事務局）

- ・ 資料1について説明。

⇒質問、意見等なし。

（2）大雪山国立公園ビジョン（素案）について

（事務局）

- ・ 進め方について、事前送付させていただいているため、特に皆様からご意見をいただきたい「1（1）大雪山国立公園の優れた価値」の部分、「3. 大雪山国立公園の目指す姿」の部分、「それ以外」の3つの部分に分かれて効率よく議論したい。

1）大雪山国立公園優れた価値について

（事務局）

- ・ 資料2 1.（1）に沿って説明。
 - ・ 第1回の準備会にて大雪山のもつ価値やブランドを作り上げて、共有することが大事という御意見があったため、この部分も重点的に議論することとした。
 - ・ 日高累群層となっているが、日高累層群の誤りであるため、訂正いただきたい。
 - ・ 補足として、大雪山という山がどのような価値をもつのかという記述にしようとうと、山に対する思いや考え方は人それぞれであり共通認識が得られにくいと考えたため、国立公園のもつ価値について、その指定理由を中心に記述を組立てた。
- ⇒以下、主な質疑応答。

(十勝自然保護協会)

- ・ 2 ページのコラム 1 行目に「岩谷松五郎」とあるが、「松原岩五郎」の誤りであるため訂正いただきたい。
- ・ 自然保護の活動に長く携わる者から見ると納得できない部分がある。それは、2, 3 ポツ部分について、山と溪谷社のガイドの方の記述そのままであること、その中に「人間活動により失われず、原始的な状態で残されてきました」という記述が間違いであると思うこと。現在でも相対的に見れば豊かな自然がある国立公園ではあるが、人間活動によって生態系は損なわれ、指定当時の原始的な状態は保たれていない。このような経緯を踏まえ、今後は人間が関わっていけるような優れた景観、生態系を保つ努力が一方で必要ということも記述に付け加えた方がよいのではないかと思う。
- ・ 上記「大雪山自然観察ガイド」は引用文の多いものになっているが、敢えて注釈として載せなくてもよいのではないか。
- ・ 2 ポツ目は、地質の部分は、記述に重なる部分やちょっと違うと思う部分があったため、整理してわかりやすく表記したほうが良い。

(北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授)

- ・ 「多様な」、「様々な」という記述が多くあるが、全般的に具体性に欠けて、何が優れた価値なのか具体的にわかりにくいと感じた。例えば、動植物については、大雪山の希少種、固有種に触れながら記述してはどうか。
- ・ 指定理由を価値として記述しているが、価値として記述した理由により国立公園に指定されたということを率直に記述してはどうか。(2) 歩みにも記述はあるが、1934 年に日本で最初の国立公園に指定されたこと、面積も一番広くて、私有地の面積も少ないことも含めて、価値であることをはっきり記述してはどうか。
- ・ お花畑を楽しみに来る登山利用者など利用に関する価値も記述すべき。
- ・ 大雪山国立公園の特別保護地区のエリアが天然記念物に指定されていることも触れなくて良いのか。
- ・ 日本遺産のことが記載されているが、上川アイヌに関する記述等もう少し具体性があるのではと思う。

(事務局)

- ・ 自然の資質が指定当時から比べて変わってきていると言うご指摘は、次の歩みの部分に記述しているので、その記述も併せてみて総体的にご理解いただきたいと思う。この部分では、大雪山国立公園の持つ価値をわかりやすく記載することに努めたい。
- ・ 大雪山国立公園の成り立ちについては、色々な専門書や文献を参照して分かったことであり、それをもとに公園計画書も記載したところ。結果として、その内容

を最も分かりやすく記述していたのが山と溪谷社の「大雪山自然観察ガイド」の記述であると感じたため参考文献として掲げた。注釈については、記述の仕方についても含めて検討したい。

- ・ 自然が損なわれているという指摘及びそれを踏まえてどうするかという部分について、価値の部分のみでは書けないが、記述について検討したい。

2) 大雪山国立公園の目指す姿について

(事務局)

- ・ 資料2 3. に沿って説明。
- ・ 目指す姿は、それぞれ立場が異なるものの、立場を超えて一緒に目指すことの出来る共通の目標であると考えておい、ビジョンの中で核となる部分であることから、特に皆さんそれぞれから御意見を伺いたい。また、キャッチフレーズについては、提案1～3について、それぞれどれがよいと考えるか御意見を伺いたい。

(上川総合振興局)

- ・ ビジョンについては、総じてまとまっていると感じる。追加したほうが良いと思う点は、情報の発信と合わせて、情報の収集、つまり、現状がどうなっているか把握し続けること。現状の把握、収集、蓄積、巻き込む（共有していく）を継続的に行うことが大切ではないかと感じている。
- ・ (4) 1 ポツ目について、民間が参入しやすい環境を整えることが重要なことであるのでその旨記述を追加することを考えたが、主語が「私たちは」であれば、追加する必要はないと思われる。また、ファンを増やす、裾野を広げるといった言葉を入れてもよいと思う。
- ・ キャッチフレーズについては意見なし。

(十勝総合振興局)

- ・ ビジョンの内容については、特段の意見はない。
- ・ キャッチフレーズについてもこれらの中から検討することで良いと考える。

(上川町)

- ・ キャッチフレーズは、提案3が良い。これを着実に実現することにより、大雪山国立公園が価値のある姿になると思う。
- ・ 自治体で観光面を担当する立場としては、今回作成するビジョンを契機に大雪山というネーミングの訴求効果により多くの利用者が上川町に訪れるようになるとよい。上川町としても、市民交流型事業である大雪山大学などの取組を通じて大雪山の価値や恵みを広く伝える努力をしているところであり、このような取組は目指す姿の実現にも結びつくと考えます。

- ・ (3)の利用拠点には、高原温泉も加えてほしい。

(上富良野町)

- ・ キャッチフレーズについては、提案3が目指す姿としては良いと考える。
- ・ 今後は、登山道の維持管理を具体的に進めるため、外国人を含め利用者をさらに増やすためにも、地方自治体は財源も予算が厳しい部分があるため、例えば、協議会を通じて国に対して財源や予算を要求していくなどの取組が重要になると考える。
- ・ 現在各団体で作成しているホームページについて、英語表記があるものやないものなどまちまちであるため、共通した課題として協議会の中で取り組んで統一したページ等をつくるのか、地域や施設ごとの取組として行っていくのか、ということが気付の点である。

(士幌町)

- ・ キャッチフレーズは、登山道で作業している方の後継者不足等の課題もあるため、後世に引き継ぐという内容が含まれる提案3が良い。また、提案2についても、日本遺産の動きがあるため、山とアイヌをつなげていくという観点からは良い。
- ・ 目指す姿として、今後、山に関わることができる人が少ないので、その点に関する対策を強化できると良いと思う。

(上士幌町)

- ・ ひがし大雪自然館にいて、自然や観光の情報発信等を行っているが、利用者からは東大雪地域に限らず大雪山国立公園全ての登山、自然、林道等の情報について聞かれるので、考えさせられることが多い。
- ・ ビジョンは、どのような立場に立って作成するかにより良くも悪くもなるため、大雪山国立公園を愛する人々の立場にとって良いものになるようにしてほしい。
- ・ キャッチフレーズは、いずれも良いと思う。

(鹿追町)

- ・ キャッチフレーズは、提案1が良い。日本人であっても大雪山の読み方を「だいせつざん」と知らない人もいるからローマ字が良い。
- ・ 提案2についても日本遺産の観点からは良いと思うが、同じく文化財としては天然記念物などもある。情報を入れすぎるとキャッチフレーズが長くなるため、要素は見極める必要があると思う。
- ・ (2)に「大雪山グレードに応じた保全と利用」とあるが、例えば、単純に入込数が少ないため登山道整備をしないという判断ではなく、登山道の整備や管理は、地域の要望を聞いた上で地域の要望に合うような形で進められていく必要がある。どの登山道を整備し管理していくのかというような判断基準(ガイドライン)が気になるとこ

ろ。

(新得町)

- ・ キャッチフレーズは、パッと見たときの印象で提案3が良い。
- ・ 内容についても特段、意見無し。

(上川中部森林管理署)

- ・ (2)の項立てについて、3ポツで「これらの状態が実現することで」という記述があるが、1ポツ、2ポツの内容と、4ポツ、5ポツの内容は、第1段階、第2段階というイメージなのか、3ポツの内容は最後にくるべきものなのか、教えてほしい。

(事務局)

- ・ 1ポツと2ポツ、3ポツと4ポツをそれぞれまとまりと考えていて、1・2ポツは登山道の管理、保全について記述し、3・4ポツは利用、活用について記述している。登山道の保全を実現させた上で、3ポツ以下のような適切な利用を推進していくという意図とした。

(上川中部森林管理署)

- ・ 必要な基本的な整備と安全に関する情報発信、維持をするための人の体制作りがそろって、本当に利用者が気持ちよく使っていける体制ができると読めるため、並びとしては、3ポツを最後にもってきて良いと感じた。
- ・ 取り組みたい内容として情報発信、必要なものとして安全や観光に関する様々な情報発信がかなり強く意識されていると感じたため、情報発信に関する項目を一つ立てても良いと感じた。
- ・ キャッチフレーズについて、希望なし。

(上川南部森林管理署)

- ・ 上川中部森林管理署からの意見は、南部森林管理署の意見も含めたものとして理解しており、追加意見は特になし。

(十勝西部森林管理署東大雪支署)

- ・ 情報発信が集約されれば、一般の人にも分かりやすいため検討をお願いしたい。
- ・ キャッチフレーズは意見なし。

(北海道開発局)

- ・ 質の高いエコツーリズムを核としたにぎわいのある国立公園は大切であるが、山の事

故が多く発生している状態であることから、安全に関する項目もあっても良いと感じた。

- ・ 今後の課題として、登山をはじめとした利用ルートなどを外国人を含む利用者に情報発信して周知徹底等を図り、無理な利用をさせないような体制づくりが必要と考える。
- ・ キャッチフレーズは意見なし。

（北海道運輸局）

- ・ 外国人観光客は今後も増える見込み。これまで日本に目が向いていなかった中国内陸部の人々やベトナムなど東南アジア各国の人々はまだ団体旅行が主流であるため、ターゲットを個人客にするのか団体客にするのかはバランスが必要ではないかと考える。
- ・ 利用者を誘客するために、インフラの整備については賛成であるが、利用者が増えて自然環境が破壊されることやインフラ整備で自然環境が破壊されることに懸念があるという話も聞くため、どれだけ利用者を増やすかという目標と、環境をどこまで守るかのバランスも必要になると考える。
- ・ 国立公園のなかの利用は登山になるが、十勝管内では、グランピングを中心とした旅行形態を進めているところがあり、一般の人が、手ぶらでグランピングを楽しむことを提案するところがこれから増えてくることが予想されることから、山麓で気軽にキャンプや景観を楽しむ人たちをターゲットにした整備も必要になってくると考える。
- ・ キャッチフレーズは、特に意見なし。

（かみふらの十勝岳観光協会）

- ・ 夏冬問わず、外国人が増えており、旧噴火口の中までサンダルで歩いて行く人もいる。
- ・ 登山道も現状で荒れてきているが、自然状態では斜面が崩れて山肌が剥き出しになる場所があったり、ササが山の上まで進入して高山植物が減少したり、自然環境の変化も懸念している。
- ・ 管理者不在の登山道については、みんなで整備するにしても、基盤を整えないと整備はできないため、まずは基盤を整えることを進めて行く必要がある。また、整備についてもボランティアばかりではできないため、予算の集め方についても検討が必要と考える。
- ・ 十勝岳では、登山道が不明瞭であり、看板や杭を打つだけでも申請がいるため、協議会であればある程度できることもあるのではないかと考えている。
- ・ 大雪山は、区域も広く、人数も多いため、観光や地域のことなど部会に分けて検討すれば、課題解決の進みが早くなるのではないかと。
- ・ 上富良野町では、ジオパークの取組などでは子どもを巻き込んでいる。山に関して

は現在、学校登山も行われていない状況であるため、まずは、子どもの力を親も巻き込んで借りたい。そのあたりの取組が自分たちでできそうなので、できる取組からやっていきたい。

- ・ 上富良野町から来た3名で朝、タウシュベツ橋を見てきた。大雪山は広くてこれまで行ったことがなかった。撮影した写真は素晴らしく今後上富良野の観光客の方に見せたい。同じ国立公園の他の地域のことを知る意味でも、協議会は必要だと思う。
- ・ キャッチフレーズは提案3がよい。

（ふらの観光協会）

- ・ キャッチフレーズは、提案2が良いと考える。
- ・ 観光の立場から極論を言えば、自然を守るだけの目的であれば人を入れないという施策を考えれば良いが、それでは目指す方向とは異なることもわかっており、観光客を受け入れて、日本で最初の国立公園として世界に見てほしいのであれば、そのための財源として、入山料や観光税といった考え方が必要と思う。
- ・ 観光経済で考え方に基づけば、受益者負担は最も重要な原則で、財源があることが全ての事業の基本。本協議会ではビジョンを検討しているが、ビジョンだけではダメ。受益者負担で先行的な取組をしている富士箱根伊豆国立公園のようにインバウンドにもPRできる大雪山にしていければと思っている。

（南富良野まちづくり観光協会）

- ・ キャッチフレーズについて、提案2のあとに、「大雪山」を付け加えてほしい。十勝方面の方はわからないかもしれないが、カムイミンタラが大雪山であることは、旭川では定着しており、神々の遊ぶという深い意味をもつものなので、「カムイミンタラ」はつかっていただき、文章の最後に大雪山と入れてほしい。
- ・ 早くビジョンを決めて、実際に取組を進めていただきたい。利用が増えることで温泉街やガイドが儲かっても、そのお金が直接地域や環境保全に回るとは思えないため、入山料を取って、そのまま環境保全に使う。また、遭難が起きたときに地域の対応が非常に大変という理由で、山岳利用について消極的になっている自治体も見受けられるため、入山料を使って支援体制をつくるなどモデルケースになれば良い。

（（株）りんゆう観光）

- ・ キャッチフレーズは、一般の目に触れることが多い。大雪山が世界に誇るものという認識をしてもらうため、また、まもり、活かしという我々がやらないといけないことが端的に記載されている、提案3が良いと思う。

（十勝バス（株））

- ・ キャッチフレーズは、「まもる」という表現により、利用者にマナーや環境に関することがわかってもらえるため、提案3が良いと思う。
- ・ 高校の学校登山で学生を登山口まで送迎することがあり、登山口までの林道が狭いことがあった。今後、インバウンド含め利用が増えることで、団体利用や学校登山のバスの送迎に対応した登山道や駐車場の整備も必要になってくる。また、登山者の力量に応じて、登山道を整備したり、保全対策を行ったりすることも必要と資料をみて感じた。

（北海道拓殖バス（株））

- ・ 要望となるが、帯広から旭川までバスが走っているが、三国峠の停留所に電波が通じにくいところがあり、災害等で道路が通行止めになった際に連絡がとれないことがあった。通信手段の整備についても今後検討していただきたい。また、通信設備は、登山中にも何かあった場合の対策としても有効であり、景観面、費用面もあるが検討してほしい。
- ・ キャッチフレーズは、提案2の文章の最後に「大雪山」と付けたものがよいと思う。

（十勝自然保護協会）

- ・ 字句修正は、細かな部分もあり、書面にて提出する。
- ・ （2）5ポツ文章中の「おもてなし」は違和感があるため、削除してほしい。また文章が複雑と感ずるため、「登山者の参画を得た維持管理を推進し」のみで十分と感ずるため、文章を単純化してほしい。
- ・ （4）2ポツ「また、それぞれの立場で抱える課題を～」の文章がわかりにくい。これも単純化してすっきりさせてほしい。

（北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授）

- ・ ビジョンがどういう位置付けがそもそも記述されていないことが問題であり、そのため、目指す姿が何を指すのかわからなくなっている。
- ・ 目指す姿について背景や課題、取組については、別途記述があるため、もう少し記載、体裁を整えていただきたい。項目ごとに文章の長いものがあったり、ポツの数が違ったりといったやむを得ない部分はあるにしても、全体として文章のスタイルを揃えると、読みやすく見やすく、頭に入りやすいものになると思う。
- ・ 全体を通して、目指す姿の中に、ビジョンの記載もあれば、具体的なアクションまでの記述もあり、項によって記述のレベルがバラバラになっている。これは、この文章がビジョンのみを記載するのか、具体的な施策まで含めて記載するものなのかという位置づけが不明確であることが原因。
- ・ （1）について共有することは大事であるが、「まもる」という概念が抜けていると思う。

- ・ (2) 大雪山グレードという固有の言葉よりは、大雪山グレードで大事にしている管理水準の考え方が記載されていないと、大雪山グレードが持つ元々の考え方が失われてしまうと考える。また、ビジョンを10年で達成するという目標にしているようだが、10年で荒廃が解消すれば良いが、それはあまりにも大変で無謀なことであり、このままの記述で良いのだろうかと思ってしまう。
- ・ 携帯トイレの普及によりし尿の問題が解決すると記述があるが、携帯トイレだけでし尿の問題は解決するものではないので、考え方も含めて表現を修正していただきたい。
- ・ (2) 5ポツ、(3) 4ポツのネットワークの記述は、(4) でまとめたほうが良いのではないかと思う。
- ・ (4) には、人材を育成することも追加で記述してほしい。
- ・ 全体的に登山のことが記述の中心になっており、観光のことに関する記述が不足している。これに関連して、国立公園内とその周辺地域との連携についても記述があってよいのではないかと思う。
- ・ キャッチフレーズは、提案3が良い。最終的に海外にむけても発信するときに、英訳にする必要があることも考えて選んだ方がよい。

(北海道大学大学院環境科学研究院 渡辺教授)

- ・ 誰に対して、何のために作っているのかわからない。
- ・ (1) に記載されている優れた価値の具体的内容は1ページで記述があるが、これは(3)と大きく結びついていて、ここにエコツーリズムという言葉を使うことに非常に違和感がある。
- ・ (1) に生物多様性を守り、未来に、後世に伝えたとあるが、現状のままの状態が目指すビジョンであってそれを伝えたいのか、それとも10、20年前の状況に戻して、もっと自然保護を強化した状態で伝えたいのか、わからない。現状を伝えるということが、本当に良いのかは考える必要がある。
- ・ (2) 「解消」と書くと、できなかったときにどうするのかという話になるので、「軽減」など、書き方を変えるのが現実的ではないかと考える。自然環境を保護や保全していくことを強調してほしい。
- ・ (3) 「エコツーリズム」の記述があるが、価値の部分で述べられていることはジオに関することであるため、大雪山の価値を伝えるのであれば、エコツーリズムではなく、ジオツーリズムになると考える。ただ、ジオツーリズムのみを記載することに支障があるのであれば、環境に優しいツーリズムということが言いたいことなのであろうから、そのように記載すればよいと思う。現在の記述を維持したいのであれば、エコツーリズムだけでなく、ジオツーリズムも併記しなければ受け入れがたい。
- ・ (4) 「みんなが」、「私たち」は一緒なのか。協議会の構成員のために作っていく

のか、国民のために作っていくのか。誰に対してか明確に記載すべき。仮に協議会の構成員のためにつくるものであるとすれば、国民にそっぽを向かれてしまうのではないか。

- ・ キャッチフレーズは、提案1の場合は「地域で」を「みんなで」に変更してほしい。「地域」とすると、環境省など国が含まれていないと思われるので、「みんなで」とするのがよい。Daisetsuzan は、「だいせつざん」なのか「たいせつざん」なのかわかるため、大事なメッセージだと思う。
- ・ キャッチフレーズの提案2は、カムイミントラは道民しかわからないため、最後に「大雪山」をつけるなら良い。
- ・ まもり、活かし、つなげるは、目指す姿（1）～（4）が全て網羅されているため、提案3が良い。ただし最後の「大雪山」は「Daisetsuzan」、「だいせつざん」にするのは一つの方法だと思う。

（北海道大学観光学高等研究センター 木村特任教授）

- ・ 誰に向けた、誰のためのビジョンなのか見えない。
- ・ 観光の関係者のみならず、裾野をどこまで広げるか決める必要がある。来訪者の視点をビジョンに加えるべきではないかと考える。
- ・ 東大雪地域の観光案内所では、大雪山に紐付いた情報が少ない。そのため、観光案内の方がこのビジョンをみて、理解して、外の人に伝えられるものなのかどうか、来訪者は理解出来るものなのかという視点がビジョン作りでは大事であると考え。
- ・ 裾野を広げるということは、観光案内の方が理解し伝えていくことが重要な視点であり、その先に、観光税や入山料の話があり、ビジョンを実現するために必要なものであれば観光税についても記述はあってよいが、そこがはっきりしていないので、誰に向けてという部分を明確にすべきと考える。
- ・ 具体的でない部分について「おもてなし」、「みんなで」、「観光者を増やす」はなんとなく理解できるが、その後のことを記述しないと、ぼやっとしてしまうと感じた。
- ・ キャッチフレーズについては、わかりやすさ、共有しやすいもので提案3がよいと考える。まもり、活かし、つなげようの言葉は、全て、今ある課題や考えていかなければならないことが紐付いているため、提案3が良いと考える。
- ・ 「世界に誇る」は、まずは、「北海道に誇る」や「地域が誇る」としたほうが良いと思う。地元で誇れていないのに、世界で誇るとして良いのかと思う部分があるため、個人的には、北海道や地域が誇るで良いと思う。
- ・ ビジョンに対してアクションプランが必要。（4）の実現に向けて、具体的に記述すべきと思った。

3) その他の部分について

(事務局)

- ・ 最後に1.(2)大雪山国立公園の歩み、2.大雪山国立公園の現状と課題、4.ビジョンの実現に向けてについて意見を伺いたい。

(十勝自然保護協会)

- ・ 2ページ歩みの4ポツ目の自然保護運動の盛り上がり、道路関係の記述もあるが、このような評価なのか考えるところがあるため、削除していただきたいと思っている。
- ・ 6, 8ページ、利用者負担の発想については、議論する場面がなく、賛否両論あると思うため、現時点では削除・保留すべきではと思う。
- ・ 6ページ2)利用拠点の低迷の1ポツ目、「たまに賑わいがあるかと思うとアジア系外国人」という表現には大変違和感がある。仮に欧米の人々であればこのような記述をするのだろうかと思う。アジア系外国人に失礼ではないかと思うため、記述を考えていただきたい。

(南富良野まちづくり観光協会)

- ・ 6ページの利用者負担の考え方は、賛否両論あるため削除すべきとのご意見があったが、協議会のこの先に非常に重要なことだと考えるため、記述は残していただきたい。

(上川総合振興局)

- ・ 5ページの(2)大雪山国立公園の課題には、(1)は、利用に関わる課題の記述であるが、第一に、気候変動による根本的な高山植生の変化やササの侵入がまず課題にあると思う。それを認識して、今後の対策について現状で良いのか、検討しなければならないので、この部分には、気候変動による植生の変化は触れた方がよいと思う。

(北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授)

- ・ 4.ビジョンの実現に向けての部分について、管理運営計画等の専門用語が色々出てくるので、できるだけわかりやすく、ビジョンが何のために策定するのかを含めて、本当は、冒頭に目的を記載したほうが良いと思う。
- ・ アクションプランは、管理運営計画につながることをわかりやすく記述していただきたい。
- ・ 4(2)「ビジョン達成目標年」の項について、アクションは評価できるが、ビジョンを評価するのは難しい。そのためには、評価する指標や水準が必要になる。10年を区切りにビジョンの見直しをするや、管理運営計画の中に位置付けてその中で見

直すことでも良いと思う。

- ・ 参考資料について、観光、地域産業、交通アクセスの課題について分析不足を感じる。関係機関が所有するデータ等も踏まえて、現状を整理して課題の抽出を行っていただきたい。

(事務局)

- ・ 6 ページ 2) 利用拠点の低迷の 1 ポツ目アジア系外国人の記載について、差別と結び付けて考えられてしまうことは、こちらの全く意図していないことであるため、表現は見直したい。
- ・ 本日発言しきれなかったご質問、ご意見は 3 月 6 日までに送付いただきたい。また、次回の準備会は年度明けを予定。いずれもメールで案内を差し上げたい。

3. 閉会